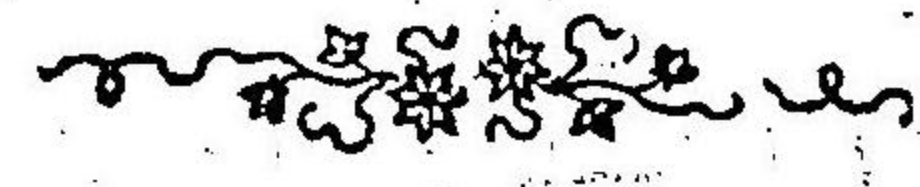


32  
301

NEW METHOD  
FOR  
LEARNING ENGLISH CONVERSATION



獨修  
英和新會話

日本 元木貞雄先生新纂



長島文昌堂  
杉本翰香堂  
榑原文盛堂  
發行



## 獨修英和新會話緒言

近時我日本國カ世界各國ト締盟條約ヲ結ビ永  
 對等國タルノ交リヲ爲スニ付テハ吾人モ亦國民  
 シテ又個人トシテ日常百般ノ事ニ外人トノ關  
 生シ勢ヒ彼レノ慣用セル外國語ヲ用テ之ニ接  
 ルヲ得ズ縱シ然ラザルモ吾人ガ日常ノ世務上外國  
 語ヲ以テ呼ビ又外國話ヲ以テ記ルセリ物品等ヲ取  
 引又ハ使用スルコト尠ナカラズ現ニ我ガ書籍商。舶  
 來品商等ニシテ毫モ英語ニ通セサルガ爲ニ自カラ  
 其日常取扱フ物品ノ性質良否ヲモ見分ルコト能ハズ  
 シテ自然營業上遺憾ノ思ヲ爲スコト多キノミナラス  
 奸滑ナル外商ノ欺ソ所ト爲ルモ立トコロニ之ヲ看  
 破スルコト能ハズシテ意外ノ損失ヲ蒙ルコト往々有  
 ルニ非ズヤ況ヤ英語ヲ識ラズシテ自カラ直チニ英  
 語國人ニ接シ又其文書ノ往復ヲモ爲サントスルニ  
 於テオヤ縱シ他ニ通辨人。英學者アルモ其不便  
 ナカラズトス

英語ノ殆ソド世界普通ノ語ト



(II)

ヲ須タズ而シテ之ヲ習熟スルノ必要目前ニ迫レル  
ト上ニ言ヘル事實ノ外、内地雜居ノ將サニ行ハレ  
ントスルニ由テ已ニ明カナレバ凡ソ我國人ニシテ  
各般ノ世務ニ當ル者ハ多少之ガ心掛ナカルベカラ  
ズト雖モ如何セシ僻陋ニ在ル者ハ適當ノ師ヲ得ル  
ト能ハズ都會ニ在ル者ハ多クハ繁務ニ從事シテ學  
修ノ暇アルト無ク空シク之ガ志ヲ懷キ而カモ年々  
之ヲ果スノ機ニ會セズシテ止マントスル者實ニ尠  
トシトセズ。是等ノ有志者ヲシテ成ルベク容易ニ  
且速成ニ所志ノ英語ヲ修得セシメ得ルノ策ハ唯教  
授方法宜シキヲ得タル英語獨修書ノ多ク世ニ出ル  
ニ在リトス

夫レ英語ノ學ケル發音ノ至難ニシテ文法ノ錯雜  
ナル絶テ歐語ニ縁ナキ本邦人ノ容易ニ修習スベカ  
ラザル所ニシテ而カモ關門ヲ通過セザレバ之ガ活  
用ノ境ニ入ルヲ得ザルモノナリ。今此至難ノ外國  
語ヲ以テ此異語ノ人ニ速修セシメントス眞ニ難事  
ト謂フベキナリ。加フルニ本邦人ノ忍耐ニ乏シク  
シテ事ニ倦ミ易キ癖性アルヲ以テス。故ニ之ガ教

(III)

授ノ方法最モ簡捷ニシテ宜シキヲ得ルニ非ザレバ  
其効ヲ舉ルト難シ。近來英語獨修ニ供スルノ書續  
々著ハレ且其編纂ノ方法漸ク改マレル者多キハ誠  
ニ喜ブベシト雖モ惜ムラクハ其稍ヤ見ルベキ者ハ  
全編洗滌ニ過ギ。否ラザレバ簡ニ失シテ肝要ノ順  
序ヲ缺ケルト往々見ル所ナリ。予ノ本書ヲ編ムヤ  
初メテ英語ノ門ニ入ラントスル者ヲ啓導セント欲  
スルニ出デタルモノニシテ未ダ以テ完全無缺ノ書  
ト爲スヲ得ズト雖モ彼ノ濫リニ類語廢句ヲ臚列シ  
テ英語活用ニ關スル指針ヲ示サズ而シテ何々會話  
篇ト稱スルモノニ比スレバ以テ英語初學者ノ獨修  
ニ供シテ坐右ノ師ト爲スニ足ラン歟

明治三十年十月

編者識



## 例言

1. 本書ハ未ダ全ク英語ヲ知ラザル者ヲ導キ成ルベク捷路ニ由テ日用ノ英語ヲ用フルヲ知リ直チニ英語國人ニ接シテ多少ノ談話ヲ試ムヲ得。且其簡單ナル實用文ヲモ解スルヲ得セシムル爲ニ編著セルモノトス。而シテ全卷ヲ分チテ發音。文法。會話ノ三編トシ且附スルニ日用書簡文例及ヒいゝに別日用類語表ヲ以テセリ
2. 故ニ全編通シテ本邦文ヲ以テ英字。英語ヲ説キ又本邦文ヲ先キニシテ英文ヲ對照排置シ且總テ通俗平易ク語調ヲ用キタリ
3. 英語ヲ用フルニハ先ツ其本源タル字母ノ稱呼ヨリ發音ノ規則ヲ知ラザルベカラズ。故ニ第一編ニハ各字母。語辭ノ發音規則ヨリ音節。語勢。文勢ニ關スル諸規則ヲ説示セリ
4. 英語ヲ活用セント欲セバ之ガ文法ヲ知ラザルベカラズ。故ニ第二編ニ於テ八品詞ノ區別ヨ

- リ其變化用方等ノ大要ヲ説示セリ
5. 第三編ニ於テハ本邦文ヲ本トシテ之ニ對スル日用英文ヲ列舉シ英語ヲ以テ簡單ナル對話ヲ爲スノ法ヲ示セリ。是レ實ニ本書ノ主要目的ナリ。而シテ其英文ノ構成ハ皆前第二編ニ説示セル文法ニ由ラザルモノ無ケレバ學者第三編ノ英文ヲ讀ムニ當リテ前第二編ノ文法ト參照セバ必ズ其用語方如何ヲ知ルヲアラン且其語上ニ附シタル假名モ亦前第一編ニ示セル發音法ニ基カザルハナキナリ
  6. 會話編中各章ノ冒頭ニハ必ズ新語ヲ掲ゲ悉ク之ヲ其章中ノ英文ニ應用シタレバ學者之ニ注意セバ其本文ヲ讀ムニ當リテ其各語ノ用方ヲ窺ヒ知ルヲ得ベシ
  7. 第三編即チ會話ノ後ニハ現今英語國ニ用キラル、通常往復文ノ語例。招待。紹介ノ文例。書簡文ノ書方及封筒上ノ宛書式ヲモ掲ゲタレバ學者宜シク注意スベシ
  8. 卷末ニ載ゲタルいろは別日用英語ハ學者先ツ



第二編ノ文法ヲ悟リ得タル後ニ其思ヒ當ル日本語ヲ英語ニ譯シ英文ヲ組立ルノ材料ニ供セシモノナレバ學者宣シク著者ノ真意ノ如クスベキナリ

9. 本書ニ載セタル英語ハ悉ク本邦假字ヲ附シタリ。是レ已ニ第一項ニ言ヘル如ク初學者ヲ導クガ爲ニスルモノナレバナリ而シテ其假名ヲ附スルヤ成ルベク英音ヲ正シク表示スルニ注意シタリト雖モ素ト本邦ニ無キ音ハ到底本邦假字ヲ以テ完全ニ表示スルヲ難ケレバ其不完全ナル所ハ學者親シク良師ニ就テ口ヅカラ之ヲ學ブノ外ナキモノトス

編者識

英和新會話

目次

第一編 英語發音法..... 1

第一章 字母..... 1

第二章 默字..... 23

第三章 綴音。節音。語勢..... 28

第四章 諸符號の解..... 50

第二編 文法初歩..... 57

第一章 名詞..... 57

第二章 働詞..... 76

第三章 形容詞..... 78

第四章 副詞..... 89

第五章 代名詞..... 93

第六章 前置詞..... 98

第七章 接續詞..... 99

第八章 間投詞..... 101

第九章 働詞の變化..... 102

第十章 規則働詞.....

第十一章 句.....



(VIII)

會話の部  
目次

會話初歩.....	1
國語の話.....	33
挨拶及他の養生を訪れる辭.....	42
天氣.....	47
年月日時の話.....	55
遊歩乗車の話.....	63
新聞紙の話.....	75
鐵道と旅行の話.....	78
旅行の話.....	87
旅館に於ての話.....	94
職業の話.....	110
東京の話.....	118
洗濯屋に於ての話.....	126
兩替店と銀行に於ての話.....	130
小間物店に於ての話.....	133
書籍店及び文房具店に於ての話.....	139
菓子屋と麵包屋に於ての話.....	143
鐵器店と利器店に於ての話.....	145

(IX)

服裝(女の)店と頭用小間物店に於ての話.....	150
菓料店に於ての話.....	155
玉器店と時計店に於ての話.....	158
呉服店に於ての話.....	162
靴屋に於ての話.....	170
裁縫店に於ての話.....	173
通信及び郵便局に於ての話.....	179
遊興賭戲の話.....	187
旅行荷物と税關の話.....	197
書翰の新書法.....	200
招待狀.....	203
紹介を求むる狀.....	205
爲換證券.....	206
領收證.....	207
書翰書風.....	208
封筒の宛書.....	209
いろは別日用語表.....	210

目次終



NEW METHOD  
FOR  
LEARNING ENGLISH CONVERSATION.

獨 修

英 和 新 會 話

第一編 英語發音法 (プロナンス Pronunciation)

第一章 字母 (アルファベツ Alphabets)

英語は字母なるもの有りて凡ての語辭みな之れを種々アルファベツに覆り合  
せて成る 其數二十六あり之れを アルファベツ レツターズ Alphabet Letters と云  
ひ母韻あり子韻あり又其書方に大小あり其稱へと共に之を示す  
と左の如し



Alphabet Letters.

大字	小字	大字	小字	大字	小字	大字	小字
A エー	a	H エイチ	h	O オー	o	V ヴー	v
B ビー	b	I アイ	i	P ピー	p	W ダブルユー	w
C シー	c	J シェー	j	Q キー	q	X エクス	x
D テー	d	K ケー	k	R アール	r	Y ワイ	y
E イー	e	L エル	l	S エス	s	Z ゼット 又はオー	z
F エフ	f	M エー	m	T テー	t		
G シー	g	N エヌ	n	U ユー	u		

此大小の兩形を印書形と云ひ書籍の印刷に用る字形にして所謂羅馬字なるが又之を斜めを傾むけて記したる文字を以太利文字と云ふなり

大字	小字	大字	小字	大字	小字
A エー	a	J シェー	j	S エス	s
B ビー	b	K ケー	k	T テー	t
C シー	c	L エル	l	U ユー	u

D テー	d	M エム	m	V ヴー	v
E イー	e	N エヌ	n	W ダブルユー	w
F エフ	f	O オー	o	X エクス	x
G シー	g	P ピー	p	Y ワイ	y
H エイチ	h	Q キー	q	Z ゼット 又はオー	z
I アイ	i	R アール	r		

此大小の兩形を筆書形と云ひ筆にて書記るすまき用る字形なり  
以上の如く大字小字の區別ある所以は大字は凡て文章の書き始め  
か又は地名人名等の如き固有名詞及び固有名詞より變形せる固有  
形容詞の綴始めの一字に必ず此字形を用るを例とし。小字は其餘の  
綴合せたる文字を記るすに用る字形とするなり  
猶此外に獨逸より化し來れる舊き英文字あれども略して載せず

母韻子韻の別

母韻 (Vowels)

エー    イー    エイ    オー    ユー  
a       e       i       o       u

此外 w と y を分通母韻 (Semi-vowels) と名け wet, (濕  
りたる) yet (猶ほ) 等の如く一綴音の中にて母韻の前に在るとき



は子音なれども <sup>ニ-</sup>new, (新らしき) <sup>エニ-</sup>any (或る) 等の如く語尾に在るときは母韻とす

子 韻 (Consonants)

ビ-	ズ-	ズ-	エフ	ジ-	エイチ	ジエ-	ケー	エル	エム	エヌ
b	c	d	f	g	h	j	k	l	m	n
ピ-	キ-	アール	エス	テー	ウ-	ダブル-	エクス	ワイ	ゼット	
p	q	r	s	t	v	w	x	y	z	

此廿一字の中 h, w, y の三字は場合に依て母韻の如く響くとあるものなり

單 韻 と 重 韻

以上廿六字の發音は皆口部機關の開閉に由て爲すものにして母韻は總て開きたる口を以て發し子韻は總て母韻と結合して音を發するものなり例へば <sup>エツト</sup>at, <sup>ミー</sup>me, <sup>イン</sup>in, <sup>ソー</sup>so, <sup>アス</sup>us 等の如し

母韻子韻に拘はらず二つ重なりて單一の音を發するものを連字音 (<sup>ディグラフ</sup>digraph) と云ふ例へば <sup>チク</sup>ch, <sup>シ</sup>sh, <sup>スズ</sup>th, <sup>ング</sup>ng, 及び <sup>ヘッド</sup>head (頭) の ea 等の如し

母韻の二つ重なりて發音するものを二重韻 (<sup>ディフソング</sup>Diphthong) と云ひ三つ重なりて發音するものを三重韻 (<sup>トリフソング</sup>Triphthong) と云ふ。

而して二重韻には二種の區別あり其兩母韻重なりて二様の音を發するものを正二重韻 (<sup>プロパー</sup>Proper <sup>ディフソング</sup>diphthong) と云ひ例へば <sup>ノイズ</sup>noise (騒音) の oi, <sup>アウト</sup>out (外に) の ou なる兩母韻が各々二

字二様に發音するが如し。又母韻二つ重なりて兩字一様に響くものを假二重母韻 (<sup>イムプロパー</sup>Improper <sup>ディフソング</sup>diphthong) と云ふ例へば <sup>ビート</sup>beat (打つ) の ea, <sup>ヘッド</sup>head (頭) の e, a なる兩母韻が二字一様に響くが如し

其外 <sup>エー</sup>ae, <sup>イー</sup>oe, <sup>フ</sup>ff, <sup>フル</sup>ll, <sup>フル</sup>ll, <sup>フル</sup>ll の重文字も亦斯く結び合せて各々一音を爲すものなり。又序でに示し置くべきは <sup>エンド</sup>&, <sup>エツトセテラ</sup>etc. 等にして & は文字に非ず印刷上の便宜に依り作り用る符號にして <sup>エンド</sup>and (及び) と云へる詞に代用するものなり。etc. は <sup>エツト</sup>et <sup>セツテラ</sup>cetera と云へる羅句語に出で英語の <sup>エンド</sup>and <sup>ソー</sup>so <sup>ゾルス</sup>forth (云々等) に相當する意味を有する辭の略字にして英語中常に「何々等」と云へる意の處に用るものなり

母 韻 の 正 式 音 と 不 定 音

母韻には正式音と不定音ありて各々長短變化あり其正式音を <sup>レギュラー</sup>Regular <sup>サウンド</sup>sounds と云ひ不定音を <sup>オツケーショナル</sup>Occasional <sup>サウンド</sup>sounds と云ふ今之を説き示すと下の如し

<sup>エー</sup>A

(エ、ア、オ)

a の正式長音は <sup>ベーキ</sup>bāke (麵包等を焼く), <sup>ケーム</sup>cāme (來りし) 等の如く長く發音し其短音は <sup>バック</sup>back (後ろに), <sup>キャット</sup>cat (猫) 等の如く短かく發音す



其不定音……「ア-」を響く例へば <sup>バール</sup> **bär** (鐵棒), <sup>フザー</sup> **fäther** (父) 等の如し。……其短かきは「ア」を響く例へば <sup>フスト</sup> **fäst** (速かなる), <sup>ラスト</sup> **last** (終りの) 等の如し……廣音を爲りて「オー」を響くとあり例へば <sup>ボール</sup> **ball** (球), <sup>ホール</sup> **hall** (堂) 等の如し……其短音にて「オ」を響くとあり例へば <sup>フワット</sup> **what** (何), <sup>クォールター</sup> **quarter** (四分の一) 等の如し……又 **r**, 又は **ir** の前に在りて「エ-」の廣音を爲るとあり例へば <sup>ケア</sup> **câre** (注意), <sup>ヘア</sup> **hâir** (髪), <sup>チエア</sup> **châir** (椅子) 等の如し

**E**

(イ、エ、ア)

**e** の正式長音は「イー」を響く例へば <sup>ミート</sup> **mête** (測る), <sup>ソーリン</sup> **serêne** (晴明なる) 等の如し……其短音は「エ」を響く例へば <sup>メット</sup> **mêt** (出會ひし), <sup>レベ</sup> **rebêl** (反逆) 等の如し  
其不定音……上の **câre** に於ける **â** の如く長く「エ-」を響くとあり例へば <sup>ケア</sup> **thêir** (彼等の), <sup>フワエア</sup> **whêre** (其處に。何處に) 等の如し……**r** の前に在りて **u** の短音に似たる「ア」の如き音を發するとあり例へば <sup>ホアル</sup> **hêr** (彼女の), <sup>プリゾー</sup> **prefêr** (擇ぶ) 等の如し

**I, O, U.**

(イ、イー、ア) (オ、ウ、ア) (ウ、ア)

**i, o, u** の正式なる長音と短音……例へば <sup>バイト</sup> **bîte** (咬む) は **i** の長音「**i**」, <sup>アイ</sup> <sup>ピット</sup> **bit** (些) は **i** の短音「**i**」, <sup>イ</sup> <sup>ドール</sup> **dôle** (配當物) は **o** の長音「**o**」, <sup>オー</sup> <sup>ドル</sup> **döll** (人形) は **o** の短音「**o**」, <sup>オ</sup> <sup>ゾーン</sup> **tûne** (音調) は **u** の長音

音「**ü**」, <sup>ユ-</sup> <sup>ダン</sup> **tûn** (一噸の重量) は **u** の短音「**ü**」なり

其不定音……**i** が **e** の長音と同じ長音を爲すとあり例へば <sup>フーグ</sup> **fä-** <sup>イー</sup> <sup>メリオン</sup> **tigue** (勞倦) の **i**, <sup>イー</sup> **marine** (海に屬する) の **i** の如し……

其短音にして短かき **u** に似たる音を發すとあり例へば <sup>ゾルフ</sup> **bird** (鳥) の **i**, <sup>ア</sup> <sup>ゾレスト</sup> **fîrst** (第一) の **i** の如し

**o** が **u** の短音の如く短かく「ア」を響くとあり例へば <sup>ダヴ</sup> **dôve** (鳩), <sup>サン</sup> **sôn** (子息) の **ô** の如し……**oo** の如き長き音を發するとあり

例へば <sup>ムーヴ</sup> **move** (動く), <sup>ブルーヴ</sup> **prove** (證據立る) 等の如し……又 <sup>ウ</sup> **oo** の短かき音を發するとあり例へば <sup>ウルフ</sup> **wolf** (狼), <sup>ウマン</sup> **woman** (婦人)

等の如し……又其廣音にして「オー」を發音するとあり例へば <sup>ノール</sup> **nôr** **th** (北), <sup>ソート</sup> **sôrt** (種類) 等の如し……**o** が二つ重なりて「ウ-」の

長音を爲すとあり例へば <sup>ブーム</sup> **oom** (帆桁), <sup>ルーム</sup> **room** (部屋) 等の如し……其同音にして短かく響くとあり例へば <sup>ブック</sup> **book** (書籍),

<sup>グッド</sup> **good** (良き) 等の如し  
**u** が短かき **oo** の短音を發するとあり例へば <sup>フル</sup> **full** (充ちたる),

<sup>プル</sup> **pull** (引く) 等の如し……又其前に **r** の字が來りて長き **oo** に似たる長音を發するとあり例へば <sup>ロード</sup> **rude** (粗暴なる), <sup>ルービー</sup> **ruby** (紅

寶石), <sup>ルーラル</sup> **rural** (田舎の) 等の如し

注 意

長音の **u** が二綴り以上の詞にあるときは殆んど短音の **yoo** と同



じ音に爲るとあり例へば educate (教育する) の u, nature

(天然)の u の如し

ate と綴りたる文字が二綴り以上の詞の尾りに在りて其長き a が

短かく詰るときは殆んど let の e に等しき短音と爲る例へば

adequate (充分なる), disconsolate (不愉快なる), in-

veterate (久しく経たる)の ate の如し

e の長音が或る詞に在りて短かく迫りて響くときは殆んど pit に

於ける i の短音に等しく爲るとあり例へば feet (二尺以上)の音は

fit (適當する)と殆んど相似たるが如し……又此 i の短音は語尾

に在る y の短音と同一なり例へば glory (光榮)の如し

hall と綴りたる場合の廣音 a の短かく響くものは即ち holly

(神聖なる)と綴れる詞の短音 o に等しきものにして又 what

(何)と綴れる詞の短音 o に同じ

pool (池)と云ふ詞に於ける如く長音 oo が或る詞に於て

短かく迫りて響くときは pull (引く), full (充ちたる)等の如

き詞に於ける短音 u に等しく又 good (好き), wool (絨毛)

等の詞に於ける短音 oo に同じ

not (あらぬ)に於ける如き o の短音が s, th, ng の文字の

前に在るときは稍々長く響く例へば cross (十字形), broth (肉

羹), belong (屬する)等の如し

oi と oy の二重母韻は孰れも同一の發音を爲す例へば join (結

び付る), joy (喜悅)の oi, oy の如し

ou と ow なる二重母韻も亦同じ様に發音す例へば house (家),

sound (音), how (如何に), now (今)の ou, ow の如

し但し語尾に用る ous に於ける ou は二重母韻に非ざるが故

に皆 us の如く發音す例へば pious (信心なる), glorious

(光榮なる)に於ける ous のごさし……又 ou が「ア」「ウ」と響

き又は「オ」と發音し。ow が「オー」と長く響くとあり例へば

enough (充分なる), soup (羹汁), cough (咳), endow

(賦與する)等の如し

一綴りの詞に用る ai と ay なる二重母韻は正式長音の ā と

同じ音を爲す例へば bait (餌), laid (置きし)の ai, say

(云ふ), clay (粘土)の ay の如し。但し ai が語尾の n の前

に在るときは其 a の音が殆んど黙字の如く爲りて響かず例へば

captain (隊長。船長), certain (確かなる)等の ai の如し

au と aw なる二重母韻は fall (落る)と云へる詞の廣音 a に

等しき音を發す例へば cause (原因)の au, saw (見し。鋸で

切る)の aw の如し又 au は「ア」と短かく響くもあり又「エー」

と長く響くもあり例へば aunt (伯母)の au, gauge (量る)の

au の如し

eau と ew は beauty (美麗), new (新らしき)に於ける如

く長き u に等しく。ey は valley (谷)に於ける如く短かき y



に等しき音を爲す。其外 **ieu, iew** も亦長き **ū** に等しき音を發す例へば **lieutenant** (副將), **review** (復閱) 等の如し

**ea, ee, ei, ie** の二重韻は **ē** の長音に等しき音を發す例へば **near** (近き) の **ea**, **meet** (出會ふ) の **ee**, **seize** (捉へる) の **ei**, **grieve** (憂へる) の **ie** の如し

**oa** なる二重母韻は **o** の長音と同じく「カー」の音を發す例へば **coal** (石炭), **broad** (巾廣き) 等の如し.....**oe** の二重韻も亦同じく「カー」に響く例へば **foe** (仇敵), **goes** (往く) 等の如し但し

**oe** は **oo** の如く長く響くとあるなり例へば **canoe** (鑿木舟), **toe** (足趾) 等の如し。其外 **ē** の如く響く場合あれども **œ** 一文字の如く書すなり例へば **foetus** (胎兒), **foeces** (糞) 等の如し

一綴り詞の中に綴り合せたる母韻は直ちに其後に一の子韻を **e** の黙字が繼て來るときは凡て長く響く例へば **cake** (麵餅), **here** (此處に), **mite** (微蟲類), **nose** (鼻), **june** (六月) 等の如し。但し **v** の文字其後に來るときは此限りにあらず例へば **dove** (鳩), **love** (愛戀) の **o**, **give** (與へる) の **i** の如きは **ve** の前に在りて短かき發音を爲すが如し

**W**      &      **Y**  
(ウ)                      (イ)

**w** と **y** は前に云へる如く場合を依て或は母韻を爲り或は子韻を

も爲る文字ゆへ之を名けて分通母韻とも半母韻とも唱ふ... **w** は通常「ウ」の音を發す例へば **wet** (濕りたる), **wit** (頓智), **dew** (露) 等の如し.....**w** が **h** の前に置かれたるときは恰かも **h** の前に在るが如き響きを爲す例へば **what** (何), **who** (誰) 等の如し...  
**y** は長き音なるときは「アイ」に響き短き音なるときは「イ」又は「ア」に響く其音種々あり第一は長き「イー」と短かき「エ」と相合するが如くは響く場合あり例へば **yet** (猶), **yes** (然り) 等の如し。第二は直ちに子韻の後に在りて「アイ」の長音を發す例へば **cry** (泣く), **fly** (飛ぶ) 等の如し。第三は語頭に在りては **e, o** 等の母韻に連結して「イイ」, 「イウ」, 「イア」等の音を發し綴りの中ば又は語尾に在て母韻又は子韻に連結して「イ」の短音を發するとあり例へば **year** (年), **you** (汝), **young** (若き), **crystal** (水晶), **dewy** (露多き) 等の如し。第四は短かく「ア」の如く響くとあり例へば **myrrh** (没藥) 等の如き是なり

**B**      &      **P**  
(ブ)                      (プ)

**b** と **p** は一はマピアベホに通じ一はマピアベホに通じ同じく唇を以て發する音にして只 **b** は聲音に發し **p** は氣息を發するの差あるのみ例へば **bed** (寢床), **beef** (牛肉), **black** (黒き), **pet** (愛飼する物), **people** (人民), **plant** (植物) 等の如し



<sup>デー</sup>**D** と <sup>デー</sup>**T**  
(ド) (ト)

**d** と **t** は共に相似たる齒韻にして孰れも前面なる上齒の齧<sup>キ</sup>に舌頭を押當て、發する音なるが唯 **t** は囁<sup>キ</sup>齒韻にしてマチツテトに通じ **d** は亮音にしてダヂツテフに通ずるの差あり

**d** は通常母韻を結び付て「テ」と「ド」の音を發す例へば <sup>デッド</sup>**dead** (死したる), <sup>ダイド</sup>**died** (死せし), <sup>デフー</sup>**differ** (異なる) 等の如し……**d** の音は **l** 又は **r** の前<sup>ニ</sup>在るときは殊に短かく「ド」と響く例へば <sup>ドロ</sup>**draw** (曳く。手形を振出す), <sup>ドリンク</sup>**drink** (飲む) 等の如し……**ed** の連字が語尾に在りて其前に **p, f, k, s, x, sh, th** の文字あるときは **d** は **t** の如く響く例へば <sup>チョップト</sup>**chopped** (細斷せし), <sup>クワット</sup>**quaffed** (大飲せし), <sup>クラックト</sup>**cracked** (破裂せし), <sup>クロスト</sup>**crossed** (海河杯を渡りし), <sup>ミグスト</sup>**mixed** (混合せし), <sup>スプラント</sup>**splashed** (水を濺<sup>カ</sup>かせし), <sup>ベ</sup>**bathed** (浴<sup>カ</sup>せし) 等の如し……語尾に於て **d** の後<sup>ニ</sup> **ge** の文字あるときは其 **d** と **g** が二つ連結して短かく「ヂ」の響きを發す例へば <sup>ベツヂ</sup>**badge** (記号), <sup>ヘツヂ</sup>**hedge** (生垣), <sup>ロッヂ</sup>**lodge** (宿所) 等の如し

**t** は之と母韻の綴り合せ方に依てマチツテトの音を發す例へば <sup>テアン</sup>**tan** (皮を柔<sup>ク</sup>す), <sup>テンドー</sup>**tender** (優<sup>ク</sup>しき), <sup>トーテス</sup>**tortoise** (龜) 等の如し……**t** が **i** の前に在て他の母韻が其後に來るときは **t** が **i** と連合して <sup>シ</sup>**sh** の音を發す例へば <sup>ネーション</sup>**nation** (國民), <sup>パーシャル</sup>**partial** (偏りたる),

<sup>パーシエンス</sup>**patience** (耐忍) 等の如し……然れども **t** の前に **s** 又は **x** が來るときは **t** と其次の **i** が連合して **ti** (テ) の音を發す例へば <sup>バスティアン</sup>**bastion** (鋒頭岩), <sup>クリスチアン</sup>**Christian** (基督教徒), <sup>ミクスティアン</sup>**mixture** (混合) 等の如し

<sup>エフ</sup>**F** と <sup>ヴ</sup>**V**  
(フ) (ヴ)

**f** と **v** は共に上齒を下唇に當て、發する唇韻なれども唯 **f** は氣息<sup>キ</sup>を發するに止まり **v** は氣息と共<sup>ニ</sup>聲音に發するの差あり……**f** は **l** 又は **r** の前<sup>ニ</sup>在るときは短かき「フ」の音を發す例へば <sup>フレイム</sup>**flame** (火焰), <sup>フリスク</sup>**frisk** (跳戯), 等の如し……又 **v** の如く響く一の場合あり例へば <sup>ホヴ</sup>**of** (付て……の) の如し **v** は「ヴ」と響くのみにて別に異なりたる音なしと雖も其「ヴ」の音たる本邦に無き音にして初學者の知るに苦しむ所なれば少しく茲に其音の生ずる所を解説せん抑も **v** の音は **b** 「ブ」の音と相似たる様なれども全く異なり **b** の音は上下の唇を合せて生ずる音なれども **v** の音は唇を合すを要せず下唇の上に上齒を當て氣息<sup>キ</sup>と共<sup>ニ</sup>聲を出すときは分明に「ヴ」の音を出すを得べし是れ即ち **v** の音なり故に **v** の文字を以て綴れる發音に **ベ** **ピ** **フ** **ベ** **ホ** の假名を附して之を表するは的當にあらず然<sup>レ</sup>とて從來本邦に此音を表すべき文字なきを以て姑らく此音を表するに近しと思へる「ヴ」の假字を用るなり讀者須らく此に意を用ひて習得すべし其例 <sup>ヴァン</sup>**van** (先鋒。貨車), <sup>ヴェンチャー</sup>**venture**



(敢て危険を冒す), <sup>ヴァイオリン</sup>violin (胡弓)等の如し

<sup>エス</sup>**S** と <sup>ゼット</sup>**Z**  
(ス) (ズ)

s と z も亦共に上下の齒頭を合せて發する齒韻にして唯 s は氣息のみを「ス」と發する囁き音にして z は氣息と共に聲を發する亮音なるの差あるのみなり

s の正音は「ス」と響く場合に在り例へば <sup>サンド</sup>sand (砂), <sup>センド</sup>send (遣はす), <sup>レス</sup>less (猶少なき)等の如し……然れども z の如く「ズ」と濁りて響く場合あり例へば <sup>ライズ</sup>rise (日が昇る。起まる), <sup>チョーズ</sup>choose (擇ぶ), <sup>ルーズ</sup>lose (損失する)等の如し……又 sh の如く鋭く響くとあり例へば <sup>シュア</sup>sure (確かなる), <sup>シュガー</sup>sugar (砂糖), <sup>ミッション</sup>mission (使命)等の如し……又 zh の如く濁りたる鋭音を發するもあり例へば <sup>オーシア</sup>osier (杞柳), <sup>プレジャー</sup>pleasure (快樂), <sup>トレジャー</sup>treasure (財寶)等の如し

z は「ズ」と響くを正音とす例へば <sup>メーズ</sup>maze (曲路), <sup>ズィンク</sup>zinc (亜鉛)

<sup>ゼロ</sup>zero (零點)等の如し……又綴りの中間に在りて zh の如く響く

とあり例へば <sup>アズア</sup>azure (空色)の如し

<sup>シー</sup>**C**

(ス、ク)

c は s の如く「ス」と響くときは齒音に屬し k の如く「ク」と響くときは顎韻に屬す此文字は凡て語尾に在るときは a, o, u, l, r

t の文字の前に在るときは k の如く「ク」と剛く響く例へば <sup>ピ</sup>pu-<sup>ブリック</sup>blic (公けなる), <sup>キューブ</sup>cubic (立方), <sup>カン</sup>can (能ふ), <sup>カム</sup>come (來る), <sup>カット</sup>cut (切る), <sup>クラブ</sup>club (棍棒), <sup>クローブ</sup>crop (作物の収穫), <sup>アクト</sup>act (舉動)等の如し……e, i, y なる文字の前に在るときは s の如く柔かく「ス」と響く例へば <sup>セル</sup>cell (孔子牢舎の房), <sup>シティ</sup>city (都市), <sup>シリンドル</sup>cylinder (圓筒)等の如し……e の後に e 又は i を連結して他の母韻の前に在るときは <sup>シ</sup>sh の如き鋭音を發す例へば <sup>オーシャン</sup>ocean (大洋), <sup>ソーシヤル</sup>social (愛想の好き), <sup>グレース</sup>gracious (溫雅なる)等の如し

<sup>ジー</sup>**G**

(ジ、グ)

g は <sup>グ</sup>g の剛音と <sup>ジ</sup>g の柔音ありて剛音なるときは母韻の合せ方に依りガキクゲゴに通じて齶音に屬し柔音なるときは又ギ、ジ、ズ、に通じて齒韻に屬す……通例 a, o, u の前に在るときは「カ」の剛音にして母韻の合せ方に依り種々に響く例へば a の前に在るときは a と連合して <sup>ゲーム</sup>game (獲物), <sup>ゲート</sup>gate (門) の如く「ゲ」の音を爲し。o の前に在るときは <sup>ゴー</sup>go (行く), <sup>ゴーン</sup>gone (行た) の如く「ゴ」の音を發し。u の前に在るときは <sup>ガム</sup>gum (談話), <sup>ガン</sup>gun (銃砲) の如く「ガ」の音を爲すが如し……又 g が e, i, y の前に在るときも <sup>ゲット</sup>get (得る), <sup>ギフト</sup>gift (贈物), <sup>フォギー</sup>foggy (霧深き) の如く種々剛音を發すと雖も此場合に於ては多くは j (ジ) の如き柔音を發す例へば <sup>ジュム</sup>gem (萌芽), <sup>ギン</sup>gin (杜松子酒), <sup>ジイヴス</sup>gyves (足枷)等



の如し……其他 **l**, 又は **r** の前に在るときは「ク」の短かき剛音を發す例へば <sup>グリムマー</sup> **glimmer** (光輝), <sup>グラスプ</sup> **grasp** (握む) 等の如し……又語尾に在るときは軽く「ク」の剛音を發す例へば <sup>フログ</sup> **frog** (蛙), <sup>ブリ</sup> **bring** (持來る) 等の如し……又 **g** の次に **e** を以て語尾を爲すときは <sup>フリンジ</sup> **fringe** (總?), <sup>オプライジ</sup> **oblige** (強て爲させる) 等の如く「ヅ」の響きを爲し……**g** の次に **ue** の文字を以て語尾を爲すときは短かき「ク」の剛音を爲す例へば <sup>ヴェーグ</sup> **vague** (漠然たる), <sup>リーグ</sup> **league** (三哩に當る里程の名) 等の如し……**g** の次に **ia** を連結したる文字が語頭に在るときは次の母韻の綴り合せ方に依て「ガ」又は「ゴ」の剛音を發す例へば <sup>ガストリー</sup> **ghastly** (顔色の青ざめたる), <sup>ゴスト</sup> **ghost** (幽霊) 等の如し……又此連字が語尾に在るときは或は **f** の如く「フ」の音を發し或は「ク」の剛音を爲すとあり例へば <sup>ラフ</sup> **laugh** (笑ふ), <sup>ボルグ</sup> **burgh** (都府) 等の如し

エイチ  
**H**

**h** の單音は假字を以て表し難し何となれば此子韻の單音は唯口を開き毫も唇舌を用ひずして單に氣息を吐出するに過ぎざるものなればなり故に假字にて言へば **f** の「フ」に似たるが如くなれども全く之と異なれり唯讀者自から口唇喉頭を開て充分に氣息を吐出せば自然 **h** の音の出る所を知るならん然れども此文字は <sup>ア</sup> **a**, <sup>イ</sup> **i**, <sup>ユ</sup> **u**, **e**, **o** の母韻の綴り合せ方に依てハヒフヘホの五音を爲す其發

音の例を舉れば <sup>ハット</sup> **hat** (帽子), <sup>ヘン</sup> **hen** (牝雞), <sup>ヒンジ</sup> **hinge** 蝶番, <sup>ホップ</sup> **hop** (跳する), <sup>ハンター</sup> **hunter** (獵人) 等の如しと雖も此文字が語の綴り初めに在るときは多くは默字を爲りて音を發せず其例は下の默字部に就て見るべし

ジュー  
**J**  
(ジ)

**j** は **g** の柔音「ヅ」又は **z** に等しき「ヅ」の音を發してジャ.ジ.ジュ.ジエ.ジョの五音に通じ母韻の綴り合せ方に依て此類の發音を爲す例へば <sup>ジャール</sup> **jar** (壺), <sup>ジエスト</sup> **jest** (戯談), <sup>ジングル</sup> **jingle** (戯), <sup>ジョーク</sup> **joke** (滑稽), <sup>ジューム</sup> **jumble** (亂雜する) 等の如し

ケー  
**K**  
(ク)

**k** は唯「ク」の一音を有して母韻の合せ方に依りカキクケコ<sup>の</sup>五音に通ず畢<sup>り</sup> **k** は **c** と互ひに用る文字にて其所以は母音 **a**, **o**, **u** の前に **o** を綴り合せて用れば <sup>ケン</sup> **can** (能ふ), <sup>カム</sup> **come** (來る), <sup>キューア</sup> **cure** (癒す) 等の如く「ク」の音を生ずれども **c**, **i**, **y** の前に **c** を綴り合すれば <sup>セントル</sup> **center** (中心), <sup>オドル</sup> **cinder** (燒灰), <sup>ファンシー</sup> **fancy** (想像) 等の如く **s** (ス) の音を爲りて「ク」の音を生ぜざる故斯る場合に **k** を用ひて **c** の代りに綴り合せ <sup>ケプト</sup> **kept** (保ちし), <sup>キング</sup> **king** (國王), <sup>シェーキー</sup> **shaky** (震動勝ちなる) 等の如く「ク」の音を以て響く詞を成すなり



エル  
**L**  
(ル)

**l** は唯「ル」の音のみを有して母韻の綴り合せ方に依りラリルレロの五韻に通ず而して其「ル」の發音は恰かも **r** の「ル」に似たる様に思ふなれども然らず其所以は **l** の音は舌頭を上齒と上顎の間成るべく齒の方に寄せて壓着當て「ル」を發音すものにして **r** は上顎の奥の方に舌を當てて發する音なり讀者自から之をば試み必ず **l** と **r** の「ル」の音を生ずる所大に異なるを知らん

**l** が語頭の綴り初めよ在るときは之に次て來る母韻よ連りて **lad** (ラット 少壯者), **let** (フット 許す), **list** (リスト 目錄), **long** (ロング 長き), **lungs** (ラングス 肺臓) 等の如く種々に發音すも雖も語尾に近く子韻の次に在るときは分明に「ル」の單音を發す例へば **little** (リトル 微少の), **cattle** (カトル 家畜), **table** (アブル 机) 等の如し

エム  
**M**  
(ム)

**m** の音には別に變化なく如何なる場合にても「ム」と響き母韻の綴り合せ方に依てマミムメモの五音に通ずるなり例へば **man** (マン 人。但一人を云), **men** (メン 人。但二人以上を云), **mint** (ミント 造幣所), **moon** (ムーン 月輪), **money** (マネー 貨幣) 等の如し

エヌ  
**N**  
(ヌ)

**n** は鼻に係りて「ン」又は「ヌ」の音を發し母韻の綴り合せ方に依て

ナニヌネノの五音に通じ **k** (ク) 又は剛音なる **e** (ク) の前に在るときは「ン」の短かき音を發す然るときは字下に水平線を附し **kn** の如くに標示す其例 **name** (ネーム 名), **need** (ニード 必要), **nipple** (ニツプル 乳頭), **net** (ネット 網), **nut** (ナット 尻), **link** (リンク 鎖の環), **zinc** (ジンク 亜鉛) 等の如し

エー  
**Q**  
(ク)

**q** は實に **k** の如き「ク」の音を有する文字なれ共一字を加へて多くは **kw** (クウ) と發音す例へば **quantity** (クワイティ 量), **queen** (クイーン 女王), **quiet** (クワイエット 静穩なる) 等の如し……然れども佛蘭西語より脱化し來れる語には **qu** が單に「ク」とのみ短かく響くものあり例へば **coquet** (コーケット 媚る), **liquor** (リコトル 酒類) 等の如し

アール  
**R**  
(ル)

**r** は「ル」の音を發する文字にして母韻の合せ方に依りラリルレロの五音に通用す但し其「ル」の音の生じ方に就ては既に **l** の部に於て解説したれば讀者宜しく兩字の音の差別に注意して彼此を混同する勿れ

**r** の通常音は例へば **range** (レンジ 並續き), **recite** (リーサイト 暗誦する), **trip** (トリップ 快歩する), **form** (フォルム 形状。形作る), **round** (ラウンド 圓形なる), **run** (ラン 走る) 等の如し……然るに或る語の尾りに於て **ron**



と緩れるを恰かも <sup>アーン</sup>urn と發音するが如く云ふ者あり是は正しき發音法に非ざれども英語國人の往々用る所なれば心得置くべき事なり例へば <sup>エプラン</sup>apron (前掛け)を <sup>エパーン</sup>apurn の如くに云ひ <sup>ア・ロン</sup>iron (鐵)を <sup>アイアン</sup>urn の如く響かすこゝは是なり

<sup>エクス</sup>  
**X**  
(クス、ズ)

x には三種の發音あり即ち第一は ks (クス) と響き。第二は gz (グズ) と響き。第三は z (ズ) と響くもの是れなり例へば <sup>エグセプト</sup>except (除く), <sup>ミクスチュア</sup>mixture (混合物), <sup>エグザクト</sup>exact (丁度), <sup>エグザミン</sup>examine (試験又は検査する), <sup>ザントー</sup>xantho (蟹類の一屬), <sup>サイログラフ</sup>xylographer (彫木師)等の如し

<sup>チーエイチ</sup>  
**CH**  
(チ、ク、シ)

ch と緩りたる連字には三種の音あり第一は「チ」と短かく響く例へば <sup>チャーチ</sup>church (基督教禮拜堂), <sup>パーチ</sup>perch (鳥の栖木)等の如し。第二は k (ク) と響く例へば <sup>カラクトル</sup>character (性質、品行), <sup>クロロ</sup>chloroform (麻醉藥)等の如し。第三は sh (シュ) と響く例へば <sup>マ</sup>machine (機械), <sup>シンドリア</sup>chandelier (枝燈)等の如し

<sup>ピーエイチ</sup>  
**PH**  
(フ、ヴ)

ph と緩りたる連字には二種の音あり第一は f (フ) の如く響く例

へば <sup>フィジシャン</sup>physician (醫師), <sup>フィロソフィー</sup>philosophy (理學)等の如し。第二は v (ヴ) の如く響く例へば <sup>ネプュー</sup>nephew (甥), <sup>フィアル</sup>phial (小壺), <sup>ステヴン</sup>Stephen (人名) の如し

<sup>エスシー</sup>  
**SC**  
(スク、ス)

sc と緩りたる連字は a, o, u, r の前に在るときは sk と響く例へば <sup>スケール</sup>scale (鱗、秤), <sup>スコープ</sup>scope (標的), <sup>スカルプトル</sup>sculptor (彫刻師), <sup>スクロール</sup>scroll (卷物)等の如し。然れども e, i, y の前に在るときは s のみ響く例へば <sup>シーン</sup>scene (景色), <sup>セプトル</sup>scepter (笏), <sup>シズルズ</sup>scissors (剪刀), <sup>サイエンス</sup>science (學術), <sup>サイジャン</sup>Scythian (サイジヤ人)等の如し

<sup>エスエイチ</sup>  
**SH**  
(シ)

sh の連字は語類又は綴りの中間に在るときは「シュ」の音に本づいて母韻の合せ方に依り種々の鋭音を發す例へば <sup>シャル</sup>shall (當さに...すべし), <sup>シェル</sup>shell (貝殻), <sup>シップ</sup>ship (三桅船), <sup>ショップ</sup>shop (舗), <sup>アシェームド</sup>ashamed (愧れたる), <sup>アシェズ</sup>ashes (灰), <sup>マーシャル</sup>marshal (將軍)等の如し.....sh が語尾に在るときは其前に在る文字の他なるに拘はらず「ショ」の音を以て終る例へば <sup>カシ</sup>cash (正金), <sup>セルフィッシュ</sup>selfish (我慾なる), <sup>ガシ</sup>gush (迸る), <sup>スラシ</sup>thrush (鶉)等の如し



TH  
(ス、ズ、ト)

th の連字には三種の音あり第一は「ス」の如く響くもの。第二は「ズ」の如く響くもの。第三は t「ト」の如く響くもの是れなり但し此第一第二の音は實は「ス」「ズ」にあらずして假字を以て表し難し仍て其音の生ずる所を讀かんに兩者とも齒と舌の働きに由て生ずる音にして「ス」に似たる清音の方は上下の前齒の間に舌頭を附て氣息\*を出せば容易に發し他人より聽けば恰かも s (ス) の音を爲すが如くにして而かも全く異なれり。又其濁音の方は舌頭を上齒の裏へ附けて氣息\*と共に聲を出せば正しく發するなり而して其濁音なるときは th の如く記して符號と爲す

th の清音は多くは r の前に在るか又は語尾に置かれたる時に在り例へば three 三つ, thrive (繁榮する), throat (咽喉), bath (入浴), cloth (羅紗), health (健康) 等の如し。然れども語尾に在る th が其前なる綴字の音勢に依て ts (ツ) に似たる音を發する場合あり例へば fifth (第五), ninth (第九), hundredth (第百) 等の如し

th が母韻と母韻の間に置かれ又は r と母韻の間に在るときは th の濁音を發すること多し例へば bathe (入浴する), breathe (呼吸する), brother (血統上の兄弟) 等の如し。然るに又語頭に在りて th の濁音を爲すことあり例へば than (.....よりも),

that (其の), there (其所に), this (此の), 等の如し

th の次に a, o, y の如き文字ありて其次に m の文字あるときは th は t の如き音を發す例へば Thames (河の名), Thomas (人の名), thyme (食料の香草) 等の如し

第二章 黙字 (Silent Letters.)

A

左の如き場合に於て a は黙字と爲りて音を發せず。第一 near (近く), sea (海), tea (茶), head (頭), thread (糸筋), load (載貨。銃砲に裝藥する), road (道路), shoal (淺瀬), extraordinary (非常なる), captain (隊長。船長), certain (慥かなる), curtain (帷子) 等の如し

E

e は凡て語尾に在るとき音を發せずして黙字と爲る。第一は hate (怨み憎む), cube (立方體) 等の如く若し其語尾の e 無れば hate は hat (帽子) と爲り。cube は cub (熊の子) と爲りて語音の短縮すると共に語意も亦變化するに至るべきを語尾に e の黙字あるが爲に其前の母韻が長く響きて意味も亦異なるなり。第



<sup>ブレス</sup>  
 二 **breath** (呼吸) と云へる名詞が <sup>ブリーズ</sup> **breathe** (呼吸する) と云  
 ふ動詞と爲り <sup>テース</sup> **teeth** (齒) と云へる名詞が <sup>テーズ</sup> **teethe** (齒を剥き出  
 す) と云ふ動詞と爲るが如き時。……第三 **c, g** の文字が語尾に在  
 りて孰れも柔音を發するさき例へば <sup>フランス</sup> **France** (國の名), <sup>プラク</sup> **prac-**  
<sup>テス</sup> **tice** (實行), <sup>レンジ</sup> **range** (山杯の續き), <sup>ソンジ</sup> **singe** (烘ろ) 等の如し今  
 若し此等の語尾の **e** を省くときは其 **c, g** は變じて剛音に化し  
<sup>フランク</sup> **franc** (貨幣の名), <sup>ラング</sup> **rang** (鐘杯が鳴りし), <sup>ソング</sup> **sing** (歌ふ) と爲る  
 べし……第四 <sup>フグル</sup> **fickle** (移り氣なる), <sup>ミンブル</sup> **mingle** (混る) 等の如し  
 ……第五 <sup>ブローグン</sup> **broken** (破つた), <sup>ハツペン</sup> **happen** (事が起る), <sup>レスン</sup> **lessen** (減  
 する), <sup>フスン</sup> **fasten** (緊め着る), <sup>ホフン</sup> **often** (屢々) 等の如し

O

**o** の文字は左の場合にありて黙字と爲る。 <sup>レバード</sup> **leopard** (豹),  
<sup>ピープル</sup> **people** (人民), <sup>ピークン</sup> **beacon** (狼煙), <sup>レッスン</sup> **lesson** (教課), <sup>ポルソン</sup> **person**  
 人物, <sup>ボタン</sup> **button** (扣鈕), <sup>ブレーズン</sup> **blazon** (功勞を顯はす) 等の如し

B

**b** の文字は **m** の次に在るか **t** の前に在るときは黙字と爲る  
 例へば <sup>ラム</sup> **lamb** (子羊), <sup>サム</sup> **thumb** (拇指), <sup>デット</sup> **debt** (負債), <sup>ダウト</sup> **doubt**  
 (疑い) 等の如し

C

**c** は左の如き場合に黙字と爲る。 <sup>シーン</sup> **scene** (景色), <sup>サイエンス</sup> **science** (學  
 問) 等の如し…… <sup>ザール</sup> **czar** (露西亞皇帝), <sup>インテット</sup> **indict** (告訴する),  
<sup>ヴィタルス</sup> **victuals** (食糧) 等の如し

D

は <sup>ウェンズデー</sup> **Wednesday** (水曜日), <sup>ジン</sup> **Djinn** (回々教の魔神) に於ては  
**d** は響かず

G

は **m, n** 又は **h** と連合するさき黙字と爲る即ち <sup>ダイアフラム</sup> **diaphragm**  
 (横隔膜), <sup>パラダイム</sup> **paradigm** (語例), <sup>グナット</sup> **gnat** (蚊), <sup>デザイン</sup> **design** (意匠),  
<sup>イムピュン</sup> **impugn** (論難する), <sup>ハイ</sup> **high** (高き), <sup>ドー</sup> **dough** (洩粉),  
<sup>ネイボル</sup> **neighbor** (近隣の人), <sup>ウイト</sup> **weight** (重量), <sup>ナイト</sup> **night** (夜), <sup>トート</sup> **taught**  
 (教へし) 等の如し

H

は左の如き場合に黙字と爲る <sup>ヘアー</sup> **heir** (相続人), <sup>ハーブ</sup> **herb** (食草),  
<sup>イネスト</sup> **honest** (正直なる), <sup>オノーア</sup> **honour** (名譽), <sup>アロー</sup> **hour** (時間), <sup>オスピ</sup> **hospi-**  
<sup>タル</sup> **tal** (病院), <sup>レトリック</sup> **rhetoric** (辯術), <sup>ライム</sup> **rhyme** (詩歌の韻を押す),



<sup>リーマチズム</sup> **rheumatism** (風毒), <sup>カタール</sup> **catarrh** (加答兒症), <sup>ア</sup> **ah** (驚愕。喜  
悦。悲歎等を言表はす詞), <sup>シラー</sup> **siirrah** (輕侮。憤怒を言表はす詞) 等  
の如し

K

は同じ綴りの中にて n の前に在るとき黙字を爲る例へば  
<sup>ニー</sup> **knee** (膝), <sup>ナイフ</sup> **knife** (庖刀), <sup>ノー</sup> **know** (知る), <sup>ノーレツジ</sup> **knowledge** (知  
識) 等の如し

L

の黙字を爲る場合は <sup>チョーク</sup> **chalk** (白墨), <sup>トーク</sup> **talk** (話す), <sup>フォーク</sup> **folk** (一部  
の人民), <sup>カーム</sup> **calm** (靜穩なる), <sup>カーフ</sup> **calf** (犢子), <sup>カークス</sup> **calves** (二頭以上の  
犢), <sup>ハーフ</sup> **half** (半分), <sup>ハーフス</sup> **halves** (二個以上の半分), <sup>クード</sup> **could** (能ひ  
し), <sup>ウード</sup> **would** (あろう), <sup>シード</sup> **should** (せざるべからず) 等の如し

M

の黙字を爲りて響かざる例は <sup>ニーモニツクス</sup> **mnemonics** (記憶を助くる法)  
是れなり

N

は l 又は m の後に在るとき黙字を爲る例へば <sup>キル</sup> **kiln** (土竈)。

<sup>オータム</sup> **autumn** (秋), <sup>コンデム</sup> **condemn** (罪を言渡す), <sup>ハイム</sup> **hymn** (神を祭る  
歌) 等の如し

P

の黙字を爲る場合は <sup>ニーマチツクス</sup> **pneumatics** (氣體學), <sup>サーム</sup> **psalm** (イスレ  
イル經文の歌), <sup>アズン</sup> **ptisan** (清涼劑), <sup>エムティー</sup> **empty** (空なる), <sup>アツテムト</sup> **attempt**  
(試みに行ふ), <sup>レシート</sup> **receipt** (領収書), <sup>セムストル</sup> **sempster** (縫物師), <sup>フ</sup> **phthi-**  
<sup>シツク</sup> **sic** (肺病), <sup>アボセム</sup> **apophthegm** (金言) 是れなり

S

の黙字を爲るは <sup>アイル</sup> **aisle** (宏堂の翼部), <sup>アイランド</sup> **island** (島) 等の如し。  
其外 <sup>ヴァイカウト</sup> **viscount** (子爵), <sup>デミーン</sup> **demesne** (領主の自由采地), <sup>ピ-</sup> **puis-**  
<sup>ネ</sup> **ne** (次等の) の如き語例に在り

T

の黙字を爲るは <sup>ラスン</sup> **fasten** (緊き着る), <sup>リスン</sup> **listen** (傾聴する), <sup>ケ</sup> **ca-**  
<sup>スル</sup> **isle** (城), <sup>レスル</sup> **wrestle** (角力する) 等の如し。又 <sup>オフン</sup> **often** (屢々)  
なる詞も <sup>ト</sup> の響かぬ一例なり

W

は r の前にあるか又は \* の次に在るときは黙字を爲る例へば。



ラップ (纏ふ), <sup>リース</sup> *weath* (花<sup>の</sup>圍?), <sup>ライト</sup> *write* (書く), <sup>ロング</sup> *wrong* (不正), <sup>ソルド</sup> *sword* (劍), <sup>アンサー</sup> *answer* (返答) 等の如し。又 *wh* の後に <sup>ホール</sup> *whole* (全部) の如し

### 第三章 綴音。音節。語勢。

#### 1. 綴音 (Syllable.)

凡て英語は上に記せる廿六字を種々に綴り合せて語音を代表するものにして其短かきは僅かに一感觸にて言ひ表はすものあり或は二感觸三感觸又は尙長く連続するものありて語音の長短實に定め難し而して其一感觸にて言ひ表はせる字音を稱して「綴音」(<sup>シレーブル</sup> *syllable*) と云ふ (但し其 <sup>シレーブル</sup> *syllable* には數個の文字を連続して成るものもあり一字を以て成るものも有り) 其一綴より成る詞を <sup>モノシレーブル</sup> *monosyllable* (一綴りの語), 二綴りより成る詞を <sup>ディスシレーブル</sup> *dissyllable* (二綴りの語), 三綴りより成る詞を <sup>トリスシレーブル</sup> *trissyllable* (三綴りの語), 四綴り以上より成る詞を <sup>ポリシレーブル</sup> *polysyllable* (多綴字の語) と云ふなり

#### 2. 音節 (Accent.)

言語を言ひ表はすときに自然音調なるものありて其字音に表はれざるを得ず而して其綴字中音の強く響く處を <sup>アクセント</sup> *accent* (音節) と云

ひ。文語に於て音の強く響く處を <sup>エムフシス</sup> *emphasis* (語勢) と云ひ。文章の大體に於て音の昂低する處を <sup>インフレクシオン</sup> *inflection* (話調) と云ふ。凡て辭が二綴音以上を以て成るものなるときは同じ辭の中にて孰かの綴音が特に強く響き他の綴音と區別するを要す故に語學書には斯く特に力を入れて強く響かすべき字音の肩側に <sup>アキート</sup> *acute accent* と云へる符號 (') を附して分明に知らしむるを通例とす下の例解を見よ

第一 二綴音の語は通例第一綴の音が強く響く例へば <sup>レ</sup> *la'-city* (貴女), <sup>ペーパー</sup> *pa'-per* (紙), <sup>タイガー</sup> *ti'-ger* (虎) 等の如し。即ち此の如く二綴音中二個の母韻が一子韻を狭めるときは其子韻は後の綴音に屬するものと知るべし但し <sup>プレフーズ</sup> *pref'-ace* (序言), <sup>アポン</sup> *up'-on* (上に) 等の如きは此規則の例外なり

第二 單綴音より成れる本體語の前に接頭字 <sup>プレフクス</sup> (*prefix*) を加へ又は其後より接尾字 <sup>サフクス</sup> (*suffix*) を加へて二綴音と爲りたるものに於ては通例其本體部の綴音が強く響く例へば <sup>デベース</sup> *de-base'* (品位を卑くする), <sup>アドジョイン</sup> *ad-join* (結び付る), <sup>エマウント</sup> *a-mount'* (馬に騎る) 等の如きは

第二綴が本體語なるゆへ此の如く強く響き。又 <sup>キルド</sup> *child'-ish* (子供らしき), <sup>キングダム</sup> *king'-dom* (王國), <sup>マンリ</sup> *man'-ly* (義侠なる) 等の如きは第一綴が本體語なるゆへ強く響くが如し

第三 同じ二綴音の語にして名詞と爲るときは第一綴音が強く響き動詞と爲るときは第二綴音が強く響くものあり例へば <sup>セン</sup> *cen'-*



ント <sup>コン</sup>ントラクト <sup>コル</sup>レクト  
ent (煉<sup>ト</sup>石灰), <sup>コン</sup>tract (約定), <sup>コル</sup>lect (祝詞) は名詞な  
るゆへ第一綴が強く響き。 <sup>コン</sup>ment (煉石灰を塗る), <sup>コン</sup>  
tract (約定する) は動詞に用ゆるゆへ第二綴が強く響くが如し

第四 同一綴りの語にて形容詞に用るときは第一綴音が強く響  
き。動詞に用ゆるときは第二綴音が強く響くものあり例へば  
<sup>コン</sup>crete (堅緻なる), <sup>イ</sup>qual (等しき), <sup>フレ</sup>quent (屢々  
なる) 等は形容詞なるゆへ第一綴音が強く響き。 <sup>コン</sup>crete  
(固める), <sup>イ</sup>qual (平等にする), <sup>フレ</sup>quent (通ふ) 等の如きは  
動詞と爲るゆへ第二綴音が強く響くが如し

第五 二綴りの語の中間に二重母韻に非ざる二個の母韻ありて兩  
者一個づゝ前後の綴字音に屬するときは前の母韻の屬する第一綴  
が強く響く例へば <sup>ダイ</sup>al (日<sup>アル</sup>晝<sup>ル</sup>儀), <sup>ライ</sup>on (獅子), <sup>ルー</sup>in  
(零落) 等の如し。即ち此の如く二重母韻に非ざる二個の母韻が兩綴  
の間に狹まるときは其前なる一は前の綴に屬し後なる一は後の綴  
りに屬して兩綴音を分つものと知るべし。但し <sup>クリ</sup>ate (創造す  
る) の如きは此例外なり

第六 二綴語の中間に一母韻ありて其次に二個の子韻を有し而して  
其一母韻が長く響くものなるときは次の子韻は兩字とも後の綴り  
に屬して發音す例へば <sup>フ</sup>able (寓<sup>ブル</sup>言<sup>フル</sup>字), <sup>ス</sup>ible (噎<sup>フル</sup>る) 等  
の如し。然れども其子韻が自然此の如く連りて一緒に響かせ難き  
ものなるときは其一は前の綴りに屬し又一は後の綴りに屬して別

々に響く例へば <sup>コン</sup>nect (結び付る), <sup>アツト</sup>most (至極の) 等  
の如し

第七 三綴語の中間に於て第一綴中の母韻と第二綴中の母韻との  
間より一子韻を挾めるときは其子韻は第一綴音に屬して響く例へば  
<sup>メモ</sup>ry (記憶), <sup>セ</sup>rate (分つ) 等の如し

第八 元來二綴音より成る本體語の前又は後に更に一綴字を加へ  
て三綴りと爲したる語に於ては其本體なる二綴語に就ての規則に  
従て其強音を定む例へば <sup>ディス</sup>cover (發見する), <sup>イン</sup>dorse-  
ment (證書の裏書), <sup>ミス</sup>fortune (不幸。艱難) 等の如きは

第一綴が接頭字にして第二綴以下が本體語なるも殊に第二綴が首  
要部なるゆへ其綴音が特に強く響き。 <sup>ディス</sup>obey (命に背く),  
<sup>ミス</sup>employ (使用を誤る), <sup>リー</sup>appear (再現する) 等の  
如きは第一綴が接頭字にして第二綴以下が本體語なるも殊に第三  
綴が首要部なるゆへ其綴音が強く響く。又 <sup>ハズ</sup>bandry (家  
政。農業), <sup>マウン</sup>tainous (山多き), <sup>テン</sup>derness (優  
しき事) 等の如きは第三綴が接尾字にして其前の二綴が本體語なる

も殊に第一綴が首要部なるゆへ其綴音が強く響き。 <sup>ディ</sup>ta-  
tion (暗<sup>ク</sup>で書取ると), <sup>メ</sup>chanic (職工), <sup>プロ</sup>ductive  
(生産的の) 等の如きは第三綴が接尾字にして其前の二綴が本體語  
なるも殊に第二綴が首要部なるゆへ強く響くが如し

第九 同一三綴りの語にて中間の綴音が強く響く三種の例あり即ち



第一は ator の連字にて語尾を爲すものなり例へば <sup>イ グエー トル</sup> e-qua'-tor (赤道), <sup>ク リ エー トル</sup> cre-a'-tor (造物者), <sup>ス ペ ク テー トル</sup> spec'-ia-tor (見物人) 等の如し  
但し <sup>オ レー トル</sup> or'-a-tor (辯士), <sup>セ ネー トル</sup> sen'-a-tor (元老議員), <sup>バ レー トル</sup> bar'-ra-tor (訴訟教唆者。不正の船長) の如きは此規則の例外なり……

第二は中間の綴りに二重母韻ある場合なり例へば <sup>ビ リー ヴァー</sup> be-liev'-er (信する人), <sup>エン トリー ヴァー</sup> en-treat'-y (歎願), <sup>アン イー ジー</sup> un-eas'y (不安心なる) 等の如し……  
第三は中間の綴字中に一母韻ありて其次に二個の子韻ある場合なり例へば <sup>ド メ ス</sup> do-mes'-tic (家内の), <sup>プロ フェッサー</sup> pro-fess'-or (教授。専門教師), <sup>リ パブ リック</sup> re-pub'-lic (共和政治) 等の如し

第十 佛蘭西語より脱化し來れる三綴りの語にして重音に ee 又は ine の語尾を有するものは終りの綴音が強く響く例へば <sup>レゲー</sup> le-ga-tee' (遺産相続者), <sup>マガジーン</sup> mag-a-zine' (倉庫) 等の如し

以上の外猶四綴以上長き語の音節を知らしむる規則 類例 多くあれども此書に於ては只音節なるもの、初歩を教示するに在れば省きて載せず他日斯る餘地ある書に依て詳説するとあらん

### 3 語勢 (Emphasis.) <sup>エムフシス</sup>

凡そ人の言語を爲し文を讀むには必ず或語だけは聲音を強く發して他の語と判然區別し聽者をして特に其語に意を留めしめんことをあるは皆能く日常の經驗に於て知る所ならん英語にて此區別

を名けて「語勢」(emphasi) <sup>エムフシス</sup> と云ふなり

語勢は語音の特に強きを謂ふものにして其強度種々にして一様ならず其輕弱なるは尋常談話中の重要なる語に附するものより其最も強烈なるは感動的言語に附したるものなり

夫れ故に語勢には三種の別あり。第一を絶對的強音 (Absolute <sup>アブソリュート</sup> emphasis), 第二を對照的強音 (Relative <sup>リレーチヴ</sup> emphasis), 第三を感動的強音 (Emotional <sup>エモシナル</sup> emphasis), <sup>エムフシス</sup> と云ふ 此區別あるに由て印刷上語勢の在る所即ち語音の強勢を表するに三つの方法あり 即ち通常強音語は特に以、太、利、形、の文字にて記らし 其上の強音語は小、形、の、頭、文、字、を以て記らし 極めて激しき強音語は大、形、の、頭、文、字、を以て記るすを法とす

I 絶對的強音は文意に依て特に重要なる語に附する音勢なり例へば

1. "We have not long to live."  
<sup>ウー</sup> <sup>ハヴ</sup> <sup>ノット</sup> <sup>ロン</sup> <sup>トゥ</sup> <sup>リヴ</sup>  
 吾等ハモノデナイ長クベキ生活ス  
 (一) (五) (六) (二) (四) (三)  
 (吾人の生命は長きものに非ず)

2. "The sun begins to rise."  
<sup>ソー</sup> <sup>サン</sup> <sup>ビギンズ</sup> <sup>トゥ</sup> <sup>ライズ</sup>  
 太陽ガ始メルコトヲ昇ル  
 (一) (四) (三) (二)  
 (日が昇て來ました)

(1) の文例にては吾人が生命の長からざるを言ふの意味にて其主要の點は live (生活する) と long (長き) の語に在るを以て特に此語の音を勢強く發するなり



(2) の文例に於ては日の將きに昇らんとするを叙する意味にて **sun** (太陽) と **rise** (昇る) を重要語と爲すが故に特に此兩語の音勢を強く述るなり

又此語勢を轉するに由て一々文意の異なるもあり例へば

ヒー ネヴァー セツド ゼツト  
“ **He never said that.** ”  
彼ハ 曾テ ザリキ 言ハ 其ヲ  
(一) (二) (五) (四) (三)

(彼は曾て其事を言た事なし)

とあるときは單に「彼れ」なる人一人ありて其人は「曾て」云々の事を言ひしとなしさて其主要の意味 **never** (曾て無し) の一語に在りて之を英譯すれば **at no time in his life** 即ち「其人は生れて以來未だ曾て其様な事を言はず」との意味なるゆへ特に此語の音勢を強く述るなり

然るに此語勢を初めの **he** (彼れは) に移して

ヒー ネヴァー セツド ゼツト  
“ **He never said that.** ”  
彼ハ 曾テ ザリキ 言ハ 其ヲ  
(一) (二) (五) (四) (三)

と爲すときは茲に二人以上の人ありて其一人なる「彼れ」は其事を言はざれども **Some one else said it.** 即ち「他の某人が其事を言へり」の意味と爲るなり

更に此音勢を第三詞の **said** (言へり) に轉じて

ヒー ネヴァー セツド ゼツト  
“ **He never said that.** ”  
彼ハ 曾テ ザリキ 言ハ 其ヲ  
(一) (二) (五) (四) (三)

と爲すときは **never** (曾て無し) の意軽くして其文意 **he may have thought it.** 即ち「彼れは未だ其事を言はざれども「曾て其事を心に、想へり」と」を爲る又更に此音勢を終りの **that** (其を) に轉じて

ヒー ネヴァー セツド ゼツト  
“ **He never said that.** ”

と爲すときは其文意 **it was something else he said.** 即ち「彼れは其事を言ひたるにあらずして他の事を言ひしなり」と爲るなり

次に問答體にて絶對的音勢の例を示すと左の如し讀者注意して之を見れば予の解説を須たずして悟る所あらん

クエスチオンス  
Questions. (問)

アンサーズ  
Answers (答)

ワツド ユー ヌー タロー  
1. **Did you see Taro**  
爲セシカ 汝ハ 見 太郎ヲ  
(五) (一) (四) (三)  
ヒー デー  
**to-day?** (君は今日太郎  
今日  
(二)

ノー バット ジロー ワツド  
**No; but Jiro did.**  
否ナ 然シ 次郎ガ 爲セリ  
(一) (二) (三) (四)

(イエ次郎が會ひました)

ワツド ユー ヌー タロー  
2. **Did you see Taro**  
ヒー デー  
**to-day?** (以下問は孰れ

ノー バット アイ ハード フロム  
**No; but I heard from**  
否ナ 然シ 予ハ 聞ケリ カラ  
(一) (二) (三) (六) (五)

も同文なれば譯を附せず)

ヒム  
**him.** (イエ會ひはしませんが  
彼レ  
(四) 彼れの傳言を聞きまし

た)



3. <sup>ディッド ユー ヌー タロ</sup>  
**Did you see Taro**  
<sup>トデー</sup>  
**to-day ?**

<sup>ノー バット アイ ソー ヒズ</sup>  
**No ; but I saw his**  
<sup>否ナ 然シ 予ハ 會タ 彼レノ</sup>  
(一) (二) (三) (六) (四)  
<sup>ブラザー</sup>  
**brother.** (イエ太郎の兄弟に  
兄弟ニ  
(五) 逢ひました)

4. <sup>ディッド ユー ヌー タロ</sup>  
**Did you see Taro**  
<sup>トデー</sup>  
**to-day ?**

<sup>ノー バット アイ ソー ヒム</sup>  
**No ; but I saw him**  
<sup>否ナ 然シ 予ハ 會ツタ 彼レニ</sup>  
(一) (二) (三) (六) (五)  
<sup>イェストルデー</sup>  
**yesterday** (イエ昨日彼れに  
昨日  
(四) 逢ひました)

II. 對照的強音は文中他の語と對照して特に重要な意味を有する語に附する音勢なり例へば

<sup>イェストルデー</sup> <sup>ホープ</sup> <sup>アニメーテッド</sup> <sup>エヴリー</sup>  
“ **Yesterday, hope animated every**  
<sup>昨日ハ</sup> <sup>希望ガ</sup> <sup>鼓舞セリ</sup> <sup>各々ノ</sup>  
(一) (二) (五) (三)  
<sup>ブレスト</sup> <sup>ナツ</sup> <sup>ウー</sup> <sup>フインド</sup> <sup>アワーセルフス</sup> <sup>イン</sup>  
**breast ; now we find ourselves in**  
<sup>人ナ</sup> <sup>今マ</sup> <sup>吾等ハ</sup> <sup>見出ス</sup> <sup>吾等自身ヲ</sup> <sup>内ニ</sup>  
(四) (六) (七) (十三) (十二) (十一)  
<sup>モー</sup> <sup>デプス</sup> <sup>オヴ</sup> <sup>デスペア</sup>  
**the depths of despair.”**  
<sup>深底ノ</sup> <sup>之</sup> <sup>絶望</sup>  
(十) (九) (八)

(昨は勝運の望みに由て人毎に心を鼓舞せられしか  
今や術盡き望絶へて浮ぶ瀬なき淵に沈めり)

讀者試みに此文の意味を玩味せよ今ま此文意を分解すれば  
**breast**より上の一半は嘗て人々の望みを屬したる前日の好況を叙し  
**now**より以下の一半は前に反して今日の否運回らすべからざ

る有様を叙するものとす故に上半の文意に於ては <sup>イェストルデー</sup> **yesterday**  
(昨日), <sup>ホープ</sup> **hope** (希望)を主とし。下半の文意に於ては <sup>ナツ</sup> **now**(今日),  
<sup>デスペア</sup> **despair** (絶望)を主とし絶對的語勢より云ふも是等を主要語  
として特に其の音勢の強く發するは自然なるに之に加ふるに上半  
文の **yesterday** (昨日)と下半文の **now** (今日), 及び上半文の  
**hope** (希望)と下半文の **despair** (絶望)の各二語は其意味の  
互ひに相對照聯關するが爲に更に其音勢を強からむるの傾きある  
ものとす

以上二種の語勢は通常の平話に用ゆるものなれども深き感情を言  
ひ表はす語には感動的音勢を用ひざるべからず感動的音勢は高く  
喚呼するとき及び同じ詞を重ねるとき杯に自然に強く發する音な  
り例へば

1. <sup>ヴクトリー</sup> <sup>フーラー</sup>  
“ **Victory !** “ **Hurrah !**”  
勝利ヨ 悦ブベシ  
(我軍勝てり 嗚呼悦ぶべし)

2. <sup>ト</sup> <sup>アームス</sup> <sup>ト</sup> <sup>アームス</sup> <sup>ト</sup> <sup>アームス</sup> <sup>ヒー</sup>  
“ **To arms ! To arms ! To arms !**” **he**  
兵器ニ 兵器ニ 兵器ニト 彼ガ  
<sup>クライド</sup>  
**cried.** (彼は高く呼で曰く舉兵々々々々さ)  
叫ベリ

3. <sup>ヒー</sup> <sup>ラン</sup> <sup>エンド</sup> <sup>クライド</sup> <sup>ファイア</sup> <sup>ファイア</sup> <sup>ファイア</sup>  
**He ran and cried, “Fire ! FIRE ! FIRE !”**  
<sup>彼ハ</sup> <sup>走り</sup> <sup>且ツ</sup> <sup>叫ベリ</sup> <sup>火事ヨ</sup> <sup>火事ヨ</sup> <sup>火事ヨト</sup>  
(一) (二) (三) (七) (四) (五) (六)  
(彼れは馳せつゝ火事だ火事ださ叫べり)

(2), (3)兩例の如く同じ詞を重ねて呼ぶときは其字形を以て表す



る如く初めは微かに聲音を強くし第二第三次第に音勢を高めて強く言ふなり

右の外に通常の談話中暫て他人の言ひし文句を引て述るときは其文句だけ特に音勢を高めて強く述るを法とす是れ亦對手の意を惹くに緊要の事なり例へば

ク マ キ チ      セツド      ヒズ      マザー      ワン      モーニ  
 “ Kumakichi,” said his mother, one morn-  
 熊吉ヨ      云へリ      彼レノ      母ガ      一ノ      朝  
 (六)      (五)      (三)      (四)      (一)      (二)

ング      ウル      ユー      ブリング      ミー      エ      ペール      オヴ  
 ing, “ Will you bring me a pail of  
 アラウカト      汝ハ      持來ルテ      予ニ      一手桶ヲ      之  
 (十三)      (七)      (十二)      (十一)      (十)      (九)

ウォーター  
 water ?”  
 水  
 (八)

(或る朝熊吉の母が「熊吉よ水を一杯汲んで来て呉れる」  
と云つた)

即ち此の如き場合には引句號 (“ ”) を附せる文句の音勢を強くして言ひ其他の said his mother, one morning, の如き自己の言語だけは平音に述ぶるものとす猶其他は類推して知るべし

#### 4. 文勢 (Inflection)

文勢 (inflection) とは言語文章の中間又は結尾に於て聲音の昂低屈曲する事にして即ち文意の抑揚に由て生ずる音の變化を謂ふなり例へば

ウル      ユー      ライド      オル      ヴォーク  
 “ Will you ride or walk ?”  
 アラウカ      汝ハ      乘ルテ      又ハ      歩行スルテ  
 (三)      (六)      (一)      (二)      (四)      (五)

(車にお乗りなさるか又はお歩きなさいか)

の如き是れなり

文勢には四種の別あり其第一は昂騰音勢 (Rising inflection) 第二は低落音勢 (Falling inflection) 第三は波瀾音勢 (Circumflex) 第四は純一音勢 (Monotone) と云ふ。語學書にては左の符號を文字の上又は肩側に附して此四種の音勢を表示す

ライジング      スライド  
Rising Slide (´) は 昂騰音勢を表す

ネーリング      スライド  
Falling Slide (˘) は 低落音勢を表す

カーヴ  
Curve 上向曲線 (ˆ) は 波瀾音勢を表す

ホーライズンタル      ライン  
Horizontal Line 水平線 (—) は 純一音勢を表す

#### 第一 昂騰音勢 (Rising inflection)

昂騰音勢は聲音の平準より高く旋回する勢にして即ち初めは平らかに終りに至て高く昂る音勢なり例へば

アール      ユー      ゴーイング      ホーム  
 Are you going home ?  
 アルカ      汝ハ      往キツ      家ニ  
 (四)      (一)      (三)      (二)

(あなたはお家へお歸りなさる所ですか)



の如し

第二 低落勢音 (Falling inflection)

低落音勢は聲音の平準より低く 旋回する勢にして即ち初めは平らかに終りに至て低く落る音勢なり例へば

フウェア アール ユー ゴーイング
Where are you going?
何處ニ アルカ 汝ハ 往キツ、
(一) (四) (二) (三)
(何處へお出でなさいませうか)

の如し

疑問の言語文章のうち yes (然り) 又は no (否な) の語を以て答ふるとを得べき直接の疑問は概むれ昂騰音勢を要し。其 答 語は低落音勢を要す例へば

ディッド ユー モー マイ ミー ネット
Did you see my new hat?
ナセシカ 汝ハ 見 予ノ 新ラシキ 帽ヲ
(六) (一) (五) (二) (三) (四)
(私の新しい帽子をご覧になりましたか)

Yes. (ハイ)
然り

ハヴ ユー ビーン トゥー スクール トゥーデー
Have you been to school to-day?
タカ 汝ハ 在ツ ニ 學校 今日
(六) (一) (五) (四) (三) (二)
(あなたは今日学校へお出でに成りましたか)

No. (イーエ)
否ナ

ウー ル ユー テーキ エ ウォーク イン オー ガーデン
Will you take a walk in the garden?
アラウカ 汝ハ スルテ 遊歩ヲ テ 花園
(六) (一) (五) (四) (三) (二)
(あなたはお園で遊歩をなさいますか)

Yes. (ハイ)
然り

ハズ ミス ハナ フラウンド ホル ロスト リング
Has Miss Hana found her lost ring?
タカ 嬢ハ 花子 見出シ 彼女ノ 失フタル 指環ヲ
(七) (二) (一) (六) (三) (四) (五)
(花子さんは失した指環をお見出しなさいましたか)

No. (イーエ)
否ナ

yes 又は no の語を以て答ふるとを得ざる間接の間には 通例低落音を用るを要し之が答も亦同音勢を以てせざるべからず例へば

ハヴ オールド アール ユー
How old are you?
何歳テ アルカ 汝ハ
(二) (三) (一)
(お何歳でございますか)

Nineteen. (十九歳です)
十九

フウェア フラウド ユー ゴー ラスト ウーク
Where did you go last week?
何處ニ ナセシカ 汝ハ 往キ 前週
(三) (六) (一) (五) (二)
(前週には何處へお出でに成りましたか)

To Kyoto. (京都へ参りました)
迄 京都ニ
(二) (一)

フウエン ウル ミルスト カトー リトルン ホーム
When will Mr. Kato return home?
何時 アラウカ 加藤君ハ 歸ルテ 家ニ
(一) (五) (二) (四) (三)



(加藤さんはいつお帰宅なさいますか)

モー アフトル ツ モロ  
**The day-after-tomorrow.**  
明 後 日

(明後日歸ります)

フッ メード ゼツト プリツター ノーズゲー  
**Who made that pretty nosegay?**  
誰が 造リシカ 其ノ 美クシキ 花束ナ  
(一) (五) (二) (三) (四)

(何方が其様な美しい花束をお拵へなさいましたか)

マザー  
**Mother.** (母が拵へました)  
母ガ

の如し 此間接の間には初めに於ける how, where, who の語に力を入れて音勢を強く響かすべし

疑問の意が二様になりて其間に or (又は) の語を挿みて兩意を結び付るときは其前意の文句には昂騰音勢を用ひ後意の文句には低落音勢を用ひ例へば

ウール ユー ゴー トー デー オール トー モロ  
**Will you go to-day, or to-morrow?**  
アラウカ 汝ハ 往クテ 今日 又ハ 明日カ  
(四) (一) (三) (二) (五) (六)

(あなたは今日お出でなさるか明日お出でなさるか)

ワール ライド オン イット オール ウォーク  
**Shall we ride on it or walk?**  
ベキカ 我々ハ 乗ル ニ 其 又ハ 歩行ス  
(五) (八) (一) (四) (三) (二) (六) (七)

(車に乗て行きませうか歩行して行きませうか)

ダズ オス ヒロング トー ユー オール トー タロー  
**Does this belong to you, or to Taro?**  
ナスカ 是ハ 屬シ ニ 汝 又ハ ニカ 太郎  
(五) (一) (四) (三) (二) (六) (八) (七)

(是れはあなたのですか又は太郎のですか)

ウール ユー ゴー ウズ アス オール ステア エット  
**Will you go with us, or stay at**  
アラウカ 汝ハ 往クテ 共ニ 我々ト 又ハ 止マルテ 於テ  
(五) (十) (一) (四) (三) (二) (六) (九) (八)

ホーム  
**home?**  
家ニ  
(七)

(あなたは私共と一緒に お出でなさるか 又は宅にお止まりなさるか)

同じ文言の中にて前に二個以上の人又は物の名を並べて言ひ 其後に文句あるときは前の名詞の音勢が 昂騰騰り後の文句の音勢が 低く落る例へば

メッソルス モリ ヒラタ エンド カタヤマ  
**Messrs. Mori, Hirata, and Katayama.**  
君達ガ 森 平田 及ビ 片山(ナル)  
(五) (一) (二) (三) (四)

カム ヒア  
**come here.**  
來レ 此處ニ  
(七) (六)

(森君と平田君と片山君が参ります)

グレート グード オイ オノーアド  
**The great, the good, the honored, the**  
俊才モ 善人モ 名譽者モ  
(一) (二) (三)

ノーブル オー ウェルソー エライク パス エヴェー  
**noble, the wealthy, alike pass away.**  
貴人モ 富豪モ 均シク 過去ル  
(四) (五) (六) (七)

(豪傑も善人も有勳者も貴族も富豪も皆盛時過れば消去て夢の如し)

の如し



疑問に答る言語にても目下の者に對して逃るさき若くは對手を輕蔑して言ふさきは上の規則に反し其疑問が直接間接なるを問はず凡て答への言語が昂騰音勢を爲す例へば

ミストル ウチダ ヒー ユー マンク ヒー ウル カム  
**Mr. Uchida, do you think he will come**  
内田君 ナスカ 汝ハ 思ヒ 彼ガ アラウト 來ルデ  
(一) (八) (二) (七) (三) (六) (五)

トデー  
**today?**  
今日  
(四)

(内田さん あの人は今日來ると思はれますか何日です)

ノーサー アイ マンク ヒー ウル ノット  
**No sir, I think he will not.**  
イーエ 私ハ 思フ 彼ハ アラウト (來ラ)ヌデ  
(一) (二) (六) (三) (五) (四)

(イエあの人は來ないであらうと思ふ)

ウー ド ユーア フーザー ライク ヒー ハヴ ユー プレー  
**Would your father like to have you play**  
アラウカ 汝ノ 父ハ 好ムデヲセテチク 汝ヲ 遊バ  
(九) (一) (二) (八) (七) (六) (四) (五)

オール フォー タイム  
**all the time?**  
始 終  
(三)

(お前の阿爺は始終お前を遊ばせて置くのか嗜するののか)

アイ ドント ノー  
**I don't know.** (ヘン何日だか知らない)  
予ハ 爲サヌ 知リ  
(一) (三) (二)

直接の疑問にても深く何事にか感動したる情を言ひ表はす言葉なるさきは低落音勢を爲し其感動の深きほど語尾の音勢が平準より低く落つ例へば

イズ ノット ビューティフル サイト  
**Is not that a beautiful sight?**  
アラヌカ 其ハ 美クシキ 光景デハ  
(四) (五) (一) (二) (三)

(何んさまア好い景色ではありませんか)

ウル ユー パーシスト イン エーイング イット  
**Will you persist in doing it?**  
アラウカ 汝ハ 固執スルデ 於テ 爲スニ 其チ  
(六) (一) (五) (四) (三) (二)

イズ イット ライト イズ イット ジャスト  
**Is it right? Is it just?**  
アルカ 其ハ 正シク アルカ 其ハ 公平デ  
(三) (一) (二) (三) (一) (二)

(どこまでも左様爲さいますか 其は公平至當な事でありますか)

但し此場合も於ては **Is, Will** の如き最初の一語の音勢を強く言ひ表はすべきものとす

若し直接の疑問を一度發するも其對に聞き取れざるさきは再び同じ疑問を繰返すが爲に自然語勢が強くなると共に文勢も亦低落するものとす例へば

ウル ユー スピーク ヒー ヒム トデー  
**Will you speak to him to day?**  
アラウカ 汝ハ 話ステニ 彼 今日  
(六) (一) (五) (四) (三) (二)

(あなたは今日あの人は仰しやいますか)

フウォット ラツド ユー セー  
**What did you say?**  
何チ 爲セシカ 汝ハ 言ヒ  
(一) (四) (二) (三)

(エ、何でございます)

アイ セー ウル ユー スピーク ヒー ヒム トデー  
**I say, will you speak to him today?**  
予ハ 言フ アラウカト 汝ハ 話ステニ 彼 今日  
(一) (二) (八) (三) (七) (六) (五) (四)



(あなたは今日あの人にお話しなさいませうかと申すに)

第三 波瀾音 (サーカムフレクス)

以上説き示す所は幾語を以て成るを問はず文言の大體に就て其中間又は結尾に於ける音勢の抑揚昂低する場 合を謂ふものなるが茲に波瀾音勢 (circumflex) とは同一語中にて昂騰音勢と低落音勢の連合して抑揚波瀾を爲すものを謂ふ即ち其例左の如し但し其符號の (˘) は初め低落して後に昂騰せる音勢を示し (ˆ) は初め昂騰して後に低落せる音勢を示すものと知るべし

アール ユー オー ボーイ キット リオズ ロスト  
Are you the boy that was lost?  
アルカ 汝ハ 童兒デ 所ノ レタ 失ハ  
(六) (一) (五) (四) (三) (二)

(お前はアノ迷子に爲つた子であるか)

ケン サツチ コンダクト ビー リソールデット  
Can such conduct be rewarded?  
能フカ 箇様ナル 行ヒガ ラレ 賞セ  
(五) (一) (二) (四) (三)

(斯様な行狀が褒められませうか)

ビー ユー エクスペクト ミー トー サイン ゴット ペーパー  
Do you expect me to sign that paper?  
ナスカ 汝ハ 望ミ 予ニ ベク捺印ス 其ノ 書付ニ  
(八) (一) (七) (六) (五) (四) (三)

(其書付へ私の調印をしてもらいたいのですか)

同じ文句中にて初めに低落且昂騰の波瀾音勢ありて後に昂騰且低落の波瀾音勢あるの例左の如し

ヒー イズ マイ フレンド ノット ユーアス  
He is my friend, not yours.  
彼ハ アル 予ノ 朋友デ アラヌ 汝ノデハ  
(一) (四) (二) (三) (六) (五)

(アレは私の朋友であります あなたのではありません)

イフ ユー ビー オース ウー ウル ビー ゴット  
If you do this, we will do that.  
若シモ ラバ 汝ガ 爲ス 是ヲ 我々ハ アラウ 爲ステ 其ヲ  
(一) (五) (二) (四) (三) (六) (九) (八) (七)

(あなたが此方<sup>ラ</sup>の事を爲さるなら私は其方<sup>ヲ</sup>の事を仕ませう)

ケン オー ラム リヴ ウズ オー ウルフ ネル オー  
Can the lamb live with the wolf, or the  
能ノカ 小羊ハ 生活シ 共ニ 狼ト 又ハ  
(五) (十一) (一) (四) (三) (二) (六)

ダヴ ウズ オー カイト  
dove with the kite?  
鳩ハ 共ニ 鷹ト  
(七) (九) (八)

(夫れ羊仔は能く豺狼と共に生息すべき乎鳩兒は能く鷹と共に生息すべき乎弱者の強者と共に存するを得ざると此の如く明かなり)

第四 純一音勢 (モントーン)

純一音勢とは單純均一なる音勢と云ふとにして同一の聲音連續して其間に強音もなければ抑揚昂低もなく所謂「のべつ」なる音調なり此音勢は通常の言語文章に用れば毫るしも趣味なくして聽者を感じせしむるに足らず唯神聖嚴肅なる意味の言語を爲し又文章を読むとき尊崇畏懼の情を言ひ表はすに用ゆるのみ例へば

オー ヘヴンズ デクレア オー グローリー オヴ ゴッド  
The heavens declare the glory of God,  
天堂ガ 布公シ 徳光ヲ 之 神  
(一) (五) (四) (三) (二)



エド オー フー マメント シー ス ヒズ ハンダー  
**and the firmament showeth his handy**  
 而シテ 蒼空が 示メス 彼レノ 手  
 (六) (七) (十) (八) (九)

ヴォーグル  
**Work.**  
 工ヲ

(天國は神の徳光を布告し蒼穹は神の妙工を示す)

ロール オン サウ テーア エンド ダーク ブリー オーシン ロール  
**Roll on, thou deep and dark blue Ocean,-- roll!**  
 卷テ流レヨ 汝 深キ 且ツ 暗キ 青キ 大洋ヨ 卷ケヨ  
 (一) (二) (三) (四) (五) (六) (七) (八)

テン サウゼンド フリーツ スウィープ オーヴァー オー イン ヴェーン  
**Ten thousand fleets sweep over thee in vain.**  
 一万ノ 艦隊ガ 走過ス 上ニ 汝ノ 無益ニ  
 (九) (十) (十四) (十三) (十二) (十一)

(嗚呼洪濤を卷て脈流せよ汝渺漫たる滄溟よ 無数の巨艦徒らに汝の上に走過するも遂に汝を平かならしむる能はず)

以上説き來れる音節 語勢 文勢の如きは語學上最も緊要の件にして假令ひ多少の英語を読み得る者と雖も是等の諸法を知らざれば英語を知て實際に英語を用ゆると能はざるが故初學者は殊に注意して之を習熟するを務むべきなり而して猶茲に言ふべき事は如何も英語を使ひ如何なる英文を読むにも成るたけ一語一語の發音を明亮に言ひ表はし各語を読み續ける間に前語の尾音と後語の首音を紛雜混合せしめざる様注意する事是れなり若し然らざるときは各語の音彼此相混同して聴取明瞭ならず爲め意味の誤解を生ずるを免かれざればなり今此避けざるべからざる妄綴の弊を

示すと左の如し(但し( )の符號は前後混音の箇處を示すものと知るべし)

ゼット レディー ス アイ ス  
**That lady's eyes.**  
 其ノ 貴女ノ 目  
 (一) (二) (三)

トゥー スモール エッグス  
**Two small eggs.**  
 ニツノ 小サキ 卵  
 (一) (二) (三)

サム アイスクリーム  
**Some ice-cream.**  
 若干ノ 氷 乳 菓  
 (一) (二)

ゼット ビーツ オール  
**That beats all.**  
 其ガ 打破ル 全部ヲ  
 (一) (三) (二)

リッチェス エンド オノーア  
**Riches and honor.**  
 富 ト 名譽  
 (一) (二) (三)

ホル スモール アイ ス  
**Her small eyes.**  
 彼女ノ 小サキ 目  
 (一) (二) (三)

カム ワンス モーア  
**Come once more.**  
 來レ モ 一度  
 (二) (一)

ウォータール エーア エンド アース  
**Water, air, and earth.**  
 水ト 空氣ト 土  
 (一) (二) (三) (四)

レット オール メン プレーズ ヒム  
**Let all men praise him.**  
 シメヨ 總テノ 人ニ 讚美セ 彼ヲ  
 (五) (一) (二) (四) (三)

ゼット レディー サイ ス  
**That lady sighs.**  
 其ノ 貴女ガ 歎息スル  
 (一) (二) (三)

トゥー スモー レス  
**Two small legs.**  
 ニツノ 小キ 脚  
 (一) (二) (三)

サム マイス クリーム  
**Some mice scream.**  
 若干ノ 廿日鼠ガ 叫ブ  
 (一) (二) (三)

ゼット ビート ソール  
**That beat Saul.**  
 其ガ 打破ル ソール(人名)ヲ  
 (一) (三) (二)

リッチェス サン ドーノール  
**Riches san donor.**  
 富 一 施行者

ホル スモー ライ ス  
**Her small lies.**  
 彼女ノ 小サキ 嘘言  
 (一) (二) (三)

カム ワン スモーア  
**Come one smore.**  
 來レ 一 一

ウォータール レーア ラン ダース  
**Water rare ran dearth.**  
 水ガ 稀ナル 走レリ 窮乏ニ

レット トール メン プレー ヌム  
**Let tall men pray sim.**  
 シメヨ 丈高キ 人ニ 祈ヲ  
 (四) (一) (二) (三)



第三章 諸符號の解

エクスプレネーションズ オヴ ヴェーリアス マークス  
(Explanations of various marks.)

1. 斷音符の解

エクスプレネーション オヴ オー ポーズ  
(Explanation of the pause.)

凡そ英語を以て思想を述るにも又英文を読むにも其意味を明かに  
聴取らしめ又は或る語句の音勢を強くして他の語句と判然たる區  
別を爲さんが爲に各語の間。語と句の間。若くは文の尾りに於  
て聲音を歇斷せざるべからず而して其聲音の歇斷を爲すに長短あ  
りて一樣ならずと雖も意味の盡きざる處は短かく音を歇め意味の  
十分盡る處は最も長く音を斷つものとす今此區別を明かにせんが  
爲に文法上用ゆる所の左の諸符號を例解し其各符號の聲音を歇め  
る間の長短をば一より六に至る數を算する時間にて示せば即ち

コンマ  
Comma. (句點)

(,) は最も短かき斷音符にして此符號を附すべき處は僅かに一  
息吐きだけ即ち一の音を唱ふる間に止まり直ちに次の語に音を續  
けるなり例へば

トキョー キョー ト エンド オーサカ アール オー スリー  
Tokyo', Kyoto', and Osaka', are the three  
東京 京都 及ビ 大坂ハ アール ミツノ  
(一) (二) (三) (四) (五) (七)

プリンシパル シティーズ オヴ ジャパン  
principal cities of Japan.  
首都ナル 都府デ 之 日本  
(八) (九) (六) (五)

(東京 京都 大坂は日本の三大都なり)

ノヅ ノー グレート ジネラル ウォズ オー ネーティブ  
Nodzu, the great general, was the native  
野津ハ 英後ノ 大將ナル アツタ 土人デ  
(三) (一) (二) (七) (六)

オヴ サツマ  
of Satsuma.  
之 薩摩  
(五) (四)

(英將野津は素と薩摩國の産なり)

セミコロロン  
Semicolon. (半重點)

(;) は comma (句點) よりも稍や意味の纏まりたる處に用ゆ  
る符號にして其聲音を歇めめる時間も稍や長く即ち二の數を算すへ  
る間に止まり直ちに聲音を次の語に續けるなり 但し通例は其歇  
音の處に於て低落音勢を爲すなれども其文句の意味に依りては時  
さしては昂騰音勢を爲すとあり

ローズ イズ フェア; バット イット スーン フェーデズ  
The rose is fair; but it soon fades.  
薔薇ハ アル 美シク 然シ 其ハ チキニ 凋▲  
(一) (三) (二) (四) (五) (六) (七)

(薔薇は容姿美麗なれども凋衰甚だ速かなり)

コロロン  
Colon. (重點)

(:) は Semicolon (半重點) よりも稍や意味の纏まりたる處  
に用ゆる符號にして其聲音を歇めめる時間も亦隨て長く即ち四數を  
算する間だけ止まり直ちに次の語に移りて聲音を繼ぐなり但し其



### 第三章 諸符號の解

エクスプレネーションズ オヴ ヴェーリアス マークス  
(Explanations of various marks.)

#### 1. 斷音符の解

エクスプレネーション オヴ オー ポーズ  
(Explanation of the pause.)

凡そ英語を以て思想を述るにも又英文を讀むにも其意味を明かに  
聽取らしめ又は或る語句の音勢を強くして他の語句と判然たる區  
別を爲さんか爲に各語の間。語と句の間。若くは文の尾りに於  
て聲音を歇斷せざるべからず而して其聲音の歇斷を爲すに長短あ  
りて一様ならずと雖も意味の盡きざる處は短かく音を歇め意味の  
十分盡る處は最も長く音を斷つものとす今此區別を明かにせんか  
爲に文法上用ゆる所の左の諸符號を例解し其各符號の聲音を歇め  
る間の長短をば一より六に至る數を算する時間にて示せば即ち

コンマ  
**Comma.** (句 點)

(,) は最も短かき斷音符にして此符號を附すべき處は僅かに一  
息吐きだけ即ち一の音を唱ふる間に止まり直ちに次の語に音を續  
けるなり例へば

トウキョー キョウト エンド オーサカ アール オー スリー  
**Tokyo', Kyoto', and Osaka', are the three**  
東京 京都 及ビ 大坂ハ アル ミツノ  
(一) (二) (三) (四) (五) (七)

プリンシパル シティーズ オヴ ジャパン  
**principal cities of Japan.**  
首都ナル 都府テ 之 日本  
(八) (九) (六) (五)

(東京 京都 大坂は日本の三大都なり)

ノヅ オー グレート ジネラル リガズ オー ネーテ  
**Nodzu, the great general, was the native**  
野津ハ 英俊ノ 大將ナル アツタ 土人テ  
(三) (一) (二) (七) (六)

オヴ サツマ  
**of Satsuma.**  
之 薩摩  
(五) (四)

(英將野津は素と薩摩國の産なり)

セミコロロン  
**Semicolon.** (半 重 點)

(;) は **comma** (句點) よりも稍や意味の纏まりたる處に用ゆる  
符號にして其聲音を歇める時間も稍や長く即ち二の數を算する  
間に止まり直ちに聲音を次の語に續けるなり 但し通例は其歇  
音の處に於て低落音勢を爲すなれども其文句の意味に依りては時  
として昂騰音勢を爲すとあり

オー ローズ イズ フェア ハット イット スーン フェーズ  
**The rose is fair; but it soon fades.**  
薔薇ハ アル 美シク 然シ 其ハ デキニ 凋△  
(一) (三) (二) (四) (五) (六) (七)

(薔薇は容姿美麗なれども凋衰甚だ速かなり)

コロロン  
**Colon.** (重 點)

(:) は **Semicolon** (半重點) よりも稍や意味の纏まりたる處  
に用ゆる符號にして其聲音を歇める時間も亦隨て長く即ち四數を  
算する間だけ止まり直ちに次の語に移りて聲音を繼ぐなり但し其



歌音の處に於ては低落音勢を爲す例へば

オー スカイ イズ グリーア    オー サン シンズ  
**The sky is clear: the sun shines.**  
空が アル 晴レテ    太陽が 輝ヤク  
(一) (三) (二)    (四) (五)

(空が晴れて 日が照て居ます)

ピリオド  
**Period.** (結尾點)

(.) は文 (Sentence) の結尾に用ゆる符號にして意味の完成したるを表するものなれば又之を **full stop** (圓滿點) とも云ふ即ち其斷音の處に於て低落音勢を爲し六數を算へるだけの音聲を歇めて然る後次の文あれば之に讀み移るなり

オー スカイ イズ ブルー  
**The sky is blue.**  
空が アル 藍色デ  
(一) (三) (二)

(空が青い)

オー シーナリー    エラウンド    オー シター    イズ    ヴェリー  
**The scenery around the city, is very**  
風景が    周圍ノ    都市ノ    アル    甚ダ  
(三)    (二)    (一)    (六)    (四)

ピリオド  
**beautiful.**  
美麗デ  
(五)

(市外近郊の景がたいそう奇麗です)

インターロゲーション  
**Interrogation.** (疑問點)

(?) は疑問文の結尾に用ゆる符號にして其聲音を歇める時間は **period** (結尾點) に同じく六數を算へる間だけ止まり然る後次の文あれば之に讀み移るなり 但し其疑問の性質 **yes** (然り) 又は

no (否) の語を以て答ふるを得べき直接的なるときは其斷音の處にて昂騰音勢を爲し若し此兩語の中を以て答ふるを得ざる間接的疑問なるときは其斷音の處にて低落音勢を爲す事 前已に説けるが如し例へば

イズ    オー    レーン    フォールグ  
**Is the rain falling?**  
居ルカ    雨ガ    降ッテ  
(三)    (一)    (二)

(雨は降つて居ますか)

フューア    イズ    ユーア    アムブレラ  
**Where is your umbrella?**  
何處ニ    アルカ    汝ノ    傘ハ  
(一)    (四)    (二)    (三)

(あなたの傘は何處に在りますか)

エキスクレメーション  
**Exclamation.** (情呼點)

(!) は異訝。驚愕。苦痛。歡喜の感情を言ひ表はす詞又は文章に用ゆる符號にして其聲音單一なる詞の後に歇むときは昂騰音勢を爲して僅かに一數を算へる間に止まりて直ちに次の詞に讀み移るものさし若し意味完成したる文の後もあるときは低落音勢を爲して六數を算へる時間だけ歇み然る後次に文あれば之に移るものさす例へば

オー    フォット    エ    スweet    ローズ  
**What a sweet rose!**  
ア    何ト    香    パシキ    薔薇デ  
(一)    (二)    (三)    (四)

(オヤオヤ何と香の好い薔薇ですなあ)



<sup>ダシ</sup>  
**Dash.** (頓挫符)

(一) は不意に聲音を休止し又は俄かに意味の變化せるを示す符號  
よして此符號若し他の斷音符の後に在るときは其聲音を歇める時  
間の長さは前に在る歇音の二倍なりとす

アイ ソー ヒム バット フォト エ サイト  
**I saw him—but what a sight!**  
予ハ 見ヌ 彼チ 然シ 何シタル 光景ゾヨ  
(一) (三) (二) (四) (五) (六)

(私は彼ヲ人ニ逢ひましたが何分にも見られない光景  
でありました)

以上は皆聲音を歇斷する符號の異なるが是より以下は作文上用ゆ  
る其他の符號を説き示すべし

<sup>アポストローフ</sup>  
(<sup>°</sup>) **Apostrophe.** (物主點兼省字符)

是れ其形狀 **comma** (句點) に似たる符號なれども **comma**  
は凡て語の下側に附し **apostrophe** は凡て語の肩側よ用ゆる  
の別ありて其用方二様あり一は文法上「何誰の何」とて名詞が「物の  
持主」たる意味を表はす場合に於て其名詞の肩側に附す斯る場合に  
は此符號を名けて物主點と云ふ例へば

タロース アック  
**Taro's book.**      **That is our empire's boast.**  
太郎ノ 書籍      其ハ アル 我が 帝國ノ 誇解テ  
(一)      (二)      (一) (五) (二)      (三)      (四)

レディー ス ハット  
**Lady's hat.**      (其は我帝國の誇稱する所なり)  
貴女ノ 帽子  
(一)      (二)

然れども <sup>エヴァー</sup> **ever** (曾て), <sup>イーヴン</sup> **even** (.....できへも), <sup>ラブド</sup> **loved** (愛せ  
り) を <sup>エアー</sup> **e'er**, <sup>イーヴン</sup> **e'en**, <sup>ラヴド</sup> **lov'd** と記るし又は <sup>イットイズ</sup> **it is.** (其はある)  
な <sup>ワズド</sup> **'tis**, <sup>ワズド</sup> **did not.** (爲さざりき) を <sup>ワズント</sup> **didn't**, <sup>ワズ</sup> **was not.** (あらざ  
りき) を <sup>ワズント</sup> **wasn't** と記すが如く緩字中にて或る文字の省略せられ  
たる處の上に此符號を附するときは之を照して省字符と云ふなり

<sup>クォーテーション</sup>  
( " " ) **Quotation.** (引句號)

此符號は或る文言の中に他の人が言へる言語又は或る著書等に言  
へる文句を引用したるに附するものにして此符號の挿める文句だ  
けは特に強音に讀むなり其例は前已に示したれば略す

<sup>パレンセシス</sup>  
( ( ) ) **Parenthesis.** (括弧)

此符號は文章構成の要素を爲さざるも或る意味を補ふが爲に挿め  
る文句を包括する符號にして此符號の内に挿める文句は凡て本文  
より低調なる聲音にて讀まざるべからず例へば

アイ ライキ オース ビーブル フォー ワード ノット ヴェリー  
**I like these people (who would not?) very**  
予ハ 好ム 是等ノ 人民チ 誰カ アラツカ 好マヌテ 大  
(一) (五) (三) (四) (六) (八) (七) (二)

<sup>マツチ</sup>  
**much.**      (私は此様な人達が大好きですが、猶私  
ヒニ      のみならず誰も同様であります)

<sup>ブラツケツツ</sup>  
( [ ] ) **Brackets.** (雙馬標)

此符號は文中にて之に先立てる詞又は文詞の意味を解釋せる詞を



挿む爲に用ゆるものなり例へば

<sup>カーロ</sup> <sup>マ</sup> <sup>マースフル</sup> <sup>ドグ</sup> <sup>ヴェント</sup> <sup>ホーム</sup> <sup>ワズ</sup> <sup>マイ</sup>  
**Carlo [the faithful dog] went home with my**  
<sup>カーロハ</sup> <sup>信實ナル</sup> <sup>犬ノ</sup> <sup>歸宅セリ</sup> <sup>共ニ</sup> <sup>我が</sup>  
 (三) (一) (二) (七) (六) (四)

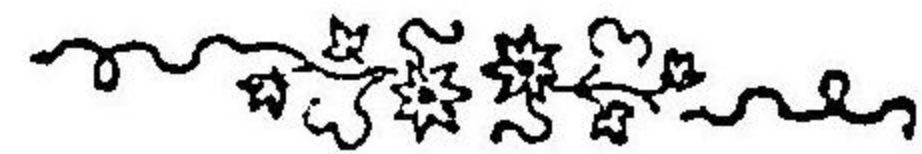
<sup>マ</sup> <sup>ストル</sup>  
**sister.** (忠犬カーロは既に私の姉<sup>キ</sup>妹<sup>メ</sup>と宅へ歸りま  
 姉妹ト (五) した)

(-) Hyphen. (連字符)

此符號は字と字。又は詞と詞の間。又は行<sup>キ</sup>の端に於て語の書き終らずして其幾分が次の行に分れ移るとき之を連ぬる爲に用ゆるものなり

<sup>エグザーサイズ</sup> <sup>ウェル</sup> <sup>ビーイング</sup> <sup>ワート</sup> <sup>エ</sup> <sup>ビット</sup>  
**Ex-er-cise. Well-doing. Wait-a-bit.**  
 練習 善行 一寸待て

猶此外に英語學上用る所の種々の符號あれども初學には敢て必用もなければ茲に略す



第二編 文法初歩 (Accidence.) <sup>アクセデンス</sup>

讀者は已に第一編に於て英語發音の方法を略知せしならん然るときは進んで英語の用方及び文の作り方を知り茲に始めて略ぼ自由に英語を用ひて談話するを得べし何となれば英米國にては凡て言文一致にして我邦の如く言語文章と別物なるにあらざればなり依て此編に於ては成るべく簡明に文法の大要を説示さんさす希くは初學者倦ます愈らす之に由て學び著者の苦心を空しからざらしめよ

第一章 名詞 (Noun.) <sup>ナウン</sup>

<sup>エムペロル</sup> <sup>ジムム</sup> <sup>フウンデット</sup> <sup>マ</sup> <sup>ヤパン</sup>  
**1. Emperor Jimmu founded the Japan**  
<sup>皇帝</sup> <sup>神武が</sup> <sup>創建セリ</sup> <sup>日本</sup>  
 (一) (二) (五) (三)

<sup>エムパイア</sup>  
**Empire.** (神武天皇が日本帝國を創建し給へり)  
 帝國ヲ (四)

<sup>マ</sup> <sup>グロース</sup> <sup>イン</sup> <sup>マ</sup> <sup>フォームス</sup>  
**2. Tea grows in the farms.**  
<sup>茶ハ</sup> <sup>生長ス</sup> <sup>ニ</sup> <sup>畑</sup>  
 (一) (四) (三) (二)

(茶は畑に生長するものです)

<sup>ヒ</sup> <sup>イズ</sup> <sup>デリジエツト</sup> <sup>ニン</sup> <sup>リー</sup> <sup>ラング</sup> <sup>エンド</sup> <sup>ライ</sup> <sup>テング</sup>  
**3. He is diligent in reading and writing.**  
<sup>彼ハ</sup> <sup>アル</sup> <sup>勉強ヲ</sup> <sup>ニ</sup> <sup>讀ム</sup> <sup>ト</sup> <sup>書ク事</sup>  
 (一) (七) (六) (五) (二) (三) (四)



(彼人は読み書きに勉強します)

4. <sup>オネステー イズ オー ベスト ポリシー オヴ マーチャント</sup>  
**Honesty is the best policy of merchant.**

正直ハ アル 最上ノ 策略デ 之 商人  
(一) (六) (四) (五) (三) (二)

(正直は最上の商略なり)

名詞とは人名。地名。物名。及び動作又は性質を表する名稱にして英文法にて之を <sup>ナウン</sup> **noun** (名詞) と云ふ

全上に掲げたる四個文例にて之を説かん (1) 例の Jimmu (神武) は一個の聖主を稱する詞なれば名詞なり Japan (日本) も一個土地の名を表する詞なれば名詞なり 又其 emperor (皇帝), empire (帝國), 及び (2) 例の tea (茶), 及び farms (畑) は世間普通に在る物の名を表する詞なれば名詞なり (3) 例の reading (讀む事), 及び writing (書く事) は各、動作を表する名稱なれば名詞なり 又 (4) 例の honesty (正直) は性質の名稱なれば名詞なり 其外 policy (策略) も亦事を處置する方法の名なれば名詞なり

1. 名詞の種別 <sup>サブディヴィジョン オヴ ナウンズ</sup> (Subdivision of nouns.)

名詞には三種の別あり

(1) 固有名詞 <sup>プロパー ナウン</sup> (Proper noun.) (2) 普通名詞 <sup>コムモン ナウン</sup> (Common noun.) (3) 無形名詞 <sup>アブストラクト ナウン</sup> (Abstract noun.) 是れなり

固有名詞 <sup>プロパー ナウン</sup> (Proper noun.)

<sup>ヤマダ マイ カズン ヲジツテツト トーキョー エンド</sup>  
**Yamada, my cousin, visited Tokyo, and**  
山田ハ 予ノ 從兄弟ナル 遊覽シ 東京ニ 而シテ  
(三) (一) (二) (五) (四) (六)

<sup>ソー オー ウエノ パーク エンド オー スミダ リヴァー</sup>  
**saw the Ueno Park and the Sumida River.**  
見タ 上野公園 ト 隅田川ヲ  
(十) (七) (八) (九)

(私の從兄弟(弟)の山田は東京見物に往て上野公園と隅田川を覽ました)

此英文に就て説かん Yamada (山田), Tokyo (東京), Ueno Park (上野公園), 及び Sumida River (隅田川) の如きは各、一個の人物。土地。及び物件に固有せる名を表する詞なる故之を固有名詞 (proper nouns) と云ふ猶ほ其外に一般の草木昆蟲の如き普通の物名にても宛かも生ける人を稱するが如く用ひられたるときは固有名詞と爲るなり例へば

<sup>ミス ヴァイオレット ミス カターピラー ミストル クロー</sup>  
**Miss. Violet. Miss. Caterpillar. Mr. Crow.**  
堇(紫)嬢 蝶(蛾)嬢 鴉君

等の如し。

普通名詞 <sup>コムモン ナウン</sup> (Common noun.)

<sup>ライス イズ オー プリンシパル オヴ アワー デーリー フード</sup>  
**Rice is the principal of our daily food.**  
米ハ アル 主要者デ 之 我々ノ 日々ノ 食物  
(一) (七) (六) (五) (二) (三) (四)

(米は我が日常の主要食物なり)



前項に於ては一個特殊なる名を表する詞を固有名詞と稱する事を説けり然るに一個特殊にあらずして廣く同一類族中に通じて毎物物の名を表する詞を普通名詞 (common noun) と云ふ即ち右に示す文例の詞に付て言へば先づ rice (米) は何れの米たるを問はず普れく米と云へる穀に通じ。food (食物) は凡て生活力を養ふべき食料に通じ。又 principal (主要物) は凡て多くある物の中にて特に主要の位地に在る者に通ずる詞なるゆへ各皆普通名詞なり手短かに言へば普通名詞 (common noun) とは同じ類族中の毎個に通ずる總名即ち「類稱」(class name) なり

(注意) 普通名詞は集合名詞 (collective noun) に紛らわしき所あれども大に異なれり何となれば集合名詞は各個の物數多集まりて一團體と爲れる其一體を稱する詞なればなり例へば assembly (集會), army (軍勢), fleet (艦隊) 等の如し。初學者よく此區別に注意して普通名詞と集合名詞を誤認するなけれ

無形名詞 (Abstract noun)

Knowledge is acquired by learning and experiences; making due use of it

知識ハ 由テ 學問ト 経験ニ 爲ス事ハ 適當ナル 使用ヲ 之 其レ

is by the wisdom.

アル 由テ 聰明ニ

(知識は學問と經驗に由て獲らるゝものにて又之を適當に應用する事は聰明穎智の働きの由るなり)

無形名詞 (abstract noun) とは物の名とあらずして凡て物に屬する性質の名なり例へば何々は甘いとか酸いとか云へば其甘い酸いと云ふ性質を物より分けて思ひ此性を呼ぶに甜味 (sweetness), 酸味 (sourness) の詞を以てするが如し斯の如く物の性質に關する名稱を無形名詞と名く。其他動作の名稱も亦無形名詞の部類に屬す。即ち上の文例の詞を以て言へば知識 (knowledge) は有識の意にして物事に廣く通せる性質を表する詞なれば無形名詞なり。聰明 (wisdom) は賢明にして是非の斷に敏なる性質を表する詞なれば無形名詞なり。又學問 (learning) は學ぶ事と云ふ動作を表し。爲す事 (making) は應用を爲すの動作を表し共に無形名詞の部類に屬す

2. 名詞の變化 (Declension of nouns.)

英語の名詞には三つの變化あり 第一、性 (gender), 第二、數 (number), 第三、格 (case) 是れなり

第一 性に三つの區別あり凡て男性の物の名を表する詞を男性名



ナウン・オヴ マスキュライン ジェンダー  
 詞 (noun of masculine gender) と云ひ女性の物の名を  
 ナウン オヴ フェミニン ジェンダー  
 表する詞を女性名詞 (noun of feminine gender.) と云  
 ひ 男性にも非ず亦女性にも非ざる物の名を表する詞を中性名詞  
 ナウン オヴ ニュートル ジェンダー  
 (noun of neuter gender.) と云ふ

性 (Gender.)

名詞が男女の區別を示すに三つの法あり第一は語尾の變化を以て  
 す其例左の如し

男性 (masculine)	女性 (feminine)
オーゾル Author 著者	オーゾレス Authoress 女の著者
ダーク Duke 公爵	ダクセス Duchess 公爵夫人
エムペロル Emperor 皇帝	エムプレス Empress 皇后
フウンダー Founder 創立者	フウンドレス Foundress 女の創立者
ゴッド God 神	ゴツデス Goddess 女神
ヘーア Heir 繼承嗣	エイレス Heiress 女の繼承嗣
ヒーロー Hero 勇士	ヒロイン Heroin 女丈夫
インヴェントル Inventor 發明者	インヴェントレス Inventoress 女の發明者
ライオン Lion 獅子	ライオネス Lioness 牝獅子
マスター Master 旦那	ミスレス Mistress 主婦
ネーグロ Negro 黑人	ネーグレス Negress 女の黑人
プリンス Prince 親王	プリンセス Princess 内親王

ソングストル Songster 唱歌者	ソングストレス Songstress 唱歌女
テイロル Tailor 裁縫師	テイロレス Tailoress 女の裁縫者
タイガー Tiger 虎	タイグレス Tigress 牝虎
ウクトル Victor 勝利者	ウクトレス Victoress 女の勝利者
ウドーア Widower 寡夫	ウドー Widow 寡婦

第二は全く異形の詞を以て男女の區別を示す其例左の如し

男性 (masculine)	女性 (feminine)
バチエロル Bachelor 獨身者	スピンストル Spinster } 未嫁女
ボーイ Boy 年少者	メイ Maid } 處女
ブラザー Brother 兄弟	シストル Sister 姉妹
ブル Bull 牡牛	カウ Cow 牝牛
コック Cook 雄鶏	ヘン Hen 雌鶏
ドグ Dog 牝犬	ビッチ Bitch 牝犬
ドレーキ Drake 雄鶩	ダック Duck 雌鶩
ファー Father 父	マザー Mother 母
ガンダー Gander 雄鶩	グース Goose 雌鶩
ジェントルマン Gentleman 紳士	レディー Lady 貴女
ホールス Horse 牡馬	メーア Mare 牝馬
ハズバンド Husband 丈夫	ワイフ Wife 妻
ラッド Lad 壯丁	ラス Lass 壯少の婦女



マン <b>Man</b>	成年男子	ウーマン <b>Woman</b>	成年の婦人
ネズー <b>Nephew</b>	甥	ニース <b>Niece</b>	姪
サー <b>Sir</b>	(何某)君(尊稱の語)	マダム <b>Madam</b>	(何某)様(女の尊稱)
サン <b>Son</b>	息 <sup>ス</sup> 男 <sup>コ</sup>	ドートル <b>Daughter</b>	息 <sup>ス</sup> 女 <sup>メ</sup>
スタグ <b>Stag</b>	牡 <sup>オ</sup> 鹿 <sup>カ</sup>	ハインド <b>Hind</b>	牝 <sup>メ</sup> 鹿 <sup>カ</sup>
アングル <b>Uncle</b>	伯 父	アUNT <b>Aunt</b>	伯 母
ウザード <b>Wizard</b>	妖 <sup>マ</sup> 術 <sup>マ</sup> 者 <sup>シ</sup>	ウッチ <b>Witch</b>	妖術を使ふ女

第三は主なる詞の前又は後に男女の性を表する他の詞を加へて男性を女性に變じ女性を男性に變するなり其例左の如し

男性 (masculine)		女性 (feminine)	
ブライドグROOM <b>Bride-groom</b>	花 <sup>ナ</sup> 婿 <sup>ムコ</sup>	ブライド <b>Bride</b>	花 <sup>ナ</sup> 嫁 <sup>メ</sup>
バツグ ラビツト <b>Buck-rabbit</b>	牡 <sup>オ</sup> 兎 <sup>ウサギ</sup>	ドー ラビツト <b>Doe-rabbit</b>	牝 <sup>メ</sup> 兎 <sup>ウサギ</sup>
コック スパロー <b>Cock-sparrow</b>	雄 <sup>オス</sup> 雀 <sup>スズメ</sup>	ヘン スパロー <b>Hen-sparrow</b>	雌 <sup>メス</sup> 雀 <sup>スズメ</sup>
ヒー ベア <b>He-bear</b>	牡 <sup>オ</sup> 熊 <sup>クマ</sup>	シー ベア <b>She-bear</b>	牝 <sup>メ</sup> 熊 <sup>クマ</sup>
ヒー ゴート <b>He-goat</b>	牡 <sup>オ</sup> 山 <sup>ヤマ</sup> 羊 <sup>ヒツジ</sup>	シー ゴート <b>She-goat</b>	牝 <sup>メ</sup> 山 <sup>ヤマ</sup> 羊 <sup>ヒツジ</sup>
ジャック アス <b>Jack-ass</b>	牡 <sup>オ</sup> 驢 <sup>ウサ</sup>	アス <b>Ass</b>	牝 驢
ランド ロルド <b>Land-lord</b>	旅 <sup>リョウ</sup> 亭 <sup>テイ</sup> の主人	ランド レディー <b>Land-lady</b>	旅 <sup>リョウ</sup> 亭 <sup>テイ</sup> の主婦
メール キルド <b>Male-child</b>	男 <sup>オコ</sup> の 兒 <sup>コ</sup>	フェメール キルド <b>femal-child</b>	女 の 兒
マン サーヴァント <b>Man-servant</b>	下 男	メイド サーヴァント <b>Maid-servant</b>	下 女
ピー コック <b>Pea-cock</b>	雄 孔雀	ピー ヘン <b>Pea-hen</b>	雌 孔雀
スクール マスター <b>School-master</b>	學校 教師	スクール ミストレス <b>School-mistress</b>	女 教師

トム キャット <b>Tom-Cat</b>	牡 猫	シー キャット <b>She-cat</b>	牝 猫
---------------------------	-----	---------------------------	-----

此外に一様の詞形にして男女兩性に用ゆる名詞あり一に之を名けて普通性( ナウン オヴ コムモン ジェンダー ) **(noun of common gender)** と云ふ例へば ボタニスト **Botanist** (植物學者), カズン **Cousin** (從兄弟。又は從姉妹), フレンド **Friend** (朋友), ガーディアン **Guardian** (後見人), ネーバア **Neighbor** (近隣の人), ペーレント **Parent** (親), サーヴァント **servant** (奉公人), フゼーデント **Student** (書生), ウイタネス **witness** (證據人) 等の如し其他 マン **man** (人類), ベビー **baby** (赤子), インファント **infant** (稚兒), キイルド **child** (子供), ホース **horse** (馬), ドッグ **dog** (犬), ダック **duck** (家鴨), グース **goose** (鵞) の如きは通例男女雌雄を區別せず

各; 其物の總名として用ゆると多き詞なり

又單に女性のみによりて用ゆる名詞あり例へば ドウェーゼー **dowager** (私産ある寡婦), ブルネット **brunette** (色黒き女) 等の如し

中性の名詞とは男女雌雄の差別なき無情の名詞にして例へば チェア **table** (机), チェア **chair** (椅子) 等の如きを云ふ然れども其詞の働かせ方に依りて無情なる中性名詞も男性又は女性に用ひ其詞の後に各; 其性に相當せる代名詞を用ひて之を表するとあり即ち元來中性名詞にして男性又は女性に用ひらるゝものを舉れば左の如し

男性 (masculine)		女性 (feminine)	
サン <b>Sun</b>	太 陽	ムーン <b>Moon</b>	月 輪
ウインター <b>Winter</b>	冬	スプリング <b>Spring</b>	春
オーシャン <b>Ocean</b>	大 洋	アース <b>Earth</b>	地 球



サンダー <b>Thunder</b>	雷	サママー <b>Summer</b>	夏
アングー <b>Anger</b>	怒	オータム <b>Autumn</b>	秋
ラヴ <b>Love</b>	愛	ヴァーチュ <b>Virtue</b>	徳
ジラシー <b>Jealousy</b>	嫉妬	ロー <b>Law</b>	法律
ヘートレット <b>Hatred</b>	怨み	ジャスティス <b>Justice</b>	公正
ラスト <b>Lust</b>	慾	リーズン <b>Reason</b>	道理
		ライト <b>Right</b>	權利

右の外に土地。國。郡。船の類が總て女性に用ひらるゝなり

數 (Number)

第二 英語の名詞には一個の物を表す詞と二個以上の物を表す詞あり斯く一個を表すと二個以上を表すとの間の區別を名詞の數 (number of noun) と云ひ而して其一個を表するものを單數 (singular number) と云ひ二個以上を表するものを複數 (plural number) と云ふ

名詞の複數を作る規則

通例の規則に依れば單數名詞の語尾に 's' の文字を加へて複數と爲す其例左の如し

單數 (singular)	複數 (plural)
バツド <b>bud</b> (蕾)	バツツ <b>buds</b> (全二個以上)

フลาวアー <b>flower</b> (花)	フラワー <b>flowers</b> (全二個以上)
フルート <b>fruit</b> (菓實)	フルーツ <b>fruits</b> (全二個以上)
イーグル <b>eagle</b> (鷲)	イーグス <b>eagles</b> (全二個以上)
ホーク <b>hawk</b> (鷹)	ホークス <b>hawks</b> (全二個以上)
レン <b>wren</b> (鶯)	レンス <b>wrens</b> (全二個以上)
シチズン <b>citizen</b> (市民)	シチズンズ <b>citizens</b> (全二個以上)
プレジデント <b>president</b> (大統領)	プレジデント <b>presidents</b> (全二個以上)
モナーク <b>monarch</b> (君主)	モナークス <b>monarchs</b> (全二個以上)

其二 然れども s, sh, z, x 又は柔音の ch (即ち「チ」の音) によつて語尾を爲せる單數の名詞には更に其尾りに es の文字を加へて猶 es の一綴音を添へ以て複數名詞と爲す例へば

ガス <b>gas</b> (氣)	ガセス <b>gas-es</b> (全二個以上)
グェス <b>guess</b> (推量)	グェセス <b>guess-es</b> (全二個以上)
ディッシュ <b>dish</b> (皿。鉢)	ディッシュズ <b>dish-es</b> (全二個以上)
トパズ <b>topaz</b> (黄寶石)	トパゼス <b>topaz-es</b> (全二個以上)
フォックス <b>fox</b> (狐)	フォクセス <b>fox-es</b> (全二個以上)
ベンチ <b>bench</b> (長腰掛)	ベンチエス <b>bench-es</b> (全二個以上)

注意 但し子韻の文字を前に有る o の文字にて語尾を爲せる名詞には es を添て複數を爲すと同じけれども之が爲に語尾に一綴音を増すとなし例へば hero (勇士), heroes (全二個以上), potato (馬鈴薯), potatoes (全二個以上) の



如し

其三 子韻の文字を前より有る y の文字にて語尾を爲せる名詞に  
於ては其 y を i に變じ其後に es 加へて複數名詞を爲す例へば

<sup>レディー</sup> lady (貴女)	<sup>レディーズ</sup> ladies (全二個以上)
<sup>デューティー</sup> duty (本分)	<sup>デューティーズ</sup> duties (全二個以上)
<sup>パーティー</sup> party (黨派)	<sup>パーティーズ</sup> parties (全二個以上)
<sup>ストーリー</sup> story (談話)	<sup>ストーリーズ</sup> stories (全二個以上)

注意 但し y の前より母韻の文字を有る名詞なれば上の如き  
變化を爲さずして第一の規則に依り直ちに y の後に s の文  
字を添て複數を成形す例へば joy (喜悅), joys (全二個以  
上), monkey (猿), monkeys (全二個以上), ray (光線),  
rays (全二個以上) 等の如し

其四 f 又は fe の文字にて語尾を爲せる名詞は其 f 又は fe を  
v に變じ其後に es を加へて複數名詞を成形す例へば

<sup>リーフ</sup> leaf (木葉)	<sup>リーヴズ</sup> leaves (全二個以上)
<sup>カルフ</sup> calf (犢子)	<sup>カルヴズ</sup> calves (全二個以上)
<sup>シーフ</sup> thief (盜賊)	<sup>シーヴズ</sup> thieves (全二個以上)
<sup>ウルフ</sup> wolf (狼)	<sup>ウルヴズ</sup> wolves (全二個以上)
<sup>ナイフ</sup> knife (小刀)	<sup>ナイヴズ</sup> knives (全二個以上)
<sup>ライフ</sup> life (生命)	<sup>ライヴズ</sup> lives (全二個以上)
<sup>ワイフ</sup> wife (妻)	<sup>ワイヴズ</sup> wives (全二個以上)

### 不規則なる複數法

左に掲ぐる名詞は不規則に複數を成形す

單 數		複 數	
<sup>マン</sup> man (成年男子)		<sup>メン</sup> men (全二個以上)	
<sup>ウーマン</sup> woman (婦 人)		<sup>ウメン</sup> women (全二個以上)	
<sup>チャイルド</sup> child (子 供)		<sup>チルドレン</sup> children (全二個以上)	
<sup>オクス</sup> ox (開耕 牛)		<sup>オクスン</sup> oxen (全二個以上)	
<sup>マウス</sup> mouse (鼠)		<sup>マウス</sup> mice (全二個以上)	
<sup>ラウス</sup> louse (虱)		<sup>ライス</sup> lice (全二個以上)	
<sup>フット</sup> foot (足。一尺)		<sup>フート</sup> feet (全二個以上)	
<sup>トゥース</sup> tooth (齒)		<sup>テース</sup> teeth (全二個以上)	
<sup>グース</sup> goose (鵞)		<sup>ギース</sup> geese (全二個以上)	

又或る少數の名詞は單數にも複數にも同形を以て用ゐらる 即ち左  
の如し

單 數		複 數	
<sup>シープ</sup> sheep (羊)		<sup>シープ</sup> sheep (全二個以上)	
<sup>デア</sup> deer (鹿)		<sup>デア</sup> deer (全二個以上)	
<sup>グラウス</sup> grouse (松鴉雞)		<sup>グラウス</sup> grouse (全二個以上)	
<sup>シモン</sup> salmon (鮭)		<sup>サモン</sup> salmon (全二個以上)	
<sup>ヘーゼン</sup> heathen (異教徒)		<sup>ヘーゼン</sup> heathen (全二個以上)	







元來外國の名詞にして未だ十分に英語に化せざるものは猶其由來せる國々の複數形を保存するもの多し。但其例は茲に略して載せず二個以上の詞を合せて成れる複合名詞の複數成形法に就ては須らく下の三點に注意すべし

1. 複合名詞の複數は概れ其主部の名詞に他の接尾詞を附加して複數を成形す例へば <sup>フルーツ トリース</sup> **fruit-trees** (菓樹), <sup>ブラザーズ</sup> **brothers-in-law** (義兄弟), <sup>エーツ デ カーン</sup> **aids-de-camp** (傳令使) の如し(以<sup>ナ</sup>太利文字にて書きたるものが主部の名詞なり)
2. 若し複合詞の後部が佛語式に倣つて形容詞なるときは複數を爲すための文字は名詞の尾りに附加するものとす例へば <sup>アツトルネース ジェネラル</sup> **attorneys-general** (大狀師), <sup>カーツ マーシヤル</sup> **courts-martial** (軍法會議所) の如し 但し二個の名詞より合成するものは其兩名詞ともに複數の形狀を爲す例へば <sup>ナイト</sup> **Knights-Templars** (宮中法官), <sup>メン サーヴァンツ</sup> **men-servants** (下男), <sup>ウメン サーヴァンツ</sup> **women-servants** (下女) の如し
3. 若し短かき詞を密接して複合名詞を爲すも全部備はらざれば意味を成し難きものは在ては其複數の符號文字を單一終りの詞にのみ附す例へば <sup>フォーゲット ミー ノツツ</sup> **forget-me-nots** (碧花を生ずる小草の名) の如し

格 (Cases.)

第三 英語の名詞を働らかせるに付き 或は働詞が働きを言ひ表は

す主部の詞を爲るとあり或は働詞の働きに對する目的の詞を爲り又は前置詞の目的を爲るとあり又或は何物かを所有する持主の詞を爲るとあり而して主部の詞を爲るときは之を「主格」(nominative case.) と云ひ目的の詞を爲るときは之を「目的格」(objective case.) と云ひ持主の詞を爲るときは「物主格」(possessive case.) と云ふ例へば

1. <sup>マザー ラヴス ホル ベビー</sup> **Mother loves her baby.**  
母が 愛ス 彼レノ 赤子ヲ  
(一) (四) (二) (三)  
(mother が主格。baby が目的格)
2. <sup>ベビー ラヴス イツ マザー</sup> **Baby loves its mother.**  
赤子ハ 愛ス 其 母ヲ  
(一) (四) (二) (三)  
(baby が主格。mother が目的格)
3. <sup>タロース キャップ ウォズ ブロウン インヒー モー リヴァー</sup> **Taro's cap was blown into the river.**  
太郎ノ 帽ガ サレタ 吹キ 落 川ニ  
(一) (二) (五) (四) (三)  
(Taro's が帽の持主として物主格。cap は主格。river は目的格)

但し (1) の例に於ける baby と (2) の例に於ける mother は loves (愛する) と云ふ働詞の目的なれども (3) 例の river は into (迄) なる前置詞の目的なり

斯く名詞が種々に位地を變る毎に文中にて他の詞に對する關係を異にす是れ即ち名詞の格にして其格には既に示す如く三種あるを知るべし而して名詞が主格を爲り目的格を爲るには別に詞の形狀



を變ずる事なれども唯其物主格を爲るには一定の規則に依て名詞の形を變ず其事は下に説ける所を見て知るべし(上に言ふ三格の外に又獨立格及び同格など云ふ事あれども是等の事は後に説くべし)

### 物主格の規則

1. 單數の物主格は單數の主格名詞の後の肩側に物主點 (') を附し其後に s の文字を加へて成形す例へば <sup>ボーイ</sup> boy (單數主格名詞) を <sup>ボーイス</sup> boy's (單數物主格。即ち男の子の) と爲すが如し
  2. 複數の物主格は複數の主格名詞の肩側に物主點 (') のみを附して (s を加へず) 成形するを常則とす例へば <sup>ボーイス</sup> boys (複數主格名詞) を <sup>ボーイス</sup> boys' (複數物主格名詞。即ち男の子等の) と爲すが如し。然れども物主格を爲さんと欲する複數主格名詞が s の文字にて語尾を爲さざるものなるときは單數物主格の如く物主點と s を加へて物主格を成形す例へば <sup>チルドレン</sup> children (二人以上の子供。即ち複數主格名詞) を <sup>チルドレンス</sup> children's (子供等の。即ち複數物主格) と爲し。 <sup>オクセン</sup> oxen (二頭以上の闊犂牛。複數主格名詞) を <sup>オクセンズ</sup> oxen's (闊犂牛供の。即ち複數物主格) と爲し。 <sup>シープ</sup> sheep (羊。複數主格名詞) を <sup>シープス</sup> sheep's (羊供の。即ち複數物主格) と爲すが如し
- 今單數と複數に於ける boy (童男), man (成男), lady (貴女), sheep (羊) の四語を主格。物主格。目的格。の三種に變じて排列すると左の如し

### Boy (童男)

單數	複數
主格 boy (男の子ガ。ハ)	boys (男の子等ガ。ハ)
物主格 boy's (男の子ノ)	boys' (男の子等ノ)
目的格 boy (男の子ニ。ヲ)	boys (男の子等ニ。ヲ)

### Man (成男)

單數	複數
主格 man (成男ガ。ハ)	men (成男等ガ。ハ)
物主格 man's (成男ノ)	men's (成男等ノ)
目的格 man (成男ニ。ヲ)	men (成男等ニ。ヲ)

### Lady (貴女)

單數	複數
主格 lady (貴女ガ。ハ)	ladies (貴女等ガ。ハ)
物主格 lady's (貴女ノ)	ladies' (貴女等ノ)
目的格 lady (貴女ニ。ヲ)	ladies (貴女等ニ。ヲ)

### Sheep (羊)

單數	複數
主格 sheep (羊ガ。ハ)	sheep (羊等ガ。ハ)
物主格 sheep's (羊ノ)	sheep's (羊等ノ)
目的格 sheep (羊ニ。ヲ)	sheep (羊等ニ。ヲ)



### 第二章 動詞 (Verb)

- |  |                     |
|--|---------------------|
| 1. <sup>オー</sup> <sup>サン</sup> <sup>シインス</sup><br><b>The sun shines.</b><br>太陽ガ 照ス<br>(一) (二)                        | 1. 日が照つて居ます         |
| 2. <sup>アール</sup> <sup>ユー</sup> <sup>ライティング</sup><br><b>Are you writing?</b><br>居ルカ 汝ハ 書テ<br>(三) (一) (二)             | 2. あなたは書かれてお出でなされるか |
| 3. <sup>ブリング</sup> <sup>ミー</sup> <sup>エ</sup> <sup>ブック</sup><br><b>Bring me a book.</b><br>持來レ 予ニ 書籍ヲ<br>(三) (一) (二) | 3. 書物を一冊持て来て呉れ      |

此三つの文例に就て説かんに (1)例の **shines** は太陽が照らすと云ふ働きを述る動詞にして即ち太陽なる物に付て一の事柄を叙述す。(2)例の **are writing** は書く事を尋問する意に用ゐらるゝなれど此用ひ方は平文に直して見れば「今ま書て居る」として猶ほ「坐つて居る」(**are sitting**) 又は「眠つて居る」(**are sleeping**) と云ふに異なるをなければ即ち當り時存在せる有様を述る詞なり又 (3)例の **bring** は平文にすれば「持て來る」と云ふ働きを述る動詞なれども唯此場合に於ては「書物を持て來る」と云ふ事を命令的に用ゐたる迄の差あるのみ。是に由て見れば動詞は動作(**action**) 又は存在 (**being**) を述る詞にして其用方より言へば「人又は物の動作存在を叙述する」と「或る事の尋問を爲す」と「命令を爲す」の三つに過ぎざるを知るべし

動詞は常に單語にて動作存在を述るのみならず又實際に言ひ表は

さんと期したる動作存在を述べ盡すに必要なる詞を用るものなれば二個以上四個の詞を以て成るもの多し例へば **is learning** (學イマ ラーニングびつゝある), **will be told** (告げらるゝならん), **has been requested** (要求せられた), **might have been loved** (或は愛されたるならん) 等の如し要するに動詞は常に人の思想を吐露するのみならず又意見を主張し決意を宣言する詞にして動詞の用主として此に在り

### 他動詞と自動詞

(Transitive and intransitive.)

今 **birds fly**. (鳥が飛ぶ) と云ふときは單に鳥が「飛ぶ」(**fly**) と云ふ働きを述る迄の事にして其働きは鳥が自から爲すのみにて他に其働きの及ぶ所なければども **horse drinks water** (馬が水を飲む) と云ふときは唯「馬が飲む」(**horse drinks.....**) とばかりにては完き意味を成さざる故其飲む所の目的物なる「水」(**water**) なる詞を加へて「飲む」(**drinks**) と云ふ働きを水に及ぼすなり。斯く文中に主部の名詞 (即ち **birds** と **horse**) と其働きの述る動詞 (即ち **fly**) のみありて他に其働きの及ばざる動詞を「自動詞」(**intransitive verb**) と云ひ主部名詞と其働きの述る動詞と又其働きの及ぼすべき目的の詞あるときは其動詞を「他動詞」(**transitive verb**) と云ふ一音に之を説けば自動詞と他動



詞の差異は目的の詞を有るべき所に在るなり

第三章 形容詞 (Adjectives.)

1. That way is the nearest, to my home.
其ノ 道ハ アル 最も近キモノデニ 予ノ 宅
(一) (二) (七) (六) (五) (三) (四)

そちらの方が私の宅へ極近い路です

2. The rainbow is of the seven colours.
虹ニ 霓ハ アル 付テ 七ツノ 色ニ
(一) (五) (四) (二) (三)

虹ニ霓ハ七色を具へて居るものです

3. A mild weather is suitable to our health.
エ マイルド ヲ ヲ ヲ イズ シーテ-ブル トー アワー ヘルス
温和ナル 天氣ハ アル 適當シテニ 我々ノ 健康
(一) (二) (七) (六) (五) (三) (四)

穏やかなる天氣は能く我々の健康に適ひます

(1) の文例に於ては多くある道路の中で一方の路を指し示さんが爲に that (其の) なる詞を用ひて路 (way) なる名詞の意味を定め。(2) の文例に於ては色の數幾何なるを言はんが爲に seven (七個の) なる詞を用ひて色 (colour) なる名詞の意味を限り。又 (3) の文例に於ては如何なる性質の天氣なるを言はんが爲に mild (温和なる) なる詞を用ひて天氣 (weather) なる名詞の意味を斷ぜむ即ち that (其の) と seven (七つの) は各其名詞の意味を制限し mild (温和なる) は其名詞の意味を名狀ス。斯くの如くに用ゐらるゝ詞を總て形容詞 (adjectives) と云ふ

なり

(附註) 形容詞は常に名詞のみならず間て代名詞に用ひらるゝとあり但し其例は後の代名詞の解説に於て詳しく見るべし a, an 及び the なる詞は通例「冠詞」(articles) と名くる者なれども是れ亦名詞の意味を定限するものゆへ形容詞の部類に屬す

定冠詞 (Definit articles) 及び不定冠詞

(Indefinite articles.)

冠詞の用ゐ方は種々雑多にして詳細に説くときは一冊の書を爲すに至る程なれども亦は讀者が他日深く學ばんとする時に究むる事として茲には其大略を説き示さん
冠詞に二種あり「其の何々」、「此の何々」。又は「彼の何々」さて事物の意義を一定する爲に名詞の前に the なる冠詞を用ふ之を定冠詞 (definite article) と云ひ。多く世間に在る物の中にて「何れか一つ」。又は「或る」。又は「一個の」さて一定せざる單數の意味にて名詞を用ふるときは其名詞の前に a, 又は an の冠詞を用ふ之を不定冠詞 (indefinite articles) と云ふ例へば the table. (該ノ机又は此机), a pen (一本の筆), an ant. (一匹の蟻) 等の如し
故に the は特に指定せられたる名詞の前に置かれ場合に依りて



は單數も複數にも用ゐらるゝものにして **a** と **an** は指定なき名詞の前に用ゐらるゝなれども唯 **a** なる冠詞は其後に次て來る名詞又は形容詞が子韻を以て端を起すときに用ゐ **an** は其次に來る名詞又は形容詞が母韻を以て起るときに用ふるの差があり即ち上に示す如く **pen** 又は **table** の名詞を不定の意味にて用ひんとするときは兩つながら **p, t** の子韻を以て詞の端を起すものゆへ孰れも其前には **a** なる冠詞を用ゐ若し **ant** 其他 <sup>エンド</sup> **end** (終端), <sup>オーク</sup> **oak** (樅樹), <sup>アーン</sup> **urn** (壺) 等の如き **a, e, i, o, u** なる母韻の中を以て綴り初めたる名詞を不定の意味にて用ゐんとするときは其名詞と冠詞の間の音を口調好くする爲に **an** を其名詞の前に用ふるものとす例へば **an ant** (一匹の蟻), **an end** (一端又は一の目途), **an oak** (一の樅樹), **an urn** (一個の壺) 等の如し

右の外に <sup>ユア</sup> **heir** (繼嗣), <sup>アワー</sup> **hour** (時間), <sup>オネスト</sup> **honest** (正直なる), <sup>オノーア</sup> **honour** (名譽) 等の如く語形は皆 **h** なる子韻の文字にて綴り初めたるなれども其字音は何れも **h** が黙字と爲りて響かず次の **e** 又は **o** なる母韻より發音せるゆへ畢竟母韻を以て綴り初めたると同様なる名詞あり斯る名詞を不定の意味にて用ゐんとするときは無論前例と同様 **an** なる冠詞を其前に加ふるものとす

又猶一つの心得置くべきは斯く **an** なる冠詞を用ゆるは畢竟其次に來るべき詞の初めに在る母韻に音調を合せんが爲めなれば若し其冠詞が意味を形容せんとする後の名詞が子韻を以て起端せるも

のなるにせよ母韻を以て發音し初むる形容詞が冠詞と其名詞の間に來り即ち直ちに不定冠詞に接する位置に在るときは無論其前に **an** を用ゆるものとす事是なり例へば「一人の老人」と云へる意味の英語は <sup>オールド</sup> **old man** にして肝腎の冠詞を附すべき名詞 **man** (人) は **m** なる子韻を以て初むる詞なれども其前なる形容詞 **old** (老ひたる) が **o** なる母韻を以て發音の初めを爲すものゆへ **an** を其前に用ゐて **an old man**. と云へば意味も口調も完全なる語句と爲るなり猶其他の事は後の章に説くべし

性質形容詞 <sup>クオリファイイング アジエクティブス</sup> (**Qualifying adjectives.**)

<sup>エン</sup> **An honest man is the** <sup>ノブレスト</sup> **noblest** <sup>ワーク</sup> **work of** <sup>ゴッド</sup> **God.**  
 正直ナル人ハアル最も貴キ造物テ之神  
 (一) (二) (七) (五) (六) (四) (三)

正直者は造物の靈なり

例へば此文中に用ゐたる **honest** (正直なる) 又は **noblest** (最貴き) の如く「正直なる人」とか「最貴なる造物」とか各々其名詞の性質を示す形容詞を性質形容詞 (**qualifying adjective**) と云ひ此種の形容詞が示す所の性質を大別して三種と爲すべし即ち

色... { <sup>エ</sup> **A white horse.** (白馬) <sup>エ</sup> **A black dog.** (黒犬)  
           <sup>エ</sup> **A red book.** (紅書) <sup>エ</sup> **A yellow flower.** (黄花)  
           <sup>エ</sup> **A purple dress.** (紫服) <sup>エ</sup> **A blue sky.** (青空)



大サ	エ ラージ ハウス	A large house. (大家屋)	エ スモール コツテージ	A small cottage. (小舎)
	エ ブロード ロード	A broad road. (廣道)	エ ナーロー パス	A narrow path. (狹路)
	エ ロー チムネー	A low chimney. (低烟突)	エ トール トリー	A tall tree. (高樹)
品質	エ ソフト ベッド	A soft bed. (軟き床)	エ ハード ロック	A hard rock. (堅岩)
	エ フイン ウェザー	A fine weather. (好天氣)	エ フェルス タイガー	A fierce tiger. (猛虎)
	エ ジェントル ラム	A gentle lamb. (温羊)	エ ブレーヴ ハート	A brave heart. (勇心)

茲に又國名より由來せる一種の形容詞あり是れ亦性質形容詞の類に屬するものにして名けて固有形容詞 (proper adjectives) と云ふ即ち下の如し

固有名詞即ち國名	固有形容詞
キイナ China (支那)	キイニース Chinese (支那の。又は支那人)
ジパン Japan (日本)	ジパニース Japanese (日本の。又は日本人)
イタリー Italy (以意大利)	イタリアン Italian (以意大利の。又は以意大利人)
アメリカ America (亞米利加)	アメリカン American (亞米利加の。又は亞米利加人)
スペイン Spain (西班牙)	スペニシ Spanish (西班牙の。又は西班牙人)
スコットランド Scotland (蘇格蘭)	スコッチ Scotch 又は Scottish (蘇格蘭の。又は蘇格蘭人)
トルキー Turkey (土耳其)	トルキシ Turkish (土耳其の。又は土耳其人)

附註 固有形容詞の書き始めには必ず大頭字を以てせざるべからず

制限形容詞 (Limiting adjectives.)

オス ブック ハズ ビロンクド ちー マイ シスター フォー  
 This book has belonged to my sister for  
 此ノ 書籍ハ タ 屬シ ニ 予ノ 姉妹 間  
 (一) (二) (九) (八) (七) (五) (六) (四)  
 フーア イーアズ  
 four years. 此書物は四年の間私の姉(又は妹)の所  
 四年ノ 有であつた  
 (三)

形容詞には「此の」さか「其の」さか「幾何の」さか又は「若干の」さか「多くの」さか「僅かの」さか唯名詞の意味を指定し又は制限するものあり之を名けて制限形容詞 (limiting adjectives) と云ふ例へば上の文例に於て this book (此の書籍) として確々と一の書籍を指定し又 four years (四年) として年の数を制限する此 this, four なる詞を制限形容詞と爲すが如し

註 解

1. 制限形容詞の中には唯名詞の言へる物を指示するものあり例へば this horse (此馬) として他の馬よりも寧ろ近き馬を指し又 that horse (其馬) として近き馬よりも寧ろ遠き馬を指すが如し
2. 又制限形容詞には物の量を示すものあり今之を兩別して數量を示すに用ゐらるゝものと容量を示すに用ゐらるゝものを擧れば左の如し



定	ワン オクス	スリー カウス
	<b>one ox</b> (一頭の闘牛)	<b>three cows</b> (三頭の牝牛)
数	ザー フIRST フォクス	ザー サード ホールス
	<b>the first fox</b> (第一の狐)	<b>the third horse</b> (第三の馬)
不	イーナ インディビジュアル	イーザー マン
	<b>each individual</b> (各の個)	<b>either man</b> (両者の各人)
定	ニーマン ウーマン	
	<b>neither women</b> (兩者孰れかの婦人。但し打消しの詞)	
不	サム パーソンズ	アザー パーソンズ
	<b>some persons</b> (若干名の人物)	<b>other persons</b> (他の幾人)
定	オール チルドレン	メニー ヴィジトルズ
	<b>all children</b> (總ての童兒等)	<b>many visitors</b> (數多の訪問者)
不	セヴェラル ウーマン	フュー ガールズ
	<b>several women</b> (幾名の婦人)	<b>few girls</b> (少數の處女)
定	モスト ボーイズ	
	<b>most boys</b> (最多數の童男)	
不	ノー パーソン	エヴリー トラヴェラー
	<b>no person</b> (一人も...せず)	<b>every traveler</b> (每個の旅客)
容量形容詞	サム テー	マツチ シーガー
	<b>some tea</b> (若干量の茶)	<b>much sugar</b> (多量の砂糖)
定	リトル ミルク	エニー ブレッド
	<b>little milk</b> (少量の乳汁)	<b>any bread</b> (何れかの麵包)

3. 冠詞も亦此形容詞の類に屬すれども是は前已に説き示したれば茲に略す

4. 又制限形容詞には自から名詞を代表するものあり之を代名的形容詞と云ふ詳らかに言へば前に示したる **this, some, any** 等の詞は各名詞の前に置かれて其意味を定限するときは制限形容詞 (**limiting adjectives**) なれども是等の形容詞が其後の名詞を代表して其名詞を畧したる場合には其効用恰かも代名詞に異ならざるを以て之を

名けて代名形容詞 (**pronominal adjectives**) と云ふなり今之を例示すると左の如し

制限形容詞		代名形容詞	
ルック オン	ピクチャーズ	ルック オン	オス
<b>Look on <del>this</del> pictures.</b>		<b>Look on <del>this</del>.</b>	
見ヨ	此ノ 繪ヲ	見ヨ	是レヲ
(三)	(一) (二)	(二)	(一)
(this を制限形容詞とす)		(this を代名形容詞とす)	
ボース	ボーイズ	アール	スタヂアス
<b>Both boys are studious.</b>		<b>Both are studious.</b>	
兩人ノ	童男ハ	アル	勉強デ
(一)	(二)	(四)	(三)
(both を制限形容詞とす)		(both を制限形容詞とす)	
ハヴ	ユー	シーン	エニー
<b>Have you seen any</b>		<b>Not any.</b>	
タカ	汝ハ	見	何レカノ
(五)	(一)	(四)	(二)
(any を制限形容詞とす)		(any を代名形容詞とす)	
ギース			
<b>geese ?</b>			
鵞ヲ			
(三)			
(any を制限形容詞とす)		(any を代名形容詞とす)	
サム	ガールズ	アール	レージー
<b>Some girls are lazy.</b>		<b>Some are industrious.</b>	
若干名ノ	童女ハ	アル	懶惰デ
(一)	(二)	(四)	(三)
(some を制限形容詞とす)		(some を代名形容詞とす)	

比較形容詞 (**Comparative adjectives.**)

- |                               |               |     |     |
|-------------------------------|---------------|-----|-----|
| 1. Taro is a <b>tall</b> boy. | 1. 太郎は大きな男の子だ |     |     |
| 太郎ハ                           | アル            | 丈高キ | 童男デ |
| (一)                           | (四)           | (二) | (三) |







附註 原級形容詞に er, est を加ふるが爲に支詞綴合法の規則に依て其形容詞が幾分か原形を變ずる事あり例へば

原級	比較級	最上級
ブルー <b>blue</b> (青色の)	ブルーアー <b>bluer</b> (尙ほ青き)	ブルーエスト <b>bluest</b> (最も青き)
レッド <b>red</b> (赤き)	レッドアー <b>redder</b> (尙ほ赤き)	レッドエスト <b>reddest</b> (最も赤き)
ハッピー <b>happy</b> (幸福なる)	ハッピーアー <b>happier</b> (尙ほ幸なる)	ハッピーエスト <b>happiest</b> (最も幸なる)
ホーリー <b>holy</b> (神聖なる)	ホーリーアー <b>holier</b> (尙ほ神聖なる)	ホーリーエスト <b>holiest</b> (最も神聖なる)

然るに此規則を知らずして漫りに原形を存せんを欲し blue-er, blue-est, red-er, red-est, happy-er, happy-est, holy-er, holy-est と爲すは誤りなり

### 不規則形容詞 (Irregular adjectives.)

形容詞の中には其比較級と最上級の變化を不規則に成形するもの數種あり即ち左の如し

原級	比較級	最上級
グッド <b>good</b> (好き)	ベツター <b>better</b> (尙ほ好き)	ベスト <b>best</b> (最も好き)
ウェル <b>well</b> (健寧なる)	ベツター <b>better</b> (尙健寧なる)	ベスト <b>best</b> (最健寧なる)
ベアッド <b>bad</b> (悪しき。但性質)	ワオルス <b>worse</b> (尙悪しき)	ワオルスト <b>worst</b> (最も悪き)
イーヴル <b>evil</b> (害悪なる)		
イル <b>ill</b> (悪しき。但病氣)		
リトル <b>little</b> (少しの)	レス <b>less</b> (尙ほ少しの)	リースト <b>least</b> (最も少しの)

メニ <b>many</b> (多くの。但個數)	モア <b>more</b> (尙多くの)	モスト <b>most</b> (最も多くの)
マツチ <b>much</b> (多くの。但積量)		
フール <b>far</b> (遠き)	フアー <b>farther</b> 又は フルサー <b>further</b> (尙遠き)	フールエスト <b>farthest</b> 又は フルゼスト <b>furthest</b> (最も遠き)
ニア <b>near</b> (近き)	ニアー <b>nearer</b> (尙近き)	ニールエスト <b>nearest</b> (最も近き) 又は ネクスト <b>next</b> (次の)
レート <b>late</b> (晩き)	レーター <b>later</b> (尙晩き) 又は ラッター <b>latter</b> (後の)	レートエスト <b>latest</b> (最も晩き) 又は ラスト <b>last</b> (終りの)
オールド <b>old</b> (古き。年取たる)	ネールダー <b>older</b> (尙古き) 又は エルダー <b>elder</b> (尙年取たる)	オールドエスト <b>oldest</b> (最も古き) 又は エルデスト <b>eldest</b> (最年長なる)
ハインド <b>hind</b> (後の)	ハインダー <b>hinder</b> (尙後の)	ハインドモスト <b>hindmost</b> (最も後の)
アップ <b>up</b> (上の)	アッパー <b>upper</b> (尙上の)	アップモスト <b>upmost</b> 又は アッパーモスト <b>uppermost</b> (最上の。最高の)
アウト <b>out</b> (外部の)	アウトダー <b>outer</b> (尙外部の)	アウトモスト <b>outmost</b> 又は アウトターモスト <b>outermost</b> (最も外部の)
		アウトモスト <b>utmost</b> (極端の。至極の)

### 第四章 副詞 (Adverbs.)

1. **The singing girl sings sweetly.**  
 アノ 歌 妓 ハ 諳 フ 旨 ク  
 (一) (二) (三) (四) (五)

1. あの歌妓は上手に諳ひます



2. <sup>デー</sup> <sup>プライス</sup> <sup>オヴ</sup> <sup>ザット</sup> <sup>ブック</sup> <sup>イズ</sup> <sup>エクシーデングリー</sup>  
**The price of that book is exceedingly**  
 價ハ 之 其ノ 書籍 アル 非常ニ  
 (四) (三) (一) (二) (七) (五)

<sup>デーア</sup>  
**dear.** 2. 其書籍の直段は非常に高い  
 高ク  
 (六)

3. <sup>サム</sup> <sup>ズルツ</sup> <sup>フライ</sup> <sup>ヴェリー</sup> <sup>スワフトリー</sup>  
**Some birds fly very swiftly.**  
 或ル 鳥ハ 飛ブ 甚ダ 快疾ニ  
 (一) (二) (五) (三) (四)

3. 鳥の中も大そう快疾に飛ぶのがある

右の文例に依て見るに (1) 例に用ゐたる **sweetly** (旨く) なる詞は **sings** (謡ふ) なる動詞に對して「旨く謡ふ」と云ふ謡ひ方の意味を添へて動詞の意を定限し。(2) 例の **exceedingly** (非常に) は **dear** (高價なる) と云ふ形容詞に屬して「非常に高價なる」さて高き程度を示し。(3) 例の **very** (甚だ) は **swiftly** (快疾に) なる副詞に屬して其快疾なる程度を定む。斯くの如く或る方法にて其連合する所の動詞。形容詞。又は副詞の意味を定限する爲に用ゆる詞を副詞 (**adverbs**) と云ふ但し初學者には (3) 例の **very** が意味を副る **swiftly** (快疾に) は果して何の用を爲すかとの不審もあらんれども是れ即ち (1) 例の **sweetly** (旨く) と同じ位地に在りて其の前は置かれたる動詞 (**fly**) の飛ぶと云ふ意味を「快疾なる程度」を以て定むる者なり但動詞に或る意味を副る事は既に (1) 例に於て分り居れば (3) 例に於ては唯だ **very** の如き或る副詞が他の副詞の意味を定限する場合を説けば足れり

今簡単に言へば副詞 (**adverb**) は動詞。形容詞。又は他の副詞に或る意味を添る詞にして通例日時。場所。仕方。又は程度を示すものなり例へば左の如し

1. <sup>アイ</sup> <sup>ソー</sup> <sup>マイ</sup> <sup>アングル</sup> <sup>イストルデー</sup>  
**I saw my uncle yesterday.** (日時)  
 予ハ 見タ 予ノ 伯父ヲ 昨日  
 (一) (五) (三) (四) (二)

1. 私は昨日伯父さんにお目に掛りました

2. <sup>ウー</sup> <sup>ユー</sup> <sup>エヴァー</sup> <sup>ゼーア</sup>  
**Were you ever there?** (場處)  
 居タカ 汝ハ 曾テ 其處ニ  
 (四) (一) (二) (三)

2. あなたは彼處へお出でに成た事がありますか

3. <sup>ヒー</sup> <sup>スポーク</sup> <sup>ミー</sup> <sup>ミー</sup> <sup>プレザントリー</sup>  
**He spoke to me pleasantly.** (仕方)  
 彼ハ 話セリ ニ 予 快ク  
 (一) (五) (四) (三) (二)

3. あの人は快く私に話しました

4. <sup>ヒー</sup> <sup>スポーク</sup> <sup>ミー</sup> <sup>ミー</sup> <sup>ヴェリー</sup> <sup>プレザントリー</sup>  
**He spoke to me very pleasantly.** (程度)  
 彼ハ 話セリ ニ 予 甚ダ 快ク  
 (一) (六) (五) (四) (二) (三)

4. あの人は大そう快く私に話しをしました

接續副詞 (**Conjunctive adverbs.**)

前已に説き示したる副詞は何れも單は動詞か形容詞か又は他の副詞の意味を變ずるに止まり其他の用を爲すとなきを以て總て之を「單性副詞」(**Simple adverbs**) と稱す然るに茲に又同じく副詞にして常に文意の中間に在りて其前後の兩文を接續する爲に用



ぬらるゝものあり例へば

ユー リヴ ヒア  
**You live here.**  
汝ハ 住ス 此處ニ  
(一) (三) (二)

あなたは此處に住でお居  
なさる

と云へば其 **here** (此處に) なる副詞は唯だ **live** (住む) と云ふ  
働詞の一の意味を添ふのみなれど若し其人が現に住居する場所を  
知て居ると云ふ意味にて

アイ ノー フウェア ユー リヴ  
**I know where you live.** 御住所は承知致して居り  
予ハ 知ル 所ヲ 汝ガ 住ム  
(一) (五) (四) (二) (三) ます

と云ふときは **where** (所を) なる副詞は **I know.** (予は知る)  
と **you live.** (汝が住する) との兩文を接続するが如し 這般なる  
副詞を名けて接続副詞 (**conjunctive adverb**) と云ふな  
り

即ち接続副詞は其結付く所の働詞、形容詞、又は他の副詞に或る意  
味を加ふのみならず又其前後の文意を關聯するものゆへ之を (**re-**  
**lative adverb** (關聯的副詞) と名く而して其主なるものは  
フヴェン フヴェア フヴェンス  
**when**(.....ときに), **where** (其處に.....處に), **whence**(何處  
より), **why** (何故に.....か), **how** (如何に.....か), **while** (其  
間に.....する間に) 是れなり

註

**while** を除くの外今茲に擧る接続副詞「何時」(**when**)、**「何處**  
**に」**(**where**)、**「何處から」**(**whence**)、**「何故に」**(**why**)、**「如何**

に」(**how**) とて疑問文の初めに用ゐたるときは之を疑問副詞  
インターロゲーティブ アドヴァーブス  
(**Interrogative adverbs.**) と名く

イエス ノー  
**yes** (然り) と **no** (否) なる詞は通例副詞の類に屬すれども何等  
の詞に意味を副る事を爲さず唯疑問に對して答ふる爲に用ゐらる  
ものゆへ時としては之を「應答詞」(**Responsives**) と名く  
レスポンス

### 第五章 代名詞 (Pronouns.)

アイ アム グラッド セット ユー ハヴ カム  
**I am glad that you have come.**  
予ハ 居ル 喜デ 事ヲ 汝ガ タ 來  
(一) (七) (六) (五) (二) (四) (三)

1. お出で下すつて嬉しうございます

タロー ライクス ヒズ ドグ エンド イット ライクス  
**Taro likes his dog, and it likes**  
太郎ガ 好ム 彼レノ 犬ヲ 而シテ 其ガ 好ム  
(一) (四) (二) (三) (五) (六) (八)

ヒム  
**him.** 2. 太郎は彼れの犬を好む、犬も亦彼を好みます  
彼レヲ  
(七)

予、汝、彼れ、彼女、彼等、其れ、其、等。等の詞は何れも前に人や物  
に關する實名詞ありて之を代表するものならざるはなし即ち是れ  
前に説く所の名詞に代て用る詞にして之を名けて「代名詞」(**pro-**  
**nouns**) と云ふなり今ま上の文例に用ゐたる詞に就て之を説かん  
に (1) 例の **I** は「予は」とて談話者自から己れの名を稱するの代り  
に用ゆる詞を爲し **you** は「汝が」とて發言者が第二位の人に對し  
其人の實名を稱するの代りに用ゆる詞を爲し (2) 例の **his** は「彼



れの」さて前に在る Taro (太郎)の實名を稱する代りに用ゐ it は「其れが」さて前に在る dog (犬)を指し其物の代りに用ゐ又 him は初めに在る太郎の實名を幾回をも繰返し稱する代りに用ゆる詞を爲すなり

代名詞には人代名詞 (personal pronoun), 關係代名詞 (relative pronoun), 疑問代名詞 (interrogative pronoun) の三種ありて上に説けるものは其一種なる人代名詞に屬し談話者自己の名の代りに用るもの即ち I, my, mine, me, we, our, ours, us, を第一人稱 (first person) の人代名詞と云ひ談話者が第二の人に對して其名の代りに用ゆるもの即ち you, your, yours を第二人稱 (second person) の人代名詞と云ひ第三位に在る人又は物の名の代りに用ゆるもの即ち he, his, him, she, her, it, its, they, their, theirs, them を第三人稱 (third person) の人代名詞と云ふ仍て今茲に人稱に依て人代名詞を類別すれば左の如し

	單		數	
	主格	物主格	主格	目的格
第一人稱	I (予が。ハ)	my (予ノ)	mine (予ノ物)	me (予ニ。チ)
第二人稱	you (汝が。ハ)	your (汝ノ)	yours (汝ノ物)	you (汝ニ。チ)
第三人稱	男性 he (彼が。ハ)	his (彼レノ)		him (彼ニ。チ)
	女性 she (彼女が。ハ)	her (彼女ノ)	hers (彼女ノ物)	her (彼女ニ。チ)
中性	it (其が。ハ)	its (其レノ)		it (其ニ。チ)

主格		物主格		目的格	
we (我々が。ハ)	our (我々ノ)	ours (我々ノ物)	us (我々ニ。チ)		
you (汝等が。ハ)	your (汝等ノ)	yours (汝等ノ物)	you (汝等ニ。チ)		
they (彼等が。ハ)	their (彼等ノ)	theirs (彼等ノ物)	them (彼等ニ。チ)		

關係代名詞 (Relative pronoun.)

關係代名詞なるものは同じ文中にて之に先立つ名詞又は代名詞ありて而して其後に在て此名詞又は代名詞に關係し其代用を爲しつ、前後兩個の文を連續する詞なり斯く關係代名詞に先立つ詞を名けて「前詞」(antecedent) と云ひ之を代表する關係代名詞を who (其人は……する所の), which (其は……する所の), what (物其は……する所の物), that (其は……する所の) 是れなり今ま

The man who sold me the horse that was blind will receive the reward which he merits.

人ハ 所ノ 賣タ 予ニ 報チ 所ノ アル  
(八) (七) (六) (五) (四) (三) (二)

blind will receive the reward which he merits.

盲目テ アラウ 受ルテ 報チ 所ノ 彼ガ  
(一) (十四) (十三) (十二) (十一) (九)

merits. (予を欺て盲なる馬を賣り附けたあの男は必ず後日相當の應報を受るならん)

の文に就て言へば who は man の關係代名詞にして that は horse の關係代名詞。which は reward の關係代名詞にし



て皆何れも其前詞を代表すると同時に the man sold me the horse. と the horse was blind. と the man will receive the reward. と he merits the reward.

の四個單文を連接するものなり

關係代名詞は三種の格に依りて左の如く詞形を變ず但し that と what は此變化を爲すとなし

	單 數		
	主 格	物 主 格	目 的 格
男性文 は女性	フワー (其人は) <b>who</b> (...所の)	フワズ (其人の) <b>whose</b> (...所の)	フワム (其人を) <b>whom</b> (...所の)
男性又 は中性	フワツチ (其は...) <b>which</b> (...所の)	フワズ (其は...) <b>whose</b> (...所の)	フワツチ (其を...) <b>which</b> (...所の)

	複 數		
	主 格	物 主 格	目 的 格
男性又 は女性	フワー (其人等を) <b>who</b> (.....所の)	フワズ (其人等の) <b>whose</b> (.....所の)	フワム (其人等を) <b>whom</b> (.....所の)
男性又 は中性	フワツチ (其等は) <b>which</b> (...所の)	フワズ (其等の) <b>whose</b> (...所の)	フワツチ (其等を) <b>which</b> (...所の)

疑問代名詞 (Interrogative pronoun.)

1. **Who did it?** 1. 誰れが其を爲したのか?  
誰が 爲セシカ 其ヲ  
(一) (三) (二)

2. **Which will you take?**  
孰レヲ アラウカ 汝ハ 取ルテ  
(一) (四) (二) (三)  
2. どちらをお取りなさる

3. **What shall I do?**  
何ヲ 宜シキヤ 予ハ 爲セバ  
(一) (四) (二) (三)  
3. どうしたら宜かろう

疑問代名詞とは疑を問ひ質す詞にして茲に掲げたる如く who, which, what の三詞の中を文の初頭に置き「誰れ」とか「孰れ」とか「何」とか重もに此三詞の中を以て疑問の意を起すが故に之を疑問代名詞 (interrogative pronoun) と名くるなり

此三個疑問代名詞の中 what を除くの外 who と which は前に示せし關係代名詞の如く各々三種の格に依りて詞形の變化を爲す即ち左の如し

	單 數		
	主 格	物 主 格	目 的 格
男性又 は女性	フワー <b>who</b> (誰れか。は)	フワズ <b>whose</b> (誰の)	フワム <b>whom</b> (誰に。を)
男性又 は中性	フワツチ <b>which</b> (孰れか。は)	フワズ <b>whose</b> (誰の)	フワツチ <b>which</b> (孰に。を)

	複 數		
	主 格	物 主 格	目 的 格
男性又 は女性	フワー <b>who</b> (誰等か。は)	フワズ <b>whose</b> (誰等の)	フワム <b>whom</b> (誰等に。を)
男性又 は中性	フワツチ <b>which</b> (孰等か。は)	フワズ <b>whose</b> (孰等の)	フワツチ <b>which</b> (孰等に。を)



第六章 前置詞 (preposition)

1. <sup>オー</sup>The <sup>ドグ</sup>dog <sup>バークィング</sup>barking, <sup>ラン</sup>ran <sup>アウト</sup>out <sup>オブ</sup>of <sup>ザ</sup>the <sup>ドアー</sup>door. 1. あの犬が吠へながら戸外へ走り出ました  
 入口
2. <sup>ザ</sup>The <sup>ブック</sup>book <sup>オン</sup>on <sup>ザ</sup>the <sup>デスク</sup>desk <sup>イズ</sup>is <sup>マイン</sup>mine. 2. 其の文臺の上にある書籍は私のです  
 該書籍ハ 上ノ 文臺ノ アル 予ノ物デ
3. <sup>ザ</sup>The <sup>シップ</sup>ship <sup>セイルド</sup>sailed <sup>フロム</sup>from <sup>ヨコハマ</sup>Yokohama. 3. あの船は横濱港から出帆しました  
 該洋船ハ 出帆セリ カラ 横 濱

第一例の文に用ゐたる of は「戸外に走り出た」と云ふ文句の中間に在て door (戸) と ran out (走出でし) と兩詞の意味の關係を言ひ表はし。第二例の文に用ゐたる on (上の) は desk (文臺) と book (書籍) の間の位置の關係を言ひ表はし。第三例の文に用ゐたる from (……より) は Yokohama と sailed (出帆せり) との間の意味の關係を言ひ表はす詞なり夫れ斯くの如く同じ文中に於て目的格なる名詞又は代名詞と或る他の詞の間に在て兩者の意味の關係を述べて結合する詞を「前置詞」(preposition) と云ふ但し其「前置詞」なる詞の意は通例「名詞又は代名詞の前に置かるゝ詞」と云ふに在るなり

英語には前置詞の數約五十個程あれども今其最も普通に用ゆるものを擧れば左の如し

- |                                 |  |                           |
|---------------------------------|--|---------------------------|
| <sup>エツト</sup> at (於て)          | <sup>フロム</sup> from (……より)             | <sup>オフ</sup> off (……離れて) |
| <sup>テイル</sup> till (……まで)      | <sup>アップ</sup> up (……の上に)              | <sup>バイ</sup> by (……に由て)  |
| <sup>イン</sup> in (……の中に)        | <sup>オン</sup> on (……の上に)               | <sup>ター</sup> to (……にまで)  |
| <sup>ウィズ</sup> with (……と共に)     | <sup>フォー</sup> for (……の爲に)             | <sup>オフ</sup> of (……に付て)  |
| 又は……の)                          | <sup>スル</sup> through (……を通して。又は……に由て) |                           |
| <sup>エクセプト</sup> except (……の外に) | <sup>コンサーニング</sup> concerning (……に關して) |                           |
| <sup>ダウン</sup> down (……を下に)     | <sup>アンダー</sup> under (……の下に)          |                           |

第七章 接續詞 (Conjunctions.)

1. <sup>ジロ</sup>Jiro <sup>アンド</sup>and <sup>アイ</sup>I <sup>ウント</sup>went <sup>ホーム</sup>home <sup>トゲザ</sup>together. 1. 次郎 予ハ 歸宅セリ 共ニ
2. <sup>アイ</sup>I <sup>スポーク</sup>spoke <sup>ビカース</sup>because <sup>ゼー</sup>they <sup>アスクト</sup>asked <sup>ミー</sup>me. 2. 予ハ 演説セリ 故ニ 彼等ガ 請ヒシ 予ニ
3. <sup>ザ</sup>The <sup>シティ</sup>city <sup>オブ</sup>of <sup>オサカ</sup>Osaka <sup>イズ</sup>is <sup>ラーヂ</sup>larger <sup>ザン</sup>than <sup>キョト</sup>Kyoto. 3. 都市ハ 之 大阪 アレ 尙大キク ヨリモ

(1) 例の文に用ゐられたる and は jiro なる名詞と I (予) なる人代名詞を接續し。(2) 例の文に用ゐられたる because は I spoke. (予は演説せり) なる單文と they asked me.



(彼等が手に乞へり)なる單文の間に在りて前後兩文の意味を接續し。(3) 例の文に用ゐたる **than** は **larger** (尙ニ大きい)なる形容詞と **Kyoto** なる固有名詞の間に在りて兩詞を接續す(但し此 3 例の **than** は兩詞を接續すと云はんよりも寧ろ兩文を接續すと謂ふべし何となれば其文意を考ふるに **Kyoto** の後に於て猶ほ **is large.** の二詞を略せる意味なるを以て若し此文を其意味の通りに記せば **The city of Osaka is larger than Kyoto (is large.)** と爲るべきものなればなり) 夫れ斯くの如く同じ文中に在りて二個の詞又は兩個の文を接續する詞を「接續詞」(conjunction) と云ふなり

註

接續詞は文の要素を接續する詞にして文の要素とは即ち文體を組成する詞 (words), 句 (phrases), 又は成文 (Propositions) を謂ふ但し句及び成文の事は後の章に解示すべし  
接續詞も其數多しと雖も今最も普通に用ゐらるゝものを擧れば左の如し

<sup>エンド</sup> **and** (……と。及び。且つ。而して) <sup>バット</sup> **but** (併しながら) <sup>ゼット</sup> **that**  
(……する事) <sup>サン</sup> **than** (よりも) <sup>レスト</sup> **lest** (……せんとを恐れて)  
<sup>ビコーズ</sup> **because** (何となれば……する故に) <sup>フォー</sup> **for** (全上) <sup>イフ</sup> **if** (若し  
も……ならば) <sup>ゼアフォー</sup> **therefore** (夫れ故に) <sup>フワイザー</sup> **whether** (……  
するか或は……することも) <sup>イーザー</sup> **either—or** (……又は……の孰

れも) <sup>ニ—ザ—</sup> **neither—nor** (……も亦……の孰れもせず)  
<sup>アンレス</sup> **unless** (若しも……するに非ざれば) <sup>ゾ</sup> **though** (假令ひ……  
と雖も) <sup>オールゾ</sup> **although** (全上) <sup>ゴ—ウツ—</sup> **also** (又) <sup>アズ</sup> **as** (……の如く)

第八章 問投詞 (Interjections.)

- <sup>アラス</sup> **Alas!** <sup>プ—ア</sup> **poor** <sup>ハシモト</sup> **Hashimoto**; <sup>ヒー</sup> **he** <sup>ワズ</sup> **was** <sup>マイ</sup> **my**  
呼哀イ哉 憫ムべキ 橋本 君 彼ハアリシ 予ノ  
(一) (二) (三) (四) (八) (九)
- <sup>インチメート</sup> **intimate** <sup>フレンド</sup> **friend.** 1. 呼鳴橋本氏長逝せり彼は生  
莫逆ノ 朋友デ  
(六) (七) 龍曾て予の親友なりしなり
- <sup>ア—ハ—</sup> **Aha!** <sup>フ—ザ—</sup> **father,** <sup>アイ</sup> **I** <sup>ハヴ</sup> **have** <sup>フツンド</sup> **found** <sup>ユー</sup> **you** <sup>アウト</sup> **out.**  
アハ 父 予ハ タ 見 汝ヲ 出シ  
(一) (二) (三) (七) (五) (四) (五)

1. あ、阿ッ爺サあなたを見つけました

(1) 例の **alas** は哀哭痛歎の感を言ひ表はす詞にして (2) 例の **aha** は驚愕と喜悅を言ひ表はすの詞なり斯くの如卒く然たる感動の意を言ひ表はす詞を「問投詞」(interjection) と云ふ。「問投詞」とは「間に投げ入れらるゝ詞」と云ふ意にして蓋し是れ等の詞は多くは文中の或る他の詞の間に挿入せらるゝものなるが故に斯くは名くるなり但し問投詞は爾ニ多く文中に挿まるゝと雖も文の構造より言ふときは毎も其要素なる一部分を爲すとなきものなり



### 第九章 動詞の變化

モディフィケーションズ オヴ ヴァーブ  
(Modifications of the verb.)

前既に第二章に於て動詞の事を大略説き示したるが其活用上の變化に至ては事頗る錯綜するが故に初學者が了解の便を圖りて殊更に順序を變じ茲に之を説く事させり故て動詞には五種の變化あり即ち。人稱(Person), 數(Number), 時(Tense), 法(Mood), 調(Voice) されなり

#### 第一 人稱と數(Person and Number.)

動詞は三の人稱及び單複兩數を用ゐらるゝに從て毎も其形ちを變化し以て其主格名詞の人稱と數に一致せるを表示するなり先づ其人稱に就て言へば如何なる動詞にても第一人稱の人代名詞(I か we) を主格とし之に結び付て用ゐらるゝときは第一人稱の動詞(verb in first person) と爲し。第二人稱の人代名詞(即ち you) を主格とし之に結び付て用ゐらるゝときは第二人稱の動詞(verb in second person) と爲し。第三人稱の人代名詞又は此人稱の名詞を主格とし之に結び付て用ゐらるゝときは第三人稱の動詞(verb in third person) と爲すなり今ま love (愛する) なる動詞を假りて之を例せば左の如し(但し第一人稱と第二人稱の人代名詞に用ゐらるゝときは動詞の形ちに變化を生ぜず)

アイ  
1. I love. (第一人稱の動詞)  
手が 愛ス  
(一) (二)

2. You love. (第二人稱の動詞)  
ユー ラヴ  
汝が 愛ス  
(一) (二)
3. He loves. 又は She loves. (第三人稱の動詞)  
ヒー ラヴス シー ラヴス  
彼が 愛ス 彼女が 愛ス  
(一) (二) (一) (二)
- 又は The bird loves. The dog loves.  
ザ バード ラヴス ザ ドッグ ラヴス  
鳥が 愛ス 犬が 愛ス  
(一) (二) (一) (二)

次に數に就て言はん凡て動詞は單數の主格名詞と結び付て用ゐらるゝときは之を單數の動詞(verb in singular number) と爲し。複數の主格名詞と結び付て用ゐらるゝときは之を複數の動詞(verb in plural number) と爲す例へば

ザ ボイ コールズ  
The boy calls. (即ち單數の動詞)  
該男が 呼ブ  
(一) (二)

と言へば boy なる主格名詞が單數なるゆへに之と結合せる「呼ぶ」(call) と云へる動詞も亦單數にして且其働きが現在なるゆへ s の文字を語尾に附し之を表す又

ザ ボイズ コール  
The boys call. (即ち複數の動詞)  
該童男等が 呼ブ  
(一) (二)

と言ふときは boys なる主格名詞が複數なるゆへ之と結合せる「呼ぶ」なる動詞も亦複數にして且其働きが現在なれども語尾に s を附せずして複數なるを表するが如し(但し斯く主格名詞の數の單複に依り現在動詞に s を附すると附せざるとの區別を爲すは唯第三人稱の代名詞か名詞を主格に用ゐたる場合に限り第一人稱と第



二人稱の人代名詞を主格に用ゐたる場合には *s* を附せざるを法とす)

夫れ以上説き示す通りなるゆへ凡て動詞は屬する所の主格代名詞又は主格名詞と人稱及び数を同ふするものと知るべし

第三時 (Tenses.)

1. **I see him now** (現在) 1. 只今彼に會ひます  
アイ ソー ヒム ナウ  
予ハ 見ル 彼ヲ 今マ  
(一) (四) (三) (二)

2. **I have seen him to-day.** (半過去) 2. 今日彼に會ひました  
アイ ハヴ ソーン ヒー トー デー  
予ハ タ 見 彼ヲ 今日  
(一) (五) (四) (三) (二)

3. **I saw him yesterday.** (過去) 3. 昨日彼に會ひました  
アイ ソー ヒム イェスデルデー  
予ハ 見タ 彼ヲ 昨日  
(一) (四) (三) (二)

4. **I had seen him, when you came here.** (大過去) 4. あなたがお出でに成たとき彼に會ひました  
アイ ハット ソーン ヒム フウエン ユー ケーム  
予ハ リキ 見 彼ヲ トキニ ヨガ 來リシ  
(一) (八) (七) (六) (五) (二) (四)  
ヒア  
此處ニ  
(三)

5. **I will, or shall see him again,** (未來) 5. 再び彼に會ひます(又は)會ふ筈であります  
アイ ウル シル ソー ヒム エゲーン  
予ハ アラウ (又ハ) アラウ 見ルテ 彼ヲ 再ビ  
(一) (五) (六) (四) (三) (二)

6. **I will, or shall have seen him.**  
アイ ウル シル ハヴ ソーン ヒム  
予ハ アラウ (又ハ) アラウ タテ 見 彼ヲ  
(一) (十) (十一) (九) (八) (七)

**before you will come here.** (大未來)  
ビフォア ユー ウィル カム ヒア  
前ニ 汝ガ アラウ 來ルテ 此處ニ  
(六) (二) (五) (四) (三)

6. あなたがこゝへお出でに成る前に彼に會ひませう  
(又は) 會ふ筈です

右の文例に依て見れば同じ *see* (面會する) と云ふ詞にも用ひ方によりて種々の變化あるを知るべし即ち此六語の語例は「人に面會する」動作に各々時限あるを示したるものにて第一例は「今ま面會する」として現在なり、第二例は「今日面會した」として其動作既に成就したる意にて半過去に屬し、第三例は「昨日既に面會の事を了りし意」なれば 常の過去に屬し、第四例は「他の過去の動作に對して夙に面會を爲したる意」なれば上分なる過去にして大過去なり。又第五例は「今後面會するの時限」を示す語意にして未來に屬し、第六例は「他の未來動作に對して猶ほ此後面會すべしとの意」を述るものなるが故に大未來とす

斯く英語にて動作の時限を言ひ表はす仕方を「動詞の時」(Tenses) と云ひ之を上の例の如く分ちて「現在」(Present tense), 「半過去」(Present perfect tense), 「過去」(Past tense), 「大過去」(Past perfect tense), 「未來」(Future tense), 「大未來」(Future perfect tense) と爲す

附註 動詞の時は常に動作のみならず偶然發生する出來事の時



限を言ひ表はすと共に又其動作。出来事の成就の程度をも示すものなり

今ま will と shall の二語に就て少しく解釋を下さん(其一)此語は傳來直譯上の習慣に依て「あらう」又は「であらう」と譯すなれども是は日本語にすれば疑の意を含む故適當の譯と云ふべからず其語にて動作事實の未來に亘る意味を表するに用ゆるものなれば日本語にて未來を示すに用ゆる「是れより何々致します」の「ます」に相當す例へば「只今參ります」I will go presently. 「明日お宅へ伺ひます」I shall call at your place to-morrow. の如し是れ未來に關する用方なり。

(其二) 又 will は「何々します」「何々せんを欲す」「何々せんと思ふ」として意思若くは決意を表するに用ゆる shall は「當さ何々すべし」「何々せれば成らぬ」として法令又は他人の爲に左右せらるゝ意味の場合に用ゆる例へば「お歩きなさるか又は車にお乗りなさるか」Will you walk, or ride? と相手の意旨を尋ねるに「歩きます」I will walk. と答るときは即ち歩行か乗車を擇ぶは自己の自由に在りて自から歩きたしと思ふか故に隨意を以て決答するなり然るに「歩かうか。乗らうか」Shall I walk, or ride? と云ふときは「私は歩いたがよからうか乗た方がよからうか」として先づ相手に向て已れの動作に關する意見を尋ね命に依りて歩むか乗るかの一に從ふの意なり夫れ此の如く will と shall には其用ゐ方に大差異ありて

will は意思又は決意を示し shall は他人の命に左右せらるゝの趣きを示すに用ゆる詞なるが故に單に未來を示す場合を以て混すべからず尙ほ讀者をして此 will と shall の差いを明瞭に了解せしめんが爲に兩詞を一文中に併用して示せば

If you will not work, you shall not play. 働らかぬなら遊んではならぬ  
イフ ユー ウル ノット ワーク ユー シル  
If you will not work, you shall  
若シ ナラバ 汝ガ 働 カ × 汝ハ ナラ  
(一) (四) (三) (五) (七)  
ノット プレー  
not play. 働らかぬなら遊んではならぬ  
× 遊デハ  
(八) (六)

第三法 (The mood.)

法とは「言ひ表はし方」と云ふ事にして動詞が其主格詞たる人や物の動作し又は存在せる状態を述る仕方なり此仕方六種あり即ち直説法 (Indicative mood), 可成法 (Potential mood), 假定法 (Subjunctive mood), 命令法 (Imperative mood), 不定法 (Infinitive mood), 分詞法 (Participial mood) 是れなり

直説法 (indicative) とは事實又は事實の如く認めされたる事を叙述する仕方にして例へば I love. (予は愛す), He reads. (彼は讀む)の如し又直説法は疑問文を成すとあり例へば Do you love? (汝は愛する乎), Who reads? (誰が讀む乎)の如し(但し直説法は前より示せる如く現在。過去。未來に通じて詞形の變



化を爲し事實の時を示すとを得るものにして **do, did, will, shall, have, has, had, be, am, are, is, was, were** の助働詞を本働詞に加へたるを直説法の徴候とす)

可成法 **potential**) とは直説法の本働詞に **may, can, must, might (may の過去), could (can の過去), would (will の過去), should (shall の過去)** の助働詞を加へて

成るべき動作。事實の状を示す法にして能力。許諾。必須等の事情を表するに用ゆ例へば **I can read.** (私には読める) **You must go.** (あなたは往かなければならぬ) **He may rest.** (彼は休んでも宜い) **They could win.** (彼等は勝を制する事ができるだらう) 等の如し

可成法も亦其助働詞を主位の名詞又は代名詞の前に置て疑問體を爲すとを得例へば **May I go?** (私は往てもよい乎) **Can you read?** (あなたには読める乎) **Could we do it?** (私共に其れが出来らう乎) 等の如し

附註 **May** は従來直譯の習慣にて「**得る**」とのみ譯すれども此助働詞は斯る狭き意味の詞に非ずして少なくとも四種の意味を表するに用ゆ (1) 「得る」と譯すべきべきは「何々する事が出来る」とか「できない」とかの意味にして **I may do so.** (私は然か爲す事ができる) **You may not do so.** (君は然か爲すことをせず、さて權限上にて成らぬとを示すに用ゆ。 (2)

ト示す如く許否の意を表するに用ゆ「何々しても可<sup>ク</sup>」。「何々しては可<sup>ク</sup>ない」の「よい」「いけない」にて **You may go.** (お前は往てもよい) **You may not go.** (お前は往てはいけない) の如し。 (3) 事の實際如何なるかを分明に知り難き意味を示すに用ゆ「何々するかも知れぬ」又は「何々する事もあらん」の「かも知れぬ」「事もあらん」にして例へば **It may rain to-day.** (今日は雨が降るかも知れぬ) **It may be possible.** (其様な事も有るならん) の如し。 (4) 希望を示す場合に「何々であればよい」又は「何々せられんことを(望む)」の意味に用ゆ例へば **I hope I may go.** (願くは予が往くを得んとを) **May God bless him.** (神願はくは彼れを幸ひし給はんことを) の如し。初學者よく是等の用方を玩味し自からも適當に此語を活用し又英文を読むにも文意の誤解に陥らざらんことを勉むべきなり

**might** は **may** の過去にして可成法にも又假定法にも用ふ其用方の大略左の如し

イフ	ヒー	ハツド	アーライヴド	コーベ	ラスト	ナイト
1. If	he	had	arrived	Kobe	last	night,
若シ	彼	タ	到着シ	神戸ニ	昨	夜
(一)	(七)	(二)	(六)	(五)	(四)	(三)
ヒー	マイト	ハツ	リツツン	ヒー	アス	
he	might	have	written	to	us	
彼	アラウ	タデ	發書シ	ニ	我等	
(八)	(十四)	(十三)	(十二)	(十一)	(十)	
オス	モーニング					
this	morning.	1.	若シ	彼	昨夜	神戸へ
今	朝					着
(九)						た
						なら
						今
						朝
						我々へ
						手紙を
						出した
						であらう



2. **In the hunting of Fuji-mountain's skirt-plain, if Goro hadn't been hindered in arms of a Samurai, Suketsune might have been at once slaughtered.**

於テ (五) 獵 (四) ニ (三) 之 (一) 富士山 (一) ノ  
 スカート (二) プレーン (二) イフ (六) ゴロー (七) ハッドン (十三) ビーン (十二)  
 裾野 若シナラ 五郎ガ ナンダ ラレ  
 (二) (六) (十四) (七) (十三) (十二)  
 ヒンダード (十一) イン (十) アームズ (九) オヴ エ サムライ (八)  
 止メ 抱キ 一 武士  
 (十一) (十) (九) (八)  
 スケツネ (十五) マイト (二十) ハヴ (十九) ビーン (十八) エット ワンス (十六)  
 祐經ハ アラウ テ セリ 直チニ  
 (十五) (二十) (十九) (十八) (十六)  
 スロウタード (十七) 殺サ (十七)

2. 富士の裾野の狩の時若し曾我五郎が一武士の爲に抱き止められな

かつたなら工藤祐經は一撃に斃殺されて了つたであらう

然れども又 might は現在に用ゐらるゝとあり其例左の如し

1. **You might be healthy, if you have a good exercise every day.**

ユー (八) マイト (十一) ビ (十) ヘルシー (九) イフ (一) ユー (七) ハヴ (二) ヲ  
 汝ハ アラウ 爲ルテ 健康ニ 若シナラ 汝ガ スル  
 (八) (十一) (十) (九) (一) (七) (二) (六)  
 エ (四) グード (五) エクササイズ (三) エグリー デー (三)  
 好キ 運動チ 毎日  
 (四) (五) (三)

1. 毎日十分に運動をなさればお丈夫に成りませう

2. **If the wind turn its direction, we might have a clear weather.**

イフ (一) オー (六) ウンド (二) トルン (五) イツツ (三) ディレクション (四) ウー (七)  
 若シナラ 風ガ 轉ズル 其レノ 方向チ 我々ハ  
 (一) (六) (二) (五) (三) (四) (七)  
 マイト (十) ハヴ (九) エ グリーア (八) ウェザー (八)  
 アラウ 持ッテ 晴 天 ナ  
 (十) (九) (八)

2. 風が變つたら晴天に成るかも知れない

**must** は現在の可成法助働詞にして「何々せねばならぬ」。「何々に相違ない」。「何々せざるべからず」。「何々せざるを得ず」の意味にて道理上若くは自己の心情より「斯々でなければならぬ」又は「斯々せねばならぬ」と思ふ場合及び推理的にて事物を推定する場合に用ゆべ

1. **If you wish to improve yourself,**

イフ (一) ユー (七) ウシ (二) トー (五) イムプルヴ (四) ユーアセルフ (三)  
 若シナラ 汝ガ 欲スル 進歩 自カラ  
 (一) (七) (二) (六) (五) (四) (三)

**you must study.** 1. あなたは自分の身を良く  
 汝ハ ナラヌ 勉學セネバ (八) (十) (九) したければ學問を勉強せ  
 れば成りません

2. **It must have rained last night, because**

イット (八) マスト (七) ハヴ (六) レインド (五) ラスト (四) ナイト (三) ビコース (二)  
 相違ナイ タニ 雨アツ 昨夜 ユヘニ  
 (八) (七) (六) (五) (四)

**the ground is wet.** 2. 地面が濡れて居るから  
 オー (一) グラウンド (二) イズ (三) ウェット (四) 2. 地面が 濡テ 昨夜雨が降つたに相違  
 (一) (二) (三) (四) ない

3. **I must go and ask mother how**

アイ (一) マスト (二) ゴー (三) エンド (四) アスク (五) マザー (六) ハヴ (七)  
 予ハ ナラヌ 往テ 而シテ 問ハ子バ 母ニ 如何ニ カチ  
 (一) (二) (三) (四) (五) (六) (七)

**she is doing.** 3. 母様はどう成されたか往てお尋  
 シー (五) イズ (六) ビーイング (七) 彼ガ 居テ 暮テ 申さればならぬ  
 (五) (六) (七)

4. **It is very late, I must go home.**

イット (一) イズ (二) ヴェリー (三) レート (四) アイ (五) マスト (六) ゴー (七) ホーム (八)  
 モウ 大ソウ 晩イ 私ハ ナラヌ 歸宅セネバ  
 (一) (二) (三) (四) (五) (六) (七) (八)

4. もう大そう晩いから歸らねば成りません



又打消しの辭にて「何々しては成らぬ」又は「何々するとを得ず」と云ふときは前に示せる **may not** の意味に似たれども問の文句にあらざる以上は **must not** を用ひ例へば

1. **You must not stay here until too late, your mother should feel uneasy of you.**

ユ- マスト ノット ステイ ヒア アンティル トゥー  
 汝ハ ナ ラ ス 居テハ 此處ニ マデ 餘リ  
 (一) (七) (六) (五) (四) (二)

レイト ユア マザー シード フール アンイージー  
 晩ク 汝ノ 母ガ アラウ 心配スルテ  
 (三) (八) (九) (十三) (十二)

オヴ ユー  
 of you. 1. あなたは阿母が心配なさらう  
 付テ 汝ニ  
 (十一) (十) から餘り晩くまで茲に居てはいけま

せん

2. **We must not disobey the instructions of our superiors.**

ウー マスト ノット ディソベイ インストラクシヨンス  
 我等ハ 得ズ 背クナ 訓令ニ  
 (一) (七) (六) (五)

オヴ アロー シーニョールズ  
 of our superiors. 吾人は上長者の訓令に違  
 之 我ガ 上長者  
 (四) (二) (三) 背するとを得ず

然れども「何々しては宜くないか」この疑問體なるときは **may not** を用ひると「已に説き示すが如し」  
**must** には別に過去を表する變體なきゆへ其意を示すには **were obliged** (第二人称又は複数第三人称) 又は **was obliged** (単数の第一人称又は単数第三人称) を用ひ共に「何々せねばならなかつた」。「何々すべき筈であつた」と譯す。又未來を表するには **will be obliged** 又は **shall be obliged** (何々せねばならぬ。又は。筈であらう) を用ひ

此法に用ひる **would** と **should** 前に示したる **would** と **shall** の過去にして **would** は「何々したく思つた」。「何々せんと欲せり」。「何々せんとを望めり」の意味に用ひ **should** は「何々する筈であつた」。「何々すべかりし」。「何々せねば成らぬ」の意味に用ひ例へば **I would have gone.** (私は往かんとな欲せり), **You should have gone.** (君は往くべき筈であつた) の如し然れども **would** と **should** は往々現在に用ひるとあり其現在に用ひたるは過去に用ひたるは此助働詞に連用したる本働詞の現在なるは過去なるに依て識別するを得べし例へば上に示したる **have gone.** (往た) の如き過去の働詞句を連結したるときは無論其 **would, should** も過去に用ひられたるものにして若し **like** (好む), **love** (愛す) の如き現在働詞を連用して **would like.** (何々したい), **should love.** (愛せねばならぬ) の如く用ひたるときは總て現在と見るが如し

其外 **would, should** は通常の想像又は事に反する想像を述るに用ひるとあり例へば **Perhaps he would come.** (多分あの人には來るであらう), **The theatre would close at seven o'clock.** (あの芝居は七時にはれるだらう) (以上通常の想像)。**I thought the aimed train would be here by this time.** (もはや心ざした列車が着て居



るだらうと思ひました) (即ち事實に反する想像) の如し  
 假定法 (subjunctive) とは「若し此事が爾々であつたなら此事は斯々であつたらう」とか又は「爾々の事あるも知れぬよ依て斯々云せればならぬ」として先づ乙の事項を假定する附屬成文を設け **if** (若し……ならば), **lest** (……の事あらんを恐れて), **though** (假令……すも), **unless** (若し……するに非ざれば), **that** (……する事) 等の接續詞を以て結び付け乙の事項に關する想像を言ひ表はす法を謂ふなり而して其働詞は時過ぎし後にて實際に反する想像を述るには概ね過去を用ゐる他人に或る事を勧告し又は決心を述る場合には多くは現在を用ゆるを例さす例へば

1. **I would n't have been despised by them, if I would have had plenty of money.** (過去の例)  
 アイ ヴード ント ハヴ ビーン デスパイズト バイ  
 予ハ アラウ ナン タデ レ 賤シマ 由テ  
 (十) (十七) (十五) (十六) (十四) (十三) (十二)  
 ゼム イフ アイ ヴード ハヴ ハッド プレンテ-  
 them, if I would have had plenty  
 彼等ニ 若シナラ 予ガ アラウ タデ 持ツ 十分チ  
 (十一) (一) (九) (二) (八) (七) (六) (五)  
 オヴ マネ-  
 of money. (過去の例)  
 …… 金 ……  
 (四) (三)

1. 私が若し金が澤山あつたなら彼人達に馬鹿にされなかつたものを金になかつたゆへに馬鹿にされた)

2. **I should learn; if I should have time.** (現在の例) 2. 時間があるなら學問したいものだ  
 アイ シド ラ-ン イフ アイ シド  
 予ハ タシ 學問シ 若シナラ 予ガ アラウ  
 (七) (九) (八) (一) (六) (二) (五)  
 ハヴ タイム  
 have time. (現在の例) 2. 時間があるなら學問したいものだ  
 アルデ ……ガ  
 (四) (三)

3. **You should take care of yourself,**  
 ユー シド テ-ケ ケ-ア オヴ ユ-アセルフ  
 汝ハ ナラ ヌ 注意 セ子バ チ 汝自身  
 (一) (九) (八) (七) (六)

**lest you would fall.** (現在)  
 レ-スト ユー ヴード フォール  
 カチ恐テ 汝ガ アラウ 落ルテ  
 (五) (二) (四) (三)

3. 若し落るといけなから御注意ならなければ成りません

4. **Though you would detain me, I must go home.** (現在)  
 ヴォー ユー ヴード テ-テン ミー ア  
 假ヒ トモ 汝ガ アラウ 引留ルテ 予チ 予ハ  
 (一) (六) (二) (五) (四) (三) (七)

**must go home.** (現在)  
 マスト ゴー ホーム  
 ナラヌ 歸宅 セ子バ  
 (九) (六)

4. 假ひお引留めに成ることも是非歸宅致されば成りません

又過去の例にて假定の部分に **should have, would have** と用ゆべきを之に代へて **had** を用ひ又 **should be, would be** と用ゆべきを之に代へて **were** を用ゆるとあり例へば

1. **I should buy this house, if I should have money.**  
 アイ シド バイ オス ハウス イフ アイ  
 予ハ タモノチ 買ツ 此ノ 家チ 若シナラ 予ガ  
 (七) (十一) (十) (八) (九) (一) (六) (二)

**should have money.**  
 シド ハヴ マネ-  
 タ 有ツ 金ガ  
 (五) (四) (三)

1. 若し金が有つたなら此家を買たものを(金になかつたゆへ買はなかつた)

2. **I should buy this house, if I should have money.**  
 アイ シド バイ オス ハウス イフ アイ  
 予ハ タモノチ 買ツ 此ノ 家チ 若シナラ 予ガ  
 (六) (十) (九) (七) (八) (一) (五) (二)



<sup>ハツド</sup> <sup>マネー</sup>  
**had money.** 2. 全上

<sup>アリシ</sup> <sup>金</sup> <sup>ガ</sup>  
(四) (三)

1. <sup>アイ</sup> <sup>ウー</sup> <sup>ペイ</sup> <sup>エ</sup> <sup>ヴジツト</sup> <sup>ツ</sup> <sup>ヒム</sup> <sup>イフ</sup>  
**I would pay a visit to him, if**  
<sup>予ハ</sup> <sup>アラウモノチ</sup> <sup>テ</sup> <sup>訪フ</sup> <sup>ナ</sup> <sup>彼ナ</sup> <sup>若シナラ</sup>  
(一) (十一) (十) (九) (八) (七) (二) (六)

<sup>ヒー</sup> <sup>ウー</sup> <sup>ノット</sup> <sup>ウー</sup> <sup>ノット</sup> <sup>ビー</sup> <sup>アブセント</sup>  
**he were not (would not be) abs. nt.**  
<sup>彼ガ</sup> <sup>アラザリン</sup> <sup>不在テ</sup>  
(三) (五) (四)

然れども斬新の法式にては if の接續詞を省略するを例とす然るときは主位の名詞又は代名詞と動詞の位置を前後を變更す即ち左の如し

1. <sup>ハツド</sup> <sup>アイ</sup> <sup>マネー</sup> <sup>アイ</sup>  
**Had I money (if I had money), I**  
<sup>持チ</sup> <sup>シナラ</sup> <sup>予ガ</sup> <sup>金</sup> <sup>チ</sup> <sup>予ハ</sup>  
(三) (一) (二) (四)

<sup>シード</sup> <sup>バイ</sup> <sup>オス</sup> <sup>ハウス</sup>  
**should buy this house.**  
<sup>タモノチ</sup> <sup>買ツ</sup> <sup>此ノ</sup> <sup>家チ</sup>  
(八) (七) (五) (六)

1. 金が有つたなら此家を買つたであらうものを

2. <sup>ウー</sup> <sup>ノット</sup> <sup>ビー</sup> <sup>アブセント</sup>  
**Were not he absent (if he were not**  
<sup>アラザリ</sup> <sup>ナラ</sup> <sup>彼ガ</sup> <sup>不在テ</sup>  
(三) (一) (二)

<sup>アイ</sup> <sup>ウー</sup> <sup>ペイ</sup> <sup>エ</sup> <sup>ヴジツト</sup> <sup>ツ</sup> <sup>ヒム</sup>  
**absent), I would pay a visit to him.**  
<sup>予ハ</sup> <sup>テ</sup> <sup>アラウモノチ</sup> <sup>シタ</sup> <sup>訪問</sup> <sup>チ</sup> <sup>彼ナ</sup>  
(四) (九) (八) (十) (六) (五)

2. 若し彼が不在でなかつたなら訪ねたであらうものを

3. <sup>ボード</sup> <sup>アイ</sup> <sup>スピーキ</sup> <sup>ユー</sup>  
**Should I speak you (if I should you),**  
<sup>タナラ</sup> <sup>予ガ</sup> <sup>話シ</sup> <sup>汝ニ</sup>  
(四) (一) (三) (二)

<sup>ユー</sup> <sup>ウー</sup> <sup>アンダースタンド</sup>  
**you would understand.**

<sup>汝ハ</sup> <sup>テ</sup> <sup>アラウモノチ</sup> <sup>了</sup> <sup>スルテ</sup>  
(五) (七) (六)

3. お話し申したらお解りに成りませう

<sup>ウー</sup>  
**were** は **be** (あるの過去にして「ありし」「何々されし」として通例第二人称の複數の代名詞又は第三人稱の複數名詞に屬して連用せらるゝ。説法の助動詞なれども又其特徴として人稱に拘はらず假定法の半過去に用ゆるを例とす即ち

現	在
單 數	複 數
1. <sup>イフ</sup> <sup>アイ</sup> <sup>ビー</sup> <b>If I be.</b> <sup>若シナラ</sup> <sup>予ガ</sup> <sup>アル</sup> (一) (四) (三)	1. <sup>ウー</sup> <b>If we be.</b> <sup>我等ガ</sup>
2. <sup>ザリ</sup> <b>If thou be.</b> <sup>汝ガ</sup>	2. <sup>ユー</sup> <b>If you be.</b> <sup>汝等ガ</sup>
3. <sup>ヒー</sup> <b>If he be.</b> <sup>彼ガ</sup>	3. <sup>ゼー</sup> <b>If they be.</b> <sup>彼等ガ</sup>
過	去
1. <sup>イフ</sup> <sup>アイ</sup> <sup>ウー</sup> <b>If I were.</b> <sup>若シナラ</sup> <sup>予ガ</sup> <sup>アリシ</sup> (一) (四) (三)	1. <sup>ウー</sup> <b>If we were.</b> <sup>彼等ガ</sup>
2. <sup>ザリ</sup> <b>If thou were.</b> <sup>汝ガ</sup>	2. <sup>ユー</sup> <b>If you were.</b> <sup>汝等ガ</sup>
3. <sup>ヒー</sup> <b>If he were.</b> <sup>彼ガ</sup>	3. <sup>ゼー</sup> <b>If they were.</b> <sup>彼等ガ</sup>

其外の動詞にては假定法に用ゆる現在動詞には第三人稱單



名詞 (例へば **he, she, it.**) 又は単数名詞に連用すとも語尾に **s** 又は **es** を加へて其第三人稱單數たるを表する事なきを又一の特徴とす例へば通常の第三人稱文にて「彼れが臥す」「其れが横はる」と云ふときは **“He lies.” “It lies.”** さて **“lie”** 臥す) なる現在動詞に **s** を附け加へ又「彼れが打ち付る」「其れが打ち付る」と云ふときは **“He dashes.” “It dashes.”** さて **dash** (打ち付る) なる現在動詞に **es** を附加ふるなれどもこれを第三人稱の假定動詞に用ゆるときは **“If he lie.” “If she lie.” “If it lie.”** 又は **“If he dash.” “If she dash.” “If it dash.”** さて絶て **s** 又は **es** を附加へざるが如し是等の事は用語上殊に肝要の件なれば初學者宜しく注意すべきなり

命令法 (**imperative**) とは必ずしも命令の意のみを言ひ表はすにあらずして依頼。請願。勸告。訓戒の意を述るも亦命令法に屬す例へば

1. **Shut the door, lest the wind blow in.**  
シット オー デア レスト オー ウンド ブロー イン  
閉シヨ 戸ヲ カニ依テ 風ガ 吹き込ム  
(五) (四) (三) (一) (二)  
 (命令) 1. 風が吹き込むといけなから入口をお閉じなさい
2. **Open the window so as to let a fresh air in, if you please.** (依頼)  
オープン オー ウンドー ソー アズ ツー レット エ フレッシュ  
開ケ 窓 ナ ヤウニ 入レ 新鮮ノ  
(八) (七) (六) (四) (二)  
エア イン イフ ユー プリーズ  
空気ナル ドウゾ  
(三) (五) (一)  
 2. どうぞ新しい空気が這入る様に窓を開けてください

3. **Be so kind as to lend me your umbrella.**  
ビー ソー カインド アズ ツー レンド ミー ユーア ユーアムブレラ  
ドウゾ貸シテ下サレ 予ニ 汝ノ 傘ヲ  
(四) (三) (一) (二)

(請願) 3. どうぞお傘を貸して下さい

4. **Go in peace; but make haste, in fear**  
ゴー イン ピース バット メーキ ヘースト イン フーア  
往ケ 静カニ 但 急 ゲ 掛念シテ  
(二) (一) (三) (八) (七)

オブ オー レイン カミング  
**of the rain coming.** (訓戒)  
チ 雨 降り來ル  
(六) (五) (四)

4. 静かにして往け。併し雨が降る、そうだから急いで

5. **Be still, do not make so much**  
ビー スティル ヴー ノット メーキ シー マッチ  
居レ 落付テ 爲ス ナ 爲シ 左様ニ 甚ダシキ  
(二) (一) (七) (六) (三) (四)

disturbance. (全) 5. 其様に騒がしくしないで落  
デフトルバンス  
動 揺 ヲ  
(五)  
 付いて居なさい

命令法の動詞は特に第二人称にのみ用ゆるものなれば其動詞の間に **you** (汝) 又は **thou** (全) なる第二人称の人代名詞を含むものと知るべし

以上説き示せる法の動詞の外に「動詞状の詞」(**Verbals**) なるものあり即ち不定法 (**Infinitive**) と分詞法 (**Participle**) の二種にして共に素と動詞の性質を有して兼て又名詞又は形容詞の如く用ゐらるゝものなり

(其一) 不定法は動作又は事物の現状を示すに制限なき動詞状の名詞にして例へば



トー リード グード ブックス イズ イムプルーフンク  
**To read good books is improving.**  
 事ハ 讀ム 良キ 書チ アル 進歩的デ  
 (四) (三) (一) (二) (六) (五)

良書を讀むは人智を上進せしむる者なり

の **to read** (讀む事) は素と **read** (讀む) なる通常の動詞を語原として之に **to** なる前置詞 (**preposition**) を加へたるものなるか動詞の本性あるか故に恰かも他動詞 (**transitive**) の用を爲して其讀むと云ふ働きを **books** (書籍を) なる目的格の名詞に及ぼすと共に「讀む事は」として文中 **is** (である) なる動詞の主格名詞たる用を爲すが如し

**to** を附したる不定法動詞を他の種類と運用する例は左の如し

1. 形容詞として名詞と運用す例へば

エ ハウス ツー レット  
**A house to let.** (貸家の義にして **A house**  
 家屋 ベキ 貸ス  
 (三) (二) (一)  
**for letting.** と同じ)

2. 受働調動詞の後に運用す例へば

ゼー ワー セント ツー フインド マー ロスト モイルド  
**The were sent to find the lost child.**  
 彼等ハ サレンシ 遣ハ 爲ニ 見出ス 彼ノ 迷子チ  
 (一) (七) (六) (五) (四) (二) (三)

彼等は彼の迷兒を捜索に遣られたのだ

3. 自働詞の後に運用す例へば

アイ ケーム ツー モー ヒム  
**I came to see him.** 私ハは彼人に面會する爲  
 予ハ 來レリ 爲 會ノ 彼レニ  
 (一) (五) (四) (三) (二)  
 に來ました

4. 形容詞の後に運用す例へば

ヲス イズ グード トー イート  
**This is good to eat.** 是は食料にして可食物だ  
 是ハ 可食物ダ 食ッテ  
 (一) (三) (二)

5. 動詞の後に於て副詞體に運用す例へば

アイ ケーム イン オーダー ツー モー ヒム  
**I came in order to see him.**  
 予ハ 來レリ 爲ニ 會フ 彼ニ  
 (一) (五) (四) (五) (二)

彼人面に面會する爲に來ました

以上は皆現在の時を示す不定法動詞の例なれども過去の時を示すには **to** の後に **have** (何々した) 又は **have been** (何々された) を加へて次に夫々規則に従て過去體にしたる本動詞を運用するものとす例へば **to have loved.** (愛した), **to have been loved.** (愛された) 又は **to have seen.** (見た), **to have been seen** (見られた) 等の如し

附註 不定法の動詞が左の數動詞の後にあるときは **to** を略して冠せざるを例とす初學者注意すべし

現在	過去	現在	過去
ビッド <b>bid</b> (命ずる)	ベード <b>bade</b> (命ぜり)	ヒーア <b>hear</b> (聞く)	ハード <b>heard</b> (聞けり)
ソー <b>see</b> (見る)	ソー <b>saw</b> (見し)	デアア <b>dare</b> (敢てする)	デアアド <b>dared</b> (敢てせり)
レット <b>let</b> (…せしむ)	レット <b>let</b> (…せしめり)	ニード <b>need</b> (要す)	ニードド <b>needed</b> (要せり)
メード <b>make</b>	メード <b>made</b>	フィール <b>feel</b> (感覺す)	フェルト <b>felt</b> (感覺せり)
(…せしむ)	(…せしめり)		

其用例

1. **I shall bid him to say farewell.**  
 予ハ アフク シムルデ 彼レニ 云ハ 別辭チ  
 (一) (六) (五) (二) (四) (三)



1. 彼に暇を取らせませう

アイ ベート ヒム ツー イット  
予ハ 命セリ 彼ニ 爲スチ 其チ  
(一) (五) (三) (三) (三)

2. 私が彼に左様致させました

ウー ケン トーア オー フォルド シング  
我等ハ 能フ 聞キ 該鳥ノ 啼クチ  
(一) (五) (四) (二) (三)

3. 私共にあの鳥の啼くのが聞へます

アイ ハード オー サンダー ローア アズ スーン アズ  
予ハ 聞ケリ 雷ノ 鳴ルチ イ ナ ヤ  
(一) (九) (七) (八) (六)

アイ ソー イット フラシ  
予ガ 見シヤ 其チ 光ル  
(二) (五) (四) (三) 4. 私が電光の閃きを見る  
と直ぐに雷鳴を聞きました

ゼー グード ノット ミーキ ミー ラーフ  
彼等ハ 能ハ ガリキ シメ 予チ 笑ハ  
(一) (五) (六) (四) (二) (三)

5. 彼人たちは私を笑はせる事ができなかつた

ハヴ ユー シーン オー ヤング ガール ダンス  
タカ 汝ハ 見 彼ノ 妙齡ノ 處女ノ 踊レチ  
(七) (一) (六) (二) (三) (四) (五)

ノー バット アイ ハヴ ハード ホル シング  
アイエ 併シ 予ハ タ 聞イ 彼女ノ 謠フチ  
(一) (二) (三) (七) (六) (四) (五)

6. あの若い女が踊るのを御覧なさいましたか○イエ

踊るのは見ませんでしたかが謠ふのを聴きました

斯く通常の動詞なる語原に to を加へたるものが不定法動詞の正形なるが又同じ語原に to の代りに ing の文字を加へて同 - の

用を爲すとあり之を分詞名詞 (Gerund) と云ふ例へは

リーディング グード ブックス イズ プロフィタブル  
Reading good books is profitable.  
讀ム事ハ 良キ 書チ アル 有益テ  
(三) (一) (二) (五) (四)

良書を読むは有益の事なり

の Reading good books は To read good books

に等しく而して其の Reading (讀む事)は素と read (讀む)なる語原(動詞)に ing なる語尾を附加へて成形し其「讀む」の働きを books (書を)なる目的、及ぼし之と同時に is (ある)なる動詞の主格名詞たる用を爲すものなり

(其二) 分詞法 (participle) は亦通常の現在動詞の語尾に ing (現在分詞なれば)又は ed (過去分詞なれば)を附加へて動詞兼形容詞たる用を爲すものにして即ち「動詞狀の形容詞 (Verbal adjective) なり例へば

オー ホーイ シイニング オー ベアー ラン エウエー  
1. The boy, seeing the bear ran away.  
該童男ハ 見テ 該熊ヲ 逃去レリ  
(一) (三) (二) (四)

1. 彼の少年は熊を見て逃げ去つた

ゼー アール ビルディング エ ハウス  
彼等ハ アル 建テツ、 家ヲ  
(一) (四) (三) (二)

2. 彼人達は今ま家を建て、居る所だ

(以上現在分詞の例)

オー ブック ビイニング プリントット ウル スーン  
3. The book, being printed, will soon  
該書ハ 印刷サ アラウ 間モナク  
(一) (三) (二) (七) (四)



ビー パブリシド  
be published. (受動調現在分詞の例)

ル、テ 発行サ  
(六) (五)

3. 該書は最早や印刷してあるから程なく發兌される  
であらう

4. He, having written his letter, called the

彼ハ タ所テ 書イタ 彼レノ 手紙ヲ 呼ベリ 該  
(一) (五) (四) (二) (三) (九)

サーヴァント ゾーア エルランド  
servant for errand. (自動調半過去分詞の例)

從者ヲ 爲ニ 使ヒノ  
(八) (七) (六)

4. 彼は手紙を書て了つて下男又は女を呼び使ひを  
言付けた

5. Having been driven by the gale, off

タユヘ サレ 驅逐 ニ 颯々テ カラ  
(八) (七) (六) (五) (四) (三)

the position the boat was compelled to rove-

其ノ 位置 該 艇ハ サレタ 餘儀ナク ベク 漂  
(一) (二) (九) (十四) (十三) (十二) (十一)

オーバー ゾー ー  
over the sea. (受動調半過去分詞の例)

フ 該海ニ  
(十)

5. 彼の艇は元々居た處から颯々に吹き流さ  
れたゆへ如何にも難くて海上に漂つて居た

6. He stood there quite puzzled. (過去分詞の例)

彼ハ 立止マレリ 其處ニ 全ク 途方ニ 暮テ  
(一) (五) (四) (二) (三)

6. 彼はハタと途方にくれて其處に佇んで居た

過去分詞は多くは原動詞に d 又は ed を添て成形すも又他  
不定なる仕方にて成形する者あり而して其 d 又は ed を添て過

去分詞を成形する動詞を規則動詞と云ひ否らざるものを不規則動  
詞と云ふ例へば

ラヴ ラヴド フルム  
love (規則原動詞), loved (規則過去分詞); form, (規則  
愛スル 愛シタル 成形スル)

フルムド フイト  
原動詞), formed (規則過去分詞); write, (不規則原動詞,  
成形シタル 書ク)

リツツス テル トールド  
written (不規則過去分詞); tell (不規則原動詞), told (不  
書カレタル 告ル 告ラレタル)

規則過去分詞)

等の如し

### 第四 調 (Voice.)

調 (voice) とは主位の名詞又は代名詞が發働者なるか將た受働  
者なるかを示す他動詞 (transitive verb) の變化の調へにし  
て發働調 (Active voice) と受働調 (Passive voice) の二  
種と爲す

發働調とは主位の名詞又は代名詞より目的の詞に働き掛る動詞な  
れば一名之を働き掛けの動詞とも云ひ受働調とは主位の名詞又は  
代名詞か他の詞より働きを受る動詞なれば一名之を受け身の動詞  
とも云ふ例へば

コロネル フクシマ エクスプローアド サイベリア  
Colonel Fukushima explored Siberia.  
大佐ガ 福島 探檢セリ 西伯利亞ヲ  
(二) (一) (四) (三)



福島大佐が西伯利亞を探検せり

と云ふときは其 explored (探検せり) と云ふ働詞が Colonel Fukushima (大佐福島) なる主格名詞の「探検する」働きを Siberia (西伯利亞) なる目的の詞に及ぼしたる詞となるなり然れども上に反して

Siberia was explored by Colonel Fukushima.  
西伯利亞は福島大佐に探検せられたり

と云ふときは其 was explored (探検されき) は主立の名詞なる Siberia (西伯利亞) が「探検する」(explore) と云ふ働きを Colonel Fukushima (大佐福島) なる他の詞より受る働詞と爲るなり

受働詞の働詞は凡て他働詞 (transitive verb) の過去分詞と爲れるもの(原働詞に d, ed, の語尾字を加へ又は不規則働詞の en を以て語尾を爲せるもの) の前に be (「ある」と云ふ不規則働詞の原形) より變形せる been 又は am, are, is (ある) was, were (ありし) なる助働詞を連用して成形すると上の第二例に示すが如し

第十章 規則働詞 (Regular verbs),

不規則働詞 (Irregular verbs.)

及び助働詞 (Auxiliaries.)

規則働詞とは現在の儘なる原働詞の尾りに d 又は ed を添て直説法の過去又は過去を作るべきものを謂ふ例へば原働詞 love (愛す) は e 以て語尾を爲すもの故之に d を添て loved (愛せり) に作れば直説法の過去と爲り又同形にて用方より依り loved (愛したる。又は愛して) の意味なれば過去分詞と爲る。又原働詞 attend (従事する) は子韻を以て語尾を爲せる規則的原働詞なれば之に ed を添て attended (従事せし) と作れば直説法の過去と爲り又同形にて用方に依り attended (従事したる。又は従事て) の意味なれば過去分詞と爲るが如し

斯く原働詞より過去直説法及び過去分詞に作る爲に添へたる ed の音は其原働詞の發音の工合より依て上の loved の如く終りの d のみ「ド」と響きて e が黙するとあり又は次の attended の如く ed が恰かも et の如く響くもあり又は dressed (装ひし。装ふたる) の如く d のみ t の如く「ト」と響くもあり又同形にて直説法の過去と過去分詞とにて意味の異なるに由り learned (直説法の過去にて學びし), learned (過去分詞にて學んだる。又は有識なる) の



如く ed の響きを異にするもあり是等は例を擧て盡し難ければ廣く學ぶに従て知るを得べし

又右の ed を添るに付き先づ原動詞の語尾に變更を起す場合あり即ち g, n, p, t 等の文字にて語尾を爲せる一綴音の原動詞にして一母韻之に先んずるときは其尾を二重にして其次に ed を加へ上に其言へる如く e を以て語尾を爲す原動詞には直ちに其後に d のみを添るを例とす例へば spin<sup>スピ</sup> (原動詞。紡ぐ), <sup>スピンド</sup>shinned (直説法の過去。紡ぎし), <sup>スピノ</sup>spinned (過去分詞。紡きたる); drag<sup>ドラグ</sup> (原動詞。曳きする), <sup>ドラグド</sup>dragged (直説法過去。曳きすりし), <sup>ドラグド</sup>dragged (過去分詞。曳きつたる); hop<sup>ホップ</sup> (原動詞。跳ぶ), <sup>ホビト</sup>hopped (直説法過去。跳びし), <sup>ホビト</sup>hopped (過去分詞。跳びたる); dot<sup>ドット</sup> (原動詞。點附る), <sup>ドット</sup>dotted (直説法過去。點附けし), <sup>ドット</sup>dotted (過去分詞。點附けたる) 等の如し。又 y を以て語尾を爲し一子韻之に先立つときは其 y を i にして後 ed を添ふ例へば cry<sup>クライ</sup> (原動詞。泣く。叫ぶ), <sup>クライド</sup>cried (直説法過去。泣きし。叫びし), <sup>クライド</sup>cried (過去分詞。泣きたる) 等の如し

不規則動詞とは原動詞に ed を添る事なくして過去及び過去分詞を作るものを謂ふ而して其詞形を變ずるや毫も一定の規則なく或は過去と過去分詞とにて唯語尾のみ變更するもあり或は全形を異にするもあり或は全形を同ふして發音を異にするもあり或は同形異音なるもありて類例を擧て茲に示すと甚だ難ければ學ぶ者は

表に由て之を暗記するの外なし今其二三を示せば

原動詞	過去	過去分詞
カム come (來る)	ケーム came (來りし)	カム come (來りたる)
テーク take (取る)	トゥック took (取りし)	テークン taken (取りたる)
リード lead (導く)	レッド led (導きし)	レッド led (導きたる)
リード read (讀む)	レッド read (讀みし)	レッド read (讀みたる)
リーブ leap (躍り)	リーブト leaped (躍りし) leapt	リーブト leapt (躍りたる)
セツト set (置く)	セツト set (置きし)	セツト set (置きたる)
ストライキ strike (打つ)	ストローク stroke (打ちし)	ストリックン stricken (打ちたる)
フォール fall (落る。降る)	フォール fell (落ちし。降りし)	フォールン fallen (落たる。降たる)

助動詞とは上に説示せる規則。不規則の動詞に連用し其法。時。人称。及び数の變化を示す事を補助するものを謂ふ即ち其主なるものは do (爲す), be, (ある), have, (.....した), will (あらう), shall (.....すべし), may (.....して宜い), can (.....し能ふ), must, (.....れば成らぬ), ought (.....せざるべからず) 等にして又各之に屬する雙體の助動詞あり即ち do に did (爲せし), be 1 am (ある), are (ある), art (ある), is (ある), were (ありし), was (ありし), being (ありつゝ), been (あつた), have には had (.....したりき), will には would (であらう), shall には should, (.....ればならぬ), may には might (.....したるならん), can には could (能ひしならん) の



過去詞形あるなり是等の用方は前既に各項に於て略ほ説き示したれば茲には説かず尙ほ動詞の配合法に関する詳説の如きは此冊子に餘地なきを以て他日後篇を編著するに文章論の序でに掲げん

第十一章 句 (Phrases). <sup>フレーゼズ</sup>

1. <sup>エ</sup> <sup>モンク</sup> <sup>オヴ</sup> <sup>ビーテア</sup> <sup>イズ</sup> <sup>デライトフル</sup> <sup>トゥ</sup> <sup>エ</sup> <sup>サイト</sup>  
**A thing of beauty is delightful to a sight.**  
物ハ 之 美麗 アル 悦ハシク ニ 視覚  
(三) (二) (一) (七) (六) (五) (四)

1. 凡て美麗なる物は人目を悦ばしむ

2. <sup>オー</sup> <sup>クリサンゼマム</sup> <sup>オヴ</sup> <sup>ゴールデン</sup> <sup>カラー</sup>  
**The chrysanthemum of golden color**  
菊花ガ 之 黄金色  
(三) (二) (一)

<sup>ブルームス</sup> <sup>イン</sup> <sup>オー</sup> <sup>デル</sup> <sup>オヴ</sup> <sup>ズー</sup>  
**blooms in the dell of dew.**  
咲ク 於テ 谷ニ 露  
(八) (七) (六) (五) (四)

2. 黄金の色を粧へる菊花が今を盛り露深き谷間に  
咲て居る

句 (phrase) とは二詞以上より組立てられて一の意味を定限し或は名詞形容詞及び副詞に意味を添るものを謂ふ而して其名詞又は代名詞の意味を定限するものは形容詞と同一の用を爲すものなるが故に之を「形容詞狀の句」(Adjective phrase) と云ひ。動詞。形容詞。及び副詞に意味を添るものは副詞と同一の用を爲すものなるが故に之を「副詞狀の句」(Adverbial phrase) と云

ふ  
凡て句は前置詞 (preposition) と名詞か又は前置詞と冠詞。形容詞。及び名詞を合せて成るものなり例へば上の (1) 例に於て of beauty (美麗の) なる詞は beauty 美麗 なる名詞と of (之) なる前置詞を以て成れる句にして「美麗の物」とて thing (物) なる名詞の意味を定限するの用を爲し彼の通常の形容詞なる <sup>ビューティフル</sup> beautiful (美麗なる) と云ふ詞を假りて beautiful thing (美麗なる物) と云ふと同一の意味を言ひ表はすものなり。又 (2) 例の of golden color (黄金色の) は golden (黄金の) なる形容詞と color (色) なる名詞と of (之) なる前置詞を以て成る句にして「黄金色の菊」とて chrysanthemum (菊) なる名詞の意味を定限し恰かも通常の形容詞なる golden (黄金色なる) の一詞が若くは <sup>イエロー</sup> yellow (黄色なる) と云ふ詞を假りて golden chrysanthemum (黄金色の菊花) 又は yellow chrysanthemum (黄色なる菊花) と云ふと同一の用を爲すものなり。又同例中の of dew (露の) なる詞も dew 露 なる名詞と of (之) なる前置詞を以て成る句にして「露の谷」とて dell (谷) なる名詞の意味を定限し恰かも通常の形容詞なる <sup>ズーイー</sup> dewy (露深き) なる詞を假りて dewy dell (露深き谷) と云ふと同一の意味を言ひ表はすものなり是れ即形形容詞狀の句 (adjective phrases) の例解なり



次に (1) 例の <sup>ツ- エ サイ</sup> *to a sight* (視覚に迄) は *sight* (視覚) なる名詞と *a* (或る) なる冠詞と *to* (まで) なる前置詞を以て成る句にして別語を以て言へば。目で視たところで」と云ふ意味にして「目のために」又は「陽はに」と譯すを得べく即ち「目の爲は悦ばしき」又は「陽はに悦ばしき」とて <sup>ゴライトフル</sup> *delightful* (悦ばしき) なる形容詞に一の意味を添へ恰かも通常の副詞なる <sup>アペレントリー</sup> *apparently* (目に見て。陽はに) の詞を用ゐて <sup>アツアツベレントリー デライトフル</sup> *apparently delightful* (目に見て悦ばしき) と云ふと同一の意味を言ひ表はすものなり是れ即ち「副詞狀の句」(adverbial phrase) なり尙其他の副詞狀の句の用例を左に示さん

<sup>ヒー リヴス イン エス プース</sup>  
 1. **He lives in this place.**  
 彼ハ 住居ス 此ノ 處ニ  
 (一) (三) (二)

1. あの人は此處に暮して居ます

<sup>アイ メツト ヒム イン プー ストリート</sup>  
 2. **I met him in the street.**  
 予ハ 逢ヘリ 彼ニ 於テ 該街ニ  
 (一) (五) (四) (二)

2. 私は該町の通りで彼の人に逢ひました

<sup>コロンバス ヤーロド フロム パロス</sup>  
 3. **Columbus sailed from Paros. in**  
 出帆セリ 是ヨリ パロス港 於テ  
 (一) (六) (五) (四) (三)

<sup>フールテーンハンドレット、ナインティ</sup>  
 4. **and ninety four** 閣下龍は紀元一千四百九十二年に  
 一千四百九十二年  
 (二) パロス港から出帆した

(1) 例の *in this place* (此處に於て) は *this* (此の) なる形

容詞と *place* (場所) なる名詞と *in* (於て) なる前置詞とを合せて成れる句にして「こゝに住む」とて *lives* (住む) なる働詞の一の意味を添へ恰かも <sup>ヒーア</sup> *here* (此處に) なる通常の副詞と同じ用を爲して <sup>リヴス ヒーア</sup> *lives here* (此處に住む) の意味を言ひ表はす。(2) 例の *in the street* も亦 *the* (彼の) なる冠詞と *street* (街路) なる名詞と *in* (於て) なる前置詞を以て成れる副詞狀の句にして「彼の街路で出會へり」とて *met* (出會へり) なる過去直説法の働詞に一の意味を添ふ。(3) 例の文には *from Paros* (パロス港から) と *in 1492* (一千四百九十二年に於て) なる二個の副詞狀句を有し一は *Paros* (港名) なる名詞と *from* (から) なる前置詞を以て成り又一は *1492* (<sup>フールテーン ハンドレット</sup> *fourteen-hundred and ninety four* なる合成名詞) なる名詞と *in* (於て) なる前置詞を以て成り共に *sailed* (出帆せり) なる過去直説法の働詞に兩個の意味を添るものなり

副詞狀の句は斯の如く通例は前置詞と他の詞を以て成れども又間ま前置詞を略したる副詞狀の句も有るなり例へば

<sup>ワー ウォーア ラステット テン イーアズ</sup>  
 1. **The war lasted ten years.**  
 該戦ハ 續ケリ 十年  
 (一) (三) (二)

<sup>ワー ウォメクト サーティー トマイルズ</sup>  
 2. **We walked thirty miles.**  
 吾等ハ 歩行セリ 三十哩  
 (一) (三) (二)

の如く兩者共に陽はに前置詞を用ゐさず雖も其意を玩味すれば



(1) 例の **ten years** (十年) は「十年間續けり」さて <sup>デールンク</sup> **during** (間に)なる前置詞を其前位に於て略し。(2) 例の **thity miles** (三十哩) は「三十哩の距離を歩めり」さて其前位に **a distance of** (の距離を)なる数詞 (**of** なる前置詞と共に)を略せるを見るべきなり

以上説き示す所は即ち英文法の初歩にして實に英語に關する規則の大要を記せるものなれば完全なる語學上より言へば説く所僅かに其一斑に過ぎず蓋し彼れが如き複雑の語學的規則に慣れざるが上に轉ずく倦み易き本邦人を導くの困難を思ひて一時に多量の知識を其靈腦に受取らしむるを強ひず漸次歩を追ふで之を完全の境に導かんを欲すればなり想ふに初學者先づ一通り此文法初歩を通讀し而して後次の會話を熟讀し願みて此編に説く所を考査究せば必ず師を俟たずして英語用方の門に入るとを得ん



文法初歩終



# NEW METHOD

FOR

## LEARNING ENGLISH CONVERSATION.

• 獨 修

### 英 和 新 會 話

會話初歩 (The elementary conversation.)

此編よりは専ら會話の初歩を掲げ初學者の獨修を資せんが依て初學者は宜しく前二編に説示せる所を心に記憶したる後此編に就て用語の振合を學び英語會話文を組立る事を勉むべし

(1)

會話用雜語 (Miscellaneous conversational phrases.)

チンキス Thanks	謝辭	チンキ thank	謝す
オブラインド Obliged to	お蔭で有難う	リーフリー really	實に
カインド Kind	親切で	アツナンシン attentipn	注意
メンシン Mention	説く	グッドネス goodness	慈悲
カインドネス Kindnes	仁惠	フーヴァ favour	恵み
オブライジ Oblige	恵む	ペンナイフ penknife	削筆刀
パーミット Permit	許せ	クエスツン question	尋問



エナザー <b>Another</b>	も一つ	エニニヤング <b>anything</b>	何事かを
アフズーア <b>Affair</b>	事件	エニニ モーア <b>any more</b>	もつと
アップルーヴ <b>Approve</b>	可認する	コンダクト <b>conduct</b>	行爲を
サーテンティ <b>Certainty</b>	確證	マツ ター オヴ コールス <b>matter of course</b>	勿論の事

誠に有り難うございます

Many thanks.

有り難うございます

Thank you.

大らうお蔭を蒙りまして (有り難うございます)

I am much obliged to you.

あなたは誠に親切なお方でございます

You are very kind.

あなたは實に親切すぎる

You are really too kind.

私は實にお許しを願はなければなりません

I must really beg you to excuse me.

御親切にお心付け下さつて有り難うございます

I thank you for your kind attention.

お禮には及びません

Do not mention it.

どうぞ私に其を爲さつて下さい

Will you have the goodness (又は kindness) to do it for me?

失禮ながら其を爲さつて下さい

May I ask you whether

ませうか如何でございます

ther you will do it for me, or not? (May を失

禮ながらご譯す)

どうぞお世話様ながらお願い申します

I ask it you as a favour.

どうぞ削筆刀を貸して下さい

Can you oblige me with a penknife?

御免を蒙て少々お尋ね申します

Permit me to ask you a question.

再一つお尋ね申す事があります

I have another question to ask you.

此質問(二個以上)にお答へなさい

Answer these questions.

何ぞ私に仰しやる事がありますか

Have you anything to say to me?

私は其の事件に就てお話し申しに参りました

I have come to speak to you about that affair.

もつと仰しやる事がありますか

Have you any more to say?

私の爲す所はお氣に叶ひますか

Do you approve of my conduct?



エナザ- <b>Another</b>	も一つ	エニ-ソング <b>anything</b>	何事かを
アフア-ア <b>Affair</b>	事件	エニ- モ-ア <b>any more</b>	もつと
アッブル-ヴ <b>Approve</b>	可認する	コンダクト <b>conduct</b>	行爲を
サーチエンター <b>Certainty</b>	確実	マツ タ- オヴ コ-ルス <b>matter of course</b>	勿論の事

誠に有り難うございます  
 有り難うございます  
 大らうお蔭を蒙りまして (有り  
 難うございます)  
 あなたは誠に親切なお方でご  
 ざいます  
 あなたは實に親切すぎる  
 私は實にお許しを願はなければ  
 なりません  
 御親切にお心付け下さつて有り  
 難うございます  
 お禮には及びません  
 どうぞ私に其を爲さつて下さい  
 失禮ながら其を爲さつて下さい

メニ- キンキス  
**Many thanks.**  
 キンキ ユ-  
**Thank you.**  
 アイ エム マツチ オブライジド  
**I am much obliged**  
 トー ユ-  
**to you.**  
 ユ- ア-ル ヴリー カインド  
**You are very kind.**  
 ユ- ア-ル リ-アリー トー  
**You are really too**  
 カインド  
**kind.**  
 アイ マスト リ-アリー ベグ ユ-  
**I must really beg you**  
 トー エキスキューズ ミ-  
**to excuse me.**  
 アイ キンキ ユ- ズ-ア ユ-ア  
 カインド アツチンシン  
**I thank you for your**  
 kind attention.  
 トー ノット メンション イット  
**Do not mention it.**  
 ヴル ユ- ハヴ  
**Will you have the**  
 グッドネス カインドネス  
**goodness (又は kindness)**  
 トー E- イット フォア ミ-  
**to do it for me?**  
 メ- アイ アスク ユ- フォ  
**May I ask you whe-**

ませうか如何でございます

どうぞお世話様ながらお願い申  
します

どうぞ削筆刀を貸して下さい

御免を蒙り少々お尋ね申します

再一つお尋ね申す事がありま  
す

此質問(二個以上)にお答へなさ  
い

何ぞ私に仰しやる事があります  
か

私は其の事件に就てお話し申し  
に参りました

もつと仰しやる事がありますか

私の爲す所はお氣に叶ひますか

ザ- ユ- ヴル E- イット フォア  
**ther you will do it for**  
 ミ- オル ノット  
**me, or not? (May を失**

禮ながらと譯す)  
 アイ アスク イット ユ- アズ エ  
**I ask it you as a**  
 フォア  
**favour.**

ケン ユ- オブライジ ミ-  
**Can you oblige me**  
 ヴズ エ ペンナイフ  
**with a penknife?**

パーミット ミ- トー アスク ユ-  
**Permit me to ask you**  
 エ クエスツン  
**a question.**

アイ ハヴ エナザ- クエス  
**I have another ques-**  
 シン トー アスク ユ-  
**tion to ask you.**

アンサー フォース クエス  
**Answer these ques-**  
 シンズ  
**tions.**

ハヴ ユ- エニ-ソング  
**Have you anything**  
 トー セー トー ミ-  
**to say to me?**

アイ ハヴ カム トー スピーク  
**I have come to speak**  
 トー ユ- エバウト ゴット アフア-ア  
**to you about that affair.**

ハヴ ユ- エニ- モ-ア  
**Have you any more**  
 トー セー  
**to say?**

E- ユ- アッブル-ヴ オヴ  
**Do you approve of**  
 マイ コンダクト  
**my conduct?**



其は問ふ迄の事ではありません

ゼット イズ ノット オー クエス  
That is not the ques-  
ション.

私は確かに承知して居て疑ひ  
ません

アイ ノー イット トー エー サー  
I know it to a cer-  
テンティー.

其は勿論の事でございます

ゼット イズ エ マッター オヴ  
That is a matter of  
コース.

2

イン ミッドル ランクス In the middle ranks	中等の	サーテインリー certainly	随かに
レス ポーライト Less polite	よりも不丁寧	イムプルーフ improving	開進して
マッチ ライキ Much like	甚だ好む	コンペルド compelled	餘儀なく
イントロダース Introduce	紹介せよ	ウillingリー willingly	承知致ました
オブジェクシオン Objection	異論	ノー オブジェクシオン no objection	異論はない
インクラインド トー Inclined to	何々したい	マイセルフ myself	自分で
ネセシティー Necessity	必要	アズ プリーズ as.....please	随意に
フウェンエヴァー Whenever	何時でも	シンク think	思ふ
プロパー Proper	適當	アグリーエーブル agreeable	気に入る
アグリーエーブリー Agreeably	気に入る様に	ウシエズ wishes	望み
デサイデットリー Decidedly	斷然と	リコメンド recommend	推薦する
アドレス Address	宿所姓名書	ゼーア イズ there is	何々がある
ナニソング Nothing	.....の事はない	イージャー easier	.....よりも容易

イージー  
Easy

容易い

アドヴァイス  
advice

指圖。助言

アドヴァイスト  
Advised

指圖される

アドヴァイセーブル  
advisable

指圖すべき

ミスフォーチーン  
Misfortune

不幸

アドヴァイス  
advise

指圖する

シンキング オヴ  
Thinking of

.....の事を  
「考て居る

フー ビーブル  
few people

少数の人

中等の歐羅巴人は確かに同じ  
等級の日本人ほど禮儀正しくな  
い

オイ ユーロピアンズ イン  
The Europeans in  
オイ ミッドル ランクス  
the middle ranks  
アール サーテインリー レス ポー  
are certainly less po-  
ライト ザン ウー アール イン  
lite than we are in  
ジャパン.

併しあなたは開化したお方だ

バット ユー アール イムプルーフ  
But you are impro-  
ウイング.

私は止まりたいは山々ですが餘  
儀ない事情があつて行かなけれ  
ば成ません

アイ シード マッチ ライキ  
I should much like  
トー スター バット アイ エム  
to stay, but I am  
コムペルド トー ゴー  
compelled to go.

お友達を私に紹介しなさい

イントロダース ユーア フレ  
Introduce your fri-  
ント トー ミー  
end to me.

畏こまりましたが何様にして  
(御紹介申ませう)

ウillingリー バット ハウ  
Willingly, but how?

先づあなたが正當だと言はなけ  
れば成りません

アイ シード セイ ゼット ユー  
I should say that you  
アール ライト  
are right.



何か御異論がありますか

ハヴ ユー エニー オブ  
**Have you any ob-  
jection?**

何も其に就ては異論はありませ  
ん

アイ ハヴ ノー オブジェクシ  
**I have no objection  
to it.**

あなたは私と共に其を爲して見  
たいと思ひますか

ドゥー ユー フール インクラインド  
**Do you feel inclined  
to do it with me?**

私は自分獨りで其を爲なければ  
成りません

アイ マスト ビー イット マイセルフ  
**I must do it myself.**

左様仕なければ成らぬと云ふ  
何なる必要が有ますか

フワット ネセスシティー イズ  
**What necessity is  
there for that? (is**

there は只「あるか」の意なり)

何れでも御隨意に

アズ ユー プリーズ  
**As you please.**

何時でもお好きな時に

フヴェン ユー ライキ  
**When you like. (又は  
whenever you please.)**

お好み次第に(又は)好いと思召  
す通りに

アズ ユー ライキ アズ  
**As you like. (又は) as  
you think proper.**

其がお氣に合ふなら

イフ イット イズ アグリーエーブル ビー  
**If it is agreeable to  
you.**

お望みに適ふ様に

アグリーエーブル ビー ユーア  
**Agreeable to your  
wishes.**

私は斷乎として其を望みます

アイ デサイデットリー  
**I decidedly wish it.**

武内君に私を推薦して下さいま  
せうか

クード ユー リコム  
**Could you recom-  
mend me to Mr.**

タケノウチ  
**Takenouchi?**

山田君の宿所姓名書等を下さい  
ませ

ケン ユー キヴ ミー  
**Can you give me the  
address of Mr. Ya-  
mada?**

彼の人の所がきを進ませう

アイ ウル キヴ ユー ヒズ  
**I will give you his  
address.**

.....を話して下さい

ケン ユー テル ミー  
**Can you tell me.....?**

其れより容易い事はありませ  
ん

ゼーア イズ ナスニツ  
**There is nothing  
easier. (there is no-**

thing は只「其外にない」の意  
なり.)

其は至極容易い事です

イット イズ エ ヴェリー イージー  
**It is a very easy  
matter.**

あなたのお勧め下さる御意見は  
何な事です

フワット イズ ユーア アドヴァイス  
**What is your advice?**

あなたは其事に付て彼人の意  
見を聴かなければ成りません

ユー ショウド アスク ヒズ  
**You should ask his  
advice upon it.**

善い意見をお聴きに成りました

ユー ハヴ ビーン ヴェル  
**You have been well  
advised.**



其は相談して意見を陳る様な事  
でない(話しにならない)

何れいふ事をお勧め下さるのか

あなたは其を考へて見なければ  
成りません

私は其を考へて居ました

.....の事は何ぞ思ふておいでな  
さる

彼人の事は何ぞお思ひなさる

彼人は大そう面白い人だと思  
ひます

左様思ふ人は鮮々なうござい  
ます

何れママ不幸な事ですなあ

イット イズ ノット アドワイセーブル  
It is not advisable.

フワット ワード ユー アド  
What would you ad-  
ヴァイス ミー トー ビー  
vise me to do ?

ユー マスト スンキ オヴ  
You must think of  
イット  
it.

アイ イズ スンキング オヴ  
I was thinking of  
イット  
it.

フワット アール ユー スン  
What are you think-  
キング オヴ  
ing of ..... ?

フワット ビウ ユー スンキ  
What do you think  
オヴ ヒム  
of him ?

アイ スンキ ビー イズ エ ビリー  
I think he is a very  
アグリーエーブル マン  
agreeable man.

フー ビーブル スンキ ソー  
Few people think so.

フワット エ ミスフォーチーン  
What a misfortune !

3

リヴス 暮す グランド スタイル 立派な風態  
Lives grand style  
ウェル トー ビー 繁昌して ウェル オフ well-off 有福で  
Well-to-do well-off

リーライ オン  
Rely on 信任する

アンイージー  
Uneasy 不安心で

トラブル  
Trouble 迷惑。を掛る

エグーン トー モロー  
Again to-morrow また明日

サム オヴー オース フイン  
Some of these fine

デース  
days 此好天氣に一日

エクカムペニー  
Accompany 一緒に交る

エット エニー タイム  
At any time 何時でも

バイ マイセルフ  
By myself 私獨りで

オン ツーデー  
On Tuesday 火曜日に

リコルレクト  
Recollect 想ひ出す

アズ フール アズ  
As far as .....する限りは

フォーザ ライフ  
For the life 生涯の間

リメモバー  
Remember 記憶する

プロミス  
promise 約束。する

エム ソーリー  
am sorry 不氣の毒だ

エニー フーレザー  
any further もう此上に

コール オン  
call on 訪ふ

ファースト オポポルト  
first opport-

ニティー  
unity 序であり次第

オールウェー ス ハッピー  
always happy 毎日も楽しい

ダイ  
dine 食事する

チーキ テー  
take tea 茶を飲む

デライテッド  
delighted 嬉しい

トー トー ベスト  
to the best .....の限りは

リコレクティオン  
recollection 想出

クワイ  
quite 全く

彼人は立派な暮しをして居ま  
す

彼人は繁昌です(又は)有福で  
す

彼人の約束は當てに成りませ  
うか

ヒー リヴズ イン エ グランド  
He lives in a grand  
スタイル  
style.

ヒー イズ ウェル トー ビー  
He is well-to-do (又は)  
ウェル オフ  
well-off.

ケン アイ リーライ オン ヒズ  
Can I rely on his  
プロミス  
promise ?



其は御心配なさるな

Do not be uneasy about that.

私はお約束を致しますまい

I will not promise you.

御迷惑を掛けてはお氣の毒です

I am sorry to trouble you.

もう此上は御迷惑を掛けません

I will not trouble you any further.

其様な御迷惑は掛けたくありません

I do not wish to give you that trouble.

其事に付ては御迷惑は掛けません

I will not trouble you with it. I will not trouble you.

お互ひに又明日お目に懸りませう

We shall meet (又は see each other) again 會フ 相互ニ (二) (一) to-morrow.

宜しければお宅へ伺ひませう

If you like, I will call at your house.

何時お出で下さいますか

When will you call ?

此好い日々和の中一日伺ひませう

I will call on you some (又は one) of these fine days.

序でのあり次第直ぐに伺ひます

I shall take the first opportunity to call on you.

あなたとお附合ひ申すのが至つて楽しふござい升

I shall be very happy to accompany you.

實に左様です

Indeed !

お目に懸るのが毎も楽しみでございます

I shall be always happy to see you.

何時でもお出で下さい歓迎こんでお目に懸りますから

Come at any time and you shall be welcome.

今度は何時お目に懸りませうか

When shall I see you again ?

私が獨りで食事する時にお出で下さらなければいけません

You must come and see me when I dine

(dine は午か晩の首なる食



火曜日にお出でに成て私ご一し  
よに茶を喫つて下さい

お目に懸るのが楽しみでござい  
ます

あなたは私をお覚えですか (想  
ひ出すかの意)

私の想ひ出せるだけ (考へても)

ア、想ひ出しました

あなたは其を想ひ出しませんか

さて一生涯の間は (覺へて居  
られ) ません

私は少しも覺へて居ません

事をするなり) <sup>バイ</sup> <sup>マイセルフ</sup> **by myself.**

<sup>ウレ</sup> <sup>ユー</sup> <sup>カム</sup> <sup>エンド</sup>  
**Will you come and**  
<sup>チーキ</sup> <sup>デー</sup> <sup>ウズ</sup> <sup>ミー</sup> <sup>オン</sup>  
**take tea with me on**

<sup>チー</sup> <sup>ズデー</sup>  
**Tuesday ?**

<sup>アイ</sup> <sup>エム</sup> <sup>デライテッド</sup> <sup>トー</sup>  
**I am delighted to**

<sup>ソー</sup> <sup>ユー</sup>  
**see you.**

<sup>トー</sup> <sup>ユー</sup> <sup>リコーレクト</sup> <sup>ミー</sup>  
**Do you recollect me ?**

<sup>トー</sup> <sup>ゾイ</sup> <sup>ベスト</sup> <sup>オヴ</sup> <sup>マイ</sup>  
**To the best of my**

<sup>リコーレクシ</sup> <sup>アズ</sup>  
**recollection. (又は) as**

<sup>スール</sup> <sup>アズ</sup> <sup>アイ</sup> <sup>ケン</sup> <sup>リコーレクト</sup>  
**far as I can recollect.**

<sup>アイ</sup> <sup>リコーレクト</sup> <sup>イット</sup>  
**I recollect it.**

<sup>トー</sup> <sup>ユー</sup> <sup>ノット</sup> <sup>リコーレクト</sup>  
**Do you not recollect**

<sup>イット</sup>  
**it ?**

<sup>アイ</sup> <sup>ケン</sup> <sup>ノット</sup> <sup>フォー</sup> <sup>ゾイ</sup>  
**I can not for the**

<sup>ライフ</sup> <sup>オヴ</sup> <sup>ミー</sup>  
**life of me.**

<sup>アイ</sup> <sup>トー</sup> <sup>ノット</sup> <sup>クワイ</sup>  
**I do not quite**

<sup>リ</sup> <sup>メ</sup> <sup>ム</sup> <sup>バ</sup> <sup>ー</sup>  
**remember.**

<sup>エ</sup> <sup>シート</sup>  
**A seat**

坐席。腰掛

<sup>ソー</sup> <sup>テット</sup>  
**seated**

坐して

<sup>フ</sup> <sup>ロム</sup> <sup>フ</sup> <sup>ロム</sup>  
**Where.....from** 何處から **whom.....from** 誰から

<sup>イズ</sup> <sup>ナ</sup> <sup>マニ</sup> <sup>グ</sup> <sup>オヴ</sup> <sup>ノー</sup> <sup>コン</sup> <sup>セク</sup> <sup>エ</sup> <sup>ン</sup> <sup>ス</sup>  
**Is nothing** 何でもない事 **of no consequence** 取るに

<sup>エキ</sup> <sup>ザク</sup> <sup>ト</sup> <sup>リー</sup> <sup>ノー</sup> <sup>ア</sup>  
**Exactly** 全く **nor** 「足りない  
又.....ない

<sup>アイ</sup> <sup>イー</sup> <sup>ザ</sup> <sup>オール</sup> <sup>リン</sup>  
**I either** 私の方でも **all one** 同じ事。皆一つ

<sup>オール</sup> <sup>ゾイ</sup> <sup>セーム</sup> <sup>ア</sup> <sup>ミ</sup> <sup>エ</sup> <sup>ー</sup> <sup>ブル</sup>  
**All the same** 同じ事 **amiable** 温順で

<sup>レー</sup> <sup>ト</sup> <sup>リー</sup> <sup>オー</sup> <sup>ブン</sup> <sup>カ</sup> <sup>リ</sup> <sup>ツ</sup> <sup>シ</sup>  
**Lately** 近頃 **open carriage** 蓋なしの馬

<sup>ヤ</sup> <sup>ング</sup> <sup>レー</sup> <sup>ノー</sup> <sup>ボディー</sup>  
**Young lady** 若夫人 **nobody** 誰も.....ぬ

<sup>レー</sup> <sup>ディー</sup> <sup>キ</sup> <sup>ミス</sup>  
**Ladylike** 奥様風の **miss.....** 何某娘

<sup>バイ</sup> <sup>サイト</sup> <sup>ゾース</sup> <sup>レー</sup> <sup>デース</sup>  
**By sight** 見て **those ladies** あの貴女等

<sup>ジェ</sup> <sup>ント</sup> <sup>ル</sup> <sup>メン</sup> <sup>エ</sup> <sup>フレ</sup> <sup>ンド</sup> <sup>オヴ</sup> <sup>ユー</sup> <sup>アズ</sup>  
**Gentlemen** 紳士等 **a friend of yours** あなたの友達

<sup>ヒズ</sup> <sup>ネ</sup> <sup>ム</sup> <sup>オヴ</sup> <sup>ライ</sup> <sup>ジン</sup> <sup>グ</sup> <sup>パー</sup> <sup>ソン</sup>  
**His name** 彼の名 **obliging person** 懇懇言な人

<sup>ボウ</sup> <sup>ド</sup> <sup>ジ</sup> <sup>スト</sup>  
**Bowed** 辭儀した **just** 丁度今

<sup>ゴ</sup> <sup>ン</sup> <sup>ア</sup> <sup>ウト</sup> <sup>ウ</sup> <sup>リー</sup> <sup>ヴェ</sup> <sup>ル</sup>  
**Gone out** 出て行た **very well** 大そうよく

<sup>エ</sup> <sup>ジェ</sup> <sup>ント</sup> <sup>ル</sup> <sup>マン</sup> <sup>フ</sup> <sup>ウ</sup> <sup>ハズ</sup> <sup>カム</sup>  
**A gentleman (單數) who has come** 今來た紳士

<sup>レ</sup> <sup>ット</sup> <sup>カム</sup> <sup>イン</sup> <sup>ク</sup> <sup>ワイ</sup> <sup>ト</sup> <sup>エ</sup> <sup>ロー</sup> <sup>ン</sup>  
**Let.....come in** 入れる **quite alone** たつた獨りで

<sup>リー</sup> <sup>ヴ</sup> <sup>エ</sup> <sup>ロー</sup> <sup>ン</sup> <sup>エ</sup> <sup>リ</sup> <sup>ッ</sup> <sup>ル</sup> <sup>フ</sup> <sup>ワ</sup> <sup>イル</sup> <sup>エ</sup> <sup>ゴ</sup> <sup>ー</sup>  
**Leave.....alone** 獨りで置く **a little while ago** 少時の

<sup>ゴ</sup> <sup>ー</sup> <sup>イン</sup> <sup>グ</sup> <sup>シ</sup> <sup>ア</sup> <sup>ス</sup> <sup>ア</sup> <sup>ン</sup> <sup>グ</sup> <sup>シ</sup> <sup>ア</sup> <sup>ス</sup>  
**Going** 何々せんとして **anxious** 心配して

<sup>エ</sup> <sup>ット</sup> <sup>ホ</sup> <sup>ーム</sup> <sup>リ</sup> <sup>ガ</sup> <sup>ツ</sup> <sup>コ</sup> <sup>ム</sup> <sup>プ</sup> <sup>リ</sup> <sup>メ</sup> <sup>ン</sup> <sup>ツ</sup>  
**At home** 宅よ **regards, compliments**

<sup>プ</sup> <sup>レ</sup> <sup>ゼ</sup> <sup>ン</sup> <sup>ギ</sup> <sup>ヴ</sup> <sup>リ</sup> <sup>ガ</sup> <sup>ツ</sup> <sup>共</sup> <sup>に</sup> <sup>禮</sup> <sup>義</sup> <sup>敬</sup> <sup>意</sup>  
**Present** 執達せよ **give.....regards** 宜しくさ傳言す

<sup>ライ</sup> <sup>ト</sup> <sup>フ</sup> <sup>ウ</sup> <sup>オ</sup> <sup>ツ</sup> <sup>エ</sup> <sup>ー</sup> <sup>ジ</sup>  
**Write** 手紙を遣る **what age** 何歳か

<sup>ハ</sup> <sup>ウ</sup> <sup>オ</sup> <sup>ー</sup> <sup>ルド</sup> <sup>チ</sup> <sup>ー</sup> <sup>キ</sup> <sup>フォー</sup> <sup>ア</sup>  
**How old** 幾歳か **take.....for** .....さ思ふ



トウェンティー イーアズ オールド オヴ エージ  
**Twenty years old** 廿歳になる of age (何)歳で  
 クワイ トゥー サーティ ライク ユー  
**Quite thirty** 丁度三十歳 like you あなたに似て

お掛けなさい (椅子に) ○お坐  
 りなさい

デーキ エ シート  
**Take a seat.**

お坐りなさい ○お掛けなさい  
 何處からお出でに成りました  
 (ごちらさまです)

ビー シーテッド  
**Be seated.**  
 フウェーア ビー ユー カム  
**Where do you come**  
 フロム from ?

何方からお出でに成りました

フウム ビー ユー カム  
**Whom do you come**  
 フロム from ?

其は何でもない事だ ○其様な事  
 は何れでもよい (取るゝ足らぬ)

ゼット イズ ナソング  
**That is nothing, (又は)**  
 ゼット イズ オヴ ノー コンセ  
**that is of no conse-**  
 クェン ス  
**quence.**

御同意です  
 全くの御同意は致しません

アイ アグリー ウズ ユー  
**I agree with you.**  
 アイ ビー ノット エキザクトリー  
**I do not exactly**  
 アグリー ウズ ユー  
**agree with you.**

私に於ても左様です  
 其様な事は構ひません

ノーア アイ イーザー  
**Nor I either.**  
 ゼット イズ ナソング ビー  
**That is nothing to**  
 ミー  
**me.**

其は詰り同じ事です

イット イズ オール リン  
**It is all one, (又は)**  
 イット イズ オール セーム ソング  
**it is the same thing.**

其は私ゝは同じ事です

イット イズ オール オール セーム  
**It is all the same**  
 トー ミー  
**to me.**

私に左様思ひません

アイ ビー ノット ソンキ ソー  
**I do not think so.**

何處へ往てお居でございました

フウェーア ハヴ ユー  
**Where have you**  
 ビーン  
**been ?**

稲垣の奥さんに會つて往つて居ま  
 した

アイ ハヴ ビーン トー  
**I have been to see**  
 ミセス マダム イナ  
**Mrs. (又は) Mme. Ina-**  
 ガキ  
**gaki.**

彼方(女)は何處に住でいらつ  
 してやいますか

フウェーア ダス シー リヴ  
**Where does she live ?**  
 (live は「暮す」にて住宅を持つ  
 意に非ず)

彼方は大そう温か順い方です  
 近頃彼方にお逢いなされまし  
 たか

シー イズ ヴェリー アミエーブル  
**She is very amiable.**  
 ハヴ ユー シー ホル  
**Have you seen her**  
 レートリー  
**lately ?**

昨日彼方に逢いましたか蓋な  
 しの馬車に乗て居られました

アイ ソー ホル イェストルデー  
**I saw her yesterday ;**  
 シー ウォズ イン エヌ オープン  
**she was in an open**  
 ケアリッジ  
**carriage.**

あの若い奥方は誰れです

フウ イズ ゼット ヤング  
**Who is that young**  
 レディー  
**lady ?**

誰も彼方を知て居る者はあり  
 ません

ノーボディー ノース ホル  
**Nobody knows her.**



彼方は大うう人柄な風だ(上品だ。奥様風だ)

シ- イズ ヴェリー レディーライク  
She is very ladylike.

あなたは種子さんを御存知ですか

ド- ユー ノー ミス  
Do you know Miss.  
タネ  
Tane?

私は彼方のお顔を見て知て居ます

アイ ノー ホレ バイ サイト  
I know her by sight.

彼方々々を御存知ですか

ド- ユー ノー ゴース  
Do you know those  
レディー  
ladies (女) [又は] ジェントル  
メン  
men (男)?

私はたつた今あなたのお友達(一人)に逢ひました

アイ ハヴ ジスト マーシ エ  
I have just seen a  
フレンド オヴ ユーアズ  
friend of yours.

彼人の名は何と申します

フツオット イズ ヒズ ネーム  
What is his name?

彼は大そう面白い人です

ヒ- イズ エ ヴェリー  
He is a very  
アグリー-エーブル マン  
agreeable man.

彼は大うう懇篤な人です

ヒ- イズ エ ヴェリー オブライジツク  
He is a very obliging  
パーソン  
person.

私共は彼方に辭儀を致しました

ウ- バウト ヒ- ヒム  
We bowed to him.

彼人はたつた今出て行たところ

ヒ- ハズ ジスト ゴーン  
He has just gone  
アウト  
out.

私は餘程熟彼人を知て居ます

アイ ノー ヒム ヴェリー  
I know him, very

往つて彼人に逢ひませう

ウエル  
well.  
アイ ウル ゴー エンド ー  
I will go and see  
ヒム  
him.

是れから往つて彼人に話しを致しませう

アイ ウル ジスト ゴー エンド  
I will just go and  
スピーキ ヒ- ヒム  
speak to him.

あなたは彼方々に話したいか

ド- ユー ウシヒ- スピーキ  
Do you wish to speak  
ヒ- ヒム (又は) ホル  
to him (又は) her? (男

は him, 女は her)

あれ。あなたに話しに来た方(男)が居ます

ゼーア イズ エ ジェントルマン  
There is a gentleman  
フウ ハズ カム ヒ-  
who has come to  
スピーキ ヒ- ユー  
speak to you.

内へ通るやうに言て下さい(又は) 通して下さい

テル ヒム ヒ- カム  
Tell him to come  
イン (又は) レット ヒム カム  
in. (又は) let him come  
イン  
in.

私はたつた獨りで居ます

アイ エム クワイト エローン  
I am quite alone.

私も獨りで居るから。彼人をも打捨けて置きなさい

リーヴ ミー エローン  
Leave me alone;  
リーヴ ヒム エローン  
leave him alone.

私は少し先刻彼人に會つました

アイ メット ヒム エ リッピル  
I met him a little  
フワイル エゴー  
while ago.

私は是れから姉(又は妹)に會ふところ

アイ エム ゴーイング ヒ- ミート  
I am going to meet  
マイ シスター  
my sister.



彼方は大そうあなたと逢いた  
がつて居なさいます  
御尊父様はお宅にいらつしやい  
ますか  
御兄(弟)に宜しく

萬望お宅へよろしく

あなたが御兄弟に手紙を出し  
に成るさき私からも宜しく申し  
たさ仰しやつて下さい  
御姉妹はお幾歳でございます

あなたはお幾歳ですか

私を幾歳だと思ひなされる

シー イズ アンクシアス トー ヌー  
**She is anxious to see**  
ユー  
**you.**

イズ ユーア ファザー エット  
**Is your father at**  
ホーム  
**home ?**

ギヴ マイ リガーツ トー  
**Give my regards to**  
ユーア ブラザー  
**your brother. (brother**

は單數なれば兄か弟かの一人を  
指す)

プリーズ プレゼント マイ  
**Please present my**  
コムプリメンツ トー ユーア  
**compliments to your**  
ファミリー  
**family.**

マイ ナインド リガーツ トー  
**My kind regards to**  
ユーア ブラザー フウエン  
**your brother, when**  
ユー ライト トー ヒム  
**you write to him.**

フウォット エージ イズ ユーア  
**What age is your**  
シスター  
**sister ? (sister は女性單數**

なれば姉か妹の一人を指す)

フウォット エージ ハウ  
**What age (又は how**  
オールド フール ユー  
**old) are you ?**

ハウ オールド エー ユー テーキ  
**How old do you take**  
ミー フォー  
**me for ?**

私は二十歳で。彼(女性)は三十  
歳です

彼は丁度卅歳になります

彼(女性)はあなたに肖まて居なさい  
ます

アイ エム トゥエンティー イーアス  
**I am twenty years**  
オールド シー イズ サーティー  
**old; she is thirty**  
イーアス オヴ エージ  
**years of age.**

シー イズ クワイト サーティー  
**She is quite thirty.**

シー イズ ライキ ユー  
**She is like you.**

5

ウエイト	待つ	エ ミニツト	ちよつと
<b>Wait</b>		<b>a minute</b>	
エ リトル	暫 <small>しば</small> 時 <small>とき</small>	オールモスト ナイト	殆 <small>たいてい</small> の夜
<b>a little</b>		<b>almost night</b>	
エキスキーズ ミー	御免を蒙 <small>ま</small> る	オールウェー	毎 <small>まい</small> も
<b>Excuse me</b>		<b>always</b>	
ゲツラング レート	晩 <small>おそ</small> くなつて	ハ ヴ カムペニー	附 <small>つ</small> 合 <small>あ</small> ふ
<b>Getting late</b>		<b>have company</b>	
レディ	支度 <small>しど</small> ができて	ハ ヴ ケプト ウェーティング	待 <small>まち</small> たせた
<b>Ready</b>		<b>have kept waiting</b>	
ゴー ダウン	降 <small>くだ</small> る	フチーアズ	階 <small>かい</small> 段 <small>だん</small>
<b>Go down</b>		<b>stairs</b>	
マインド	氣 <small>き</small> を付けなさい	テーキ ケア	注 <small>しゆ</small> 意 <small>い</small>
<b>Mind</b>		<b>take care</b>	
ニース	新聞	トー デース	今日 <small>けふ</small> の
<b>News</b>		<b>to-day's</b>	
ニースペーパー	新聞紙	リトル コンセクエンス	差 <small>さ</small> 間 <small>ま</small> へない
<b>Newspaper</b>		<b>little consequence</b>	
トラブル マイセルフ	迷惑 <small>めいわく</small> する	フル オフエンデット	憤 <small>いら</small> だる
<b>Trouble myself</b>		<b>feel offended</b>	
ドント マインド	頓 <small>とん</small> 着 <small>ちやく</small> しない	ディストルブ ユーアセルフ	お騒 <small>さわ</small> ぎなされる
<b>Don't mind</b>		<b>disturb yourself</b>	
トー バッド	餘 <small>あま</small> り善 <small>よ</small> くない	ネヴァー マインド	心 <small>こころ</small> 配 <small>はい</small> するな
<b>Too bad</b>		<b>never mind</b>	
ノー マッター	構 <small>かま</small> はぬ事 <small>こと</small>	プルーフ	證 <small>しやう</small> 明 <small>めい</small> する
<b>No matter</b>		<b>prove</b>	



アッピアーズ <b>Appears</b>	想はれる	インフォームド <b>informed</b>	言ひ聽されて
ノー サッチ ینگ <b>No such thing</b>	其様な事でない	プルーフ <b>proof</b>	證據
シェーム <b>Shame</b>	耻辱	ノー グレート マッター <b>no great matter</b>	大した事でない
ミスチーク <b>Mistake</b>	誤解	ミスチークン <b>mistaken</b>	誤解して
シアー オヴ <b>Sure of</b>	保證して	フールス <b>false</b>	間違た。偽りの
リポート <b>Report</b>	報告知	スタッフ <b>stuff</b>	呆事
ノンセンス <b>Nonsense</b>	謔語	シット <b>shut</b>	閉る
オープン <b>Open</b>	開る	ボルト <b>bolt</b>	鎖す。栓をさす
フウォット エ ナムバー <b>What a number</b>	幾人	ゼーア ヴァー <b>there were</b>	あつた
グレート ナムバー <b>Great number</b>	数多	サムワン <b>some one</b>	誰れか
ノックス <b>Knocks</b>	敲く(戸を)	ハヴ エスニア <b>have a fire</b>	火にあたる
ストル <b>Stir</b>	挑発する。火を起す	ルッキング フォー <b>looking for</b>	捜して
ウォンテッド <b>Wanted</b>	要めて居る	サクシーデッド <b>succeeded</b>	首尾よくあてた
インクワイア エバウト <b>Inquire about</b>	尋ねる	ハッド ベッター インクワイア <b>had better inquire</b>	尋ねるがよい
クワイト ライト <b>Quite right</b>	道理だ	ノー ライト <b>No right</b>	関係はない
エウェアア オヴ <b>Aware of</b>	を知て(気が付いて)		

私は往かねばなりません  
暫く時をお待ち下さい  
少しお待ち下さい  
最早や間もなく夜も成ります

アイ マスト ゴー  
**I must go.**  
ヴェート エ ミニット  
**Wait a minute.**  
ヴェート エ リトル  
**Wait a little.**  
イット イズ オールモスト ナイト  
**It is almost night.**

もう御免を蒙らなければ成り  
ません  
あなたは毎日も其様な事を仰ぎ  
しやる  
もう晩くなりました  
お待ち下さるか  
お待ち申しませう  
今日は一緒にお附合ひ申します  
  
支度が出来たらお知らせ申しま  
す  
お待たせ申しては氣の毒でござ  
います  
階梯をお降下さい○階梯を  
お上がり下さい  
落ちないように氣をお付けなさ  
い  
  
氣をお付け下さい  
何な新聞(記事)が有りますか  
其新聞は何な事です

ユー マスト エキスチース ミー  
**You must excuse me.**  
ユー オールウェーズ セー ソー  
**You always say so.**  
セー ゴット  
(又は **say that.**)  
イット イズ ゲットイグ レート  
**It is getting late.**  
ケン ユー ウェート  
**Can you wait?**  
アイ ウル ウェート フォー ユー  
**I will wait for you.**  
ウー ハヴ カムパニー  
**We have company**  
トゥーデー  
**to-day.**  
アイ ウル テル ユー フォー  
**I will tell you when**  
アイ ユム レディー  
**I am ready.**  
アイ エム ソーリー フォー ハヴ  
**I am sorry to have**  
ケプト ユー ウェーティング  
**kept you waiting.**  
ゴー ダウン ステアーズ ゴー  
**Go down stairs; go**  
アップ ステアーズ  
**up stairs.**  
マインド ユー ビー ノット  
**Mind you do not**  
フール  
**fall; 又は take care**  
ユー ビー ノット フール  
**you do not fall.**  
チーキ ケア  
**Take care.**  
フウォット ニース イズ ゼーア  
**What news is there?**  
(又は) フウォット イズ ゴー  
**what is the**



お話し申したい新聞があります

是れが今日の新聞紙です

どれお見せなさい

其は毫も私には関係の無い  
事で迷惑する事はありません

お憤り成さつてはいけません

世間の人言ふ事には頓着し  
ません

お騒ぎなさるな

其は餘り善くない事だ

お氣遣いなさるな。何でも無い  
事です

私がお話し申す通りだ

何らして其がそうだと分ります

ニュース  
news ?

アイ ハヴ サム ニュース トー  
I have some news to  
テル ユー  
tell you.

ヒーア イズ トー デース ニュース  
Here is to-day's news-  
ペーパー  
paper.

レット ミー ミー  
Let me see.

イット イズ オヴ リトル コンセ  
It is of little conse-  
クエンス トー ミー アイ トー  
quence to me; I do

ノット トラブル マイセルフ  
not trouble myself  
エズツト イット  
about it.

ユー マスト ノット フール  
You must not feel  
オフフェンデッド  
offended.

アイ ドント マインド フォツト  
I don't mind what  
ピープル セー  
people say.

ドー ノット ディストルブ  
Do not disturb  
ユーアセルフ  
Yourself.

ゼット イズ トー ツッド  
That is too bad.

ネヴァー マインド イット イズ  
Never mind; it is  
ノー マッター  
no matter.

イット イズ アズ アイ テル ユー  
It is as I tell you.

フツツト ダズ ゼット  
What does that

か

私にはそう想はれます

私が聞か通りだ

其は其様な事ではない

其がお話し申した通りの證據だ  
(前言を覆するもの)

其は耻辱です

其は取るに足らない事です

其は大した事ではない

其は誤解です

あなたは誤解して居るのだ

其は屹も左様ですか

其は間違つた報告(虚報)です

其は全くくだらぬ謔言です

入口をお閉なさい(又は)お開  
なさい

往つて(又は)来て)入口を開けな

プルーヴ フツツト オヴ  
prove ? (又は) what of  
ゼット  
that ?

イット アッピーズ トー ミー  
It appears to me.

アズ アイ エム インフォームド  
As I am informed.

イット イズ ノー サッチ ティング  
It is no such thing.

ゼット イズ エ プルーヴ オヴ  
That is a proof of  
フツツト アイ トールド ユー  
what I told you.

イット イズ エ シェーム  
It is a shame.

イット イズ オヴ ノー コンセ  
It is of no conse-  
クエンス  
quence.

イット イズ ノー グレート マッター  
It is no great matter.

イット イズ エ ミスチーク  
It is a mistake.

ユー アール ミスチークン  
You are mistaken.

アール ユー シーア オヴ イット  
Are you sure of it ?

イット イズ エ フォールス リポート  
It is a false report.

イット イズ オール スタッフ エンド  
It is all stuff and  
ノンセンス  
nonsense.

ゼット (又は) オープン トー  
Shut (又は) open the  
閉 ヨ 開ケ

ドアー  
door.

ゴー (又は) カム エンド  
Go (又は) come and



さい  
 戸を開き(栓をさして)をしなさい  
 どのくらい人が居るか  
 まことに少しばかりの人が居りました  
 馬車は澤山あります  
 誰れか戸を敲きひて居る  
 誰れが来たのだ  
 私共は火に煖まらなければならぬ  
 其火を挑き發して下さい  
 其火を挑き發さない  
 何を捜して居るなさる  
 私共は.....を捜して居るさるです  
 私は其れを少しも知りません

オープン オー ドーア  
**open the door.**  
 ボールト オー ドーア  
**Bolt the door.**  
 フォット エ ナンバー オヴ  
**What a number of**  
 ビーブル  
**people ?**  
 ゼア ヴァー ヴェリー フー  
**There were very few**  
 ビーブル ゼア  
**people there.**  
 ゼア アール エ グレート  
**There are a great**  
 ナンバー オヴ キャリッジス  
**number of carriages.**  
 サム ワン ノックス  
**Some one knocks.**  
 フウー イズ ゼア  
**Who is there ?**  
 ウー マスト ハヴ エ  
**We must have a**  
 ファイア  
**fire.**  
 ウル ユー ストル フォイ  
**Will you stir the**  
 ファイア  
**fire ?**  
 ストル オー ファイア  
**Stir the fire.**  
 フォット アール ユー ルッキング  
**What are you looking**  
 フォー  
**for ?**  
 ウー アール ルッキング  
**We are looking**  
 フォー.....  
**for.....**  
 アイ ノー ナソング エバウト  
**I know nothing about**  
 イット  
**it.**

御入用の物はお見當りに成りましたか  
 首尾よく目的をお達しに成りましたか  
 其をお尋ねなさらなければいけません  
 私共は其をお尋ねなければ成りません  
 私は其をお尋ねます  
 どうも其に付て考へようがありません  
 何をしてよいかわかりません  
 實に御道義理です  
 あなたは其れに關係はない  
 私は其を知りませんでした(其れに氣が付きませんでした)

ハヴ ユー フOUND フォット  
**Have you found what**  
 ユー ウォンテッド  
**you wanted ?**  
 ハヴ ユー サクシーデッド  
**Have you succeeded ?**  
 ユー シュード インクワイア  
**You should inquire**  
 エバウト イット  
**about it.**  
 ウー マスト インクワイア  
**We must inquire**  
 エバウト イット  
**about it.**  
 アイ ウル インクワイア エバウト  
**I will inquire about**  
 イット  
**it.**  
 アイ ビー ノット ノー フォット  
**I do not know what**  
 トー トンキ エバウト イット  
**to think about it.**  
 アイ ビー ノット ノー フォット  
**I do not know what**  
 トー ビー  
**to do.**  
 ユー アール クイト ライト  
**You are quite right.**  
 ユー ハヴ ノー ライト  
**You have no right**  
 トー イット  
**to it.**  
 アイ ドゥット ノット ノー セット  
**I did not know that.**  
 アイ ウォズ ノット エウエア  
 オヴ セット  
**of that.**



パードン **Pardon** 免し  
 ホン パーポーズ **on purpose** 故意  
 ビー ビー レグレット **To be regretted** 悔しい。残念な  
 ノット オー リースト **not the least** 極少ない  
 レザー **Rather** 寧ろ  
 アンノイド **annoyed** 困りつて  
 イン キット レスペクト **In that respect** 其事で。其に付て  
 ノー オクケーション **no occasion** 及ばぬ  
 トー コムプレイン **To complain** 歎く  
 オー ケース **the case** 実際の有様  
 トー トルース **The truth** 眞實  
 トー マッチ トー **too much to .....** には餘り  
 ビリーヴ **Believe** 信ずる  
 トー プット アップ ウズ **to put up with** 堪忍する  
 ペード ノー アッテンション **Paid no attention** 少しも注意しなかつた  
 ホール アイ ケン **All I can** 私ができる丈  
 ダウト **doubt** 疑ふ  
 ハヴ ノー ダウト **Have no doubt** 少しも疑はない  
 エット ユーア サービス **At your service** 勝手にお使ひなさい。御盡力致しませう  
 アヴェール **Avail** 利用する  
 ポーライト オフファー **polite offer** 親切な申出  
 エット レーゼーア **At leisure** 閑暇で  
 ゴット アップ **got up** 起きた  
 アーリー モス モーニング **Early this morning** 今朝早く  
 スリーピー **sleepy** 催眠  
 スリープ ツェル **Sleep well** 熟眠する  
 ラスト ナイト **last night** 昨夜  
 トー ノイズ イン オー ストリート **The noise in the street** 往來の物音  
 プレヴェンテッド **prevented** 妨げた  
 スリーピング **Sleeping** 眠る事  
 アスリープ **asleep** 眠り入つて  
 フー デース エゴー **Few days ago** 数日前  
 イン ヒズ パワー **in his power** 彼の力量で  
 ホール アイ ケン エクスペクト **All I can expect** 私が望める丈  
 エルダー ブラザー **elder brother** 兄  
 ハヴ アーライヴド **Have arrived** 到着した  
 インヴァイテッド **invited** 招いた  
 ウー **Were** あつた。あつたなら  
 イン ユーア プレース **in your place** あなたに代つて

ビー ベッター **Be better** 尙ほよい  
 ベスト **best** 極よい  
 アンサーズ **Answers** 事足る  
 オール パーポーズ **all purposes** 萬事に  
 ユーズフル マング **Useful thing** 用に立つ物  
 サースター **thirsty** 喉が渴いて  
 イン アーネスト **In earnest** 誠心で  
 オート トー トー **ought to do** 爲なければ成ぬ  
 ペインズ **Pains** 苦心  
 ウェル ダン **well done** 巧くできた  
 グード ジャッジ **Good judge** 良判断者  
 グレート アーティスト **great artist** 勝れた技藝家  
 デペンデント アボン **Depend upon** 依頼する  
 ハヴ ビーエン トールド **have been told** さ云ふ事だ  
 セント フォーア ミー **Sent for me** 私を呼びにお遣はしなかつた  
 フォーア リーズンズ **For reasons** 譯で  
 オンリー **only** 他になき  
 ロッヂャース **Lodgers** 寄宿人  
 ジェネラリー **generally** 一般に  
 バット スリー **But three** たつた三度の  
 ミールズ **meals** 食事  
 エ デー **A day** 一日に  
 イングランド **England** 英國  
 アンダースタンデッド **Understand** 了解する  
 ロース **laws** 法律  
 トー カントリー **The country** 此國。當國  
 スモーク **smoke** 煙らす。喫煙する  
 トー ヴェリー ソート **The very thought** 其を思ふと  
 メー キス シツダー **makes shudder** 戦す  
 「慄かせる」  
 ラーザング エット **Laughing at** を笑て居る  
 スワム **swim** 泳ぐ  
 テーロル **Tailor** 仕立屋  
 オクケーション **occasion** 機會

御免下さい

アイ アスク **I ask** (又は beg) your  
 ベグ ユーア  
 パードン  
**pardon.**

お氣の毒さま

アイ エム **I am** sorry.  
 ソアリー

私は其を故と爲した譯ではござ

アイ テッド ノット トー イット ホン  
**I did not do it on**



いません  
 其は残念でございます○悔しい  
 事を致しました  
 世間に無い事でもありません  
 (稀有な事でもない)  
 私は寧ろ其れで困つて居ます  
  
 其は勿論の事です  
  
 今更其をお歎きなされても及ば  
 め事です  
 其は實際其通りです  
 其はほんとうです  
 其は餘り云へば信用されない  
 事です (又は堪忍のできない事  
 です)  
 私は少しも其には氣を附けませ  
 んでした  
 私ができる丈致しませう  
 私は其を疑ひません (少しも疑  
 ひません)

パーポーズ  
**purpose.**  
 イット イズ レー ビー レグレット  
**It is to be regret-**  
 テット  
**ted.**  
 ノット オー リースト イン オー  
**Not the least in the**  
 ヴォアールド  
**world.**  
 アイ エム レーザー アンノイド  
**I am rather annoyed**  
 イン ゼット レスペクト  
**in that respect.**  
 ゼット イズ エ マッター オヴ  
**That is a matter of**  
 コールス  
**course.**  
 ユー ハヴ ノー オクケーシヨ  
**You have no occasion**  
 トー コムプレーソ  
**to complain it.**  
 ゼット イズ オー ケース  
**That is the case.**  
 ゼット イズ オー トルース  
**That is the truth.**  
 ゼット イズ トー マッチ トー  
**That is too much to**  
 ビリーヴ  
**believe (又は to put up**  
 ウヂ  
**with.)**  
 アイ ペード ノー アツテンシヨ  
**I paid no attention**  
 トー イット  
**to it.**  
 アイ ヴル エー ホールアイ ケン  
**I will do all I can.**  
 アイ エー ノット ダウト イット  
**I do not doubt it.**  
 アイ ハヴ ノー ダウト  
**(又は I have no doubt**

私を御勝手にお使ひ下さい(御  
 盡力致しませう)  
 御親切なお言葉に従ひまして用  
 を達して戴きませう  
 私は明日閑暇で居ります  
  
 私は今朝蚤々く起きました  
  
 お催し眠うございますか  
 私は昨夜熟眠りませんでした  
  
 外々の往來の騒がしひのが私の  
 眠りを妨げました  
  
 私は大そう眠たいござい升  
 彼三人は眠つて居ます○彼人た  
 ちは眠つて居ます  
 私は此三日間彼三人に逢ひませ  
 ん  
 其は久しい前の事ですか

エバウト イット  
**about it.)**  
 アイ エム エット ユーア サービス  
**I am at your service.**  
 アイ ヴル アヴール マイセルフ  
**I will avail myself**  
 オヴ ユーア ポーライト オフファー  
**of your polite offer.**  
 アイ シル ビー エット レーゼア  
**I shall be at leisure**  
 トー モーロ  
**to-morrow.**  
 アイ ゴット アット アーリー モス  
**I got up early this**  
 モーニング  
**morning.**  
 ヴール ユー スリーピー  
**Are you sleepy?**  
 アイ ゼッド ノット スリープ ヴェル  
**I did not sleep well**  
 ラスト ナイト  
**last night.**  
 オー ノイズ イン オー  
**The noise in the**  
 ストリート プレゼンテット ミー  
**street prevented me**  
 スリーピング  
**sleeping.**  
 アイ エム ヴェリー スリーピー  
**I am very sleepy.**  
 ヒー イズ アスリープ ゼー  
**He is asleep; they**  
 アール アスリープ  
**(複数) are asleep.**  
 アイ ハヴ ノット シーン ヒム  
**I have not seen him**  
 オース スリー デース  
**these three days.**  
 イズ イット エ ロング タイム  
**is it a long time**



僅か数日前の事です

彼三人はできる丈を致します

其れより外に望みは有りません

何時お兄さんをお待ち合せ  
さいますか

あなたのお友達はお着に成りま  
したか

彼三人たちは私に來て逢ふよう  
にさ招きました

私は閑暇で居ます

私があなたに代つたら (あなた  
であつたなら)

其は尙ほ好からう○其は極好い

何故ですか○何故.....しませ  
んか

since ?

A few days ago.

He does all in his power.

That is all I can expect.

When do you expect your elder brother ?

Have your friends arrived ?

They invited me to go and see them.

I am at leisure. (又は) I have the time.

Were I in your place. (又は) if I were in your place.

That will be better; that is best.

Why ? Why not ?

金さへあれば何でも事足ります

其は何でもない事だ

私は何も有りません

私は其に付て少しも知りません

私は其事は申しませんでした

私は何も申しませんでした

其は何様な役に立ちますか

大ろう役に立つ物です

其は何處に置いたら宜ふござい  
ませう

私は大そう渴きます

お渴きなさるか

あなたは本氣ですか

私はあなたの事を本さうだと思

ひます○本さうま左様だと思

ひます○私は信用しません

あなたは左様爲さなければ成

Money answers all purposes.

That is nothing.

I have nothing.

I know nothing about it.

I did not say that.

I said nothing.

What is the use of that ?

It is a very useful thing.

Where shall I put it ?

I am very thirsty.

Are you thirsty ?

Are you in earnest ?

I believe you ; I believe so ; I believe

not.

You ought to do so.



りません  
 何んぞマアお骨折りでございま  
 すれエ  
 あれは大そう巧くできました  
 私は裁判が上手ではありませ  
 ん  
 彼人は技藝の達人です  
 其は當てに爲さつても宜しい  
 あなたが私を呼びにお遣はしに  
 成つたこと云ふ事を聞きました  
 私が萬々承知して居る理由で  
 寄宿りの客は私共ばかりだ  
 日本ではみな一日に三度ほか食  
 事は致しません  
 英國ではみな一日に四度食事致  
 します

フウツト ベーンス ユー テーキ  
**What pains you take!**

イット イズ ヴェリー ウェル  
**It is very well**  
 ダン  
**done.**

アイ エム ノット エ グード  
**I am not a good**  
 ジッジ  
**judge.**

ヒー イズ エ グレート アーティスト  
**He is a great artist.**

ユー メー デペンデ  
**You may depend**  
 アポン イット  
**upon it.**

アイ ハヴ ビーン トールド  
**I have been told**  
 ゼット ユー セント ズーア ミー  
**that you sent for me.**

ズーア リーゾンス ベスト  
**For reasons best**  
 ノーン トー マイセルフ  
**known to myself.**

ウー アール オーナリー ロジャース  
**We are only lodgers.**

イン ジャパン ウー ジェネラ  
**In Japan we general-**  
 リー ハヴ バット スリー  
**ly have but three**

ミールス エ デー  
**meals a day.**

イン イングランド ゼー  
**In England they**

ジェネラリー ハヴ ズーア  
**generally have four**

ミールス エ デー  
**meals a day.**

私には當國の法律は解りませ  
 ん

烟草を召上りますか

其を思へば忌んで總身が震へま  
 す

何を笑つてお居です

あなたは泳ぎますか

あなたの仕立屋は何處に住で居  
 ますか

物事の成行くまゝに○世の成り  
 行く通りに

自然幸便の有るに任せて

アイ ドー ノット アンダースタン  
**I do not understand**  
 ザー ローズ オヴ ザー  
**the laws of the**  
 カントリー  
**country.**

エ ユー スモーク  
**Do you smoke?**

ザー ヴェリー ソート  
**The very thought**  
 メーキズ ミー ショルダー  
**makes me shudder.**

フウツト アール ユー ラー  
**What are you laugh-**  
 ング エット  
**ing at?**

ケン ユー スワム  
**Can you swim?**

フヂェア ダス ユーア  
**Where does your**  
 テーローリ  
**tailor live?**

アズシングス ゴー アズ  
**As things go; as**  
 ザー ウォールド ゴース  
**the world goes.**

アズ オクケーション ショ  
**As occasion shall**  
 サーヴ  
**serve.**

國語の話 Language.

ヂーマン German	獨逸人。獨逸語	ミー mean	意味す
インタープレター Interpreter	通辯	ボーン born	生れた
イングリシ English	英語	エリッヒル a little	少こし



ベッター サン	よりも能く	プーア アフゾーア poor affair	下へ手々
ノット ウォルズ マッチ	上手でない	リピート repeat	繰返す
ーニング Learning	學んで	カレージ courage	勇氣。奮發
アシェムド Ashamed	羞かしかつて	アフレード afraid	憚りかつて
アズ ヴェル アズ As well as	の様に	フォーチュネート fortunate	幸はせなる
イニシエート Initiate	導びく	イツ ネチュラル its natural	其國自然の
マンナーズ エンド カストムズ Manners and customs	風俗習慣	バッドリー badly	拙かに
ビギン Begin	始る	プリッティ ウェル pretty well	可なり上手に
ハウ How	どうして	ズル fail	間違へる
フヴェン When	ときは。ときで	イズ スポークン is spoken	話さるゝ(語を使ふ)
パート オヴ イット Part of it	其一部分	ハウ ロング how long	何程長く(何年)
エ リットル ロンガー A little longer	もう少し長く	オンリー only	ばかり
エ ショート タイム A short time	暫しの間	グッド ティチャー good teacher	良い教師
フリューエントリー Fluently	すらすらと	スロウリー thoroughly	残らず。全く
フレンチ French	佛蘭西語	エヴリー ウォード every word	何語も
フウォット ミーンズ What.....means	何を云ふ意味か	プロ ナウンズ pronounce	發音する
ミーニング Meaning	意味	イズ コールド is called	名けらるゝ
シード ラーン Should learn	學ばれば成ぬ	ラーナー learner	就學者・書生
マッチ ライキ Much like	大そう好きだ	ヴェリー グード very good	大そう好い
マイ ベスト My best	私にできる丈	アクセント accent	音節
コントレリー Contrary	反り對	アストニッシュド astonished	驚て。呆れて

サープライズ Surprise	不意に驚く	ディフィカルト difficult	六ヶ敷き
タスク Task	骨折仕事	エナザー ラングエージ another language	もひこつの國語
ラスト イヤー Last year	昨年	プラクティス practice	實踐
ベスト マスター Best master	最上の教師	オー モーア the more.....the	
スロリー Slowly	徐ろかに	モーア more.....する程ますます	
アイ ベグ I beg	何卒	ソー フースト so fast	其様に速く

あなたは獨逸のお方ですか  
左様です  
エ何ぞ仰りしやいます  
どう云ふ事を仰しやるのですか  
私には一語も解りません  
  
通辯を用いて仰りしやつて下さい  
  
私は東京で産られた者でございます  
ます。  
あなたは獨逸國でお産られなさいましたか  
ハイ私は柏林で産れました

アーレ ユー エ  
Are you a German?  
イス アイ エム  
Yes I am.  
フウォット エー ユー セー  
What do you say?  
フウォット エー ユー ミーン  
What do you mean?  
アイ エー ノット アンダースタン  
I do not understand  
エ ウォード  
a word.  
ウーレ ユー ハヴ エン  
Will you have an  
インタープレター  
interpreter?  
アイ ウォズ ボーン イン トーキョー  
I was born in Tokyo.  
  
ウアー ユー ボーン イン  
Were you born in  
ジャーメニー  
Germany?  
イス アイ ウォズ ボーン イン  
Yes, I was born in  
ベルリン  
Berlin.



私の妹は維也納で産れました。

あなたは英語が(又は獨逸語が)使へますか。

少々は使へます。

私は獨逸語を使ふよりも聞き取る方を能く致します。

私の獨逸語は誠に拙い業でございませぬ。(上手でございませぬ)

仰せしやる事を解ります。

ごりぞ繰返して仰しやつて下さい。

私は獨逸語を學んで居ます。

あなたは奮發して其語を使へない。

私は羞かしくて其語を使へません。

お怖かりなさるな。

マイ ヤング シスター ヴィエナ  
My young sister was born in Vienna.

ケン ユー スピーキ イング  
Can you speak English (又は German) ?

アイ スピーキ イット エ リトル  
I speak it a little.

アイ アンダースタンド  
I understand German better than I can speak it.

マイ ジーマン イズ エ  
My German is a poor affair. (not worth much.)

アイ アンダースタンド ユー  
I understand you.

ウィル ユー ソ グッド  
Will you so good as to repeat ?

アイ エム ラー ニング  
I am learning German.

ユー ハヴ ノット ザ  
You have not the courage to speak.

アイ エム アッシュェムド  
I am ashamed to speak.

ドゥ ノット ビー エーフレッド  
Do not be afraid.

私が日本語を書く様にあなたの  
お使いなさる獨逸語を書いて見  
たいと思ひますが必ずそご旨々  
くは行きますまい。

或る外國の語を習ふほどあなた  
を其國に具はつた風俗習慣に導  
き易いものはありません。

あなたは獨逸語をお學びなさ  
るか。

何して獨逸語をお學びなさい  
ましたか。

あなたの語は拙いであらませ  
ん。

あなたは其語を上手に使ふやう  
に成ります。

私は旨々く其語を讀むとを知て  
居ます。

アイ マッチ ヴィシ ルー ライト  
I much wish to write

ユーア ジーマン アズ ヴェル  
your German as well as my Japanese, but

アイ シル ネヴァー ビー ソ  
I shall never be so fortunate, I am sure.

オーア イズ ナニグ ライキ  
There is nothing like the language of a

カンツリー ト イニシエート  
country to initiate you into its natural

マンナース エンド カスト  
manners and customs.

ドゥ ユー ラーン ジーマン  
Do you learn German ?

ハウ デッド ユー ラーン  
How did you learn German ?

ユー ドゥ ノット スピーキ  
You do not speak badly.

ユー ビギン ルー スピーキ  
You begin to speak pretty well.

アイ ノー ハヴ ルー リード  
I know how to read it pretty well.



私は獨逸語はほんの少しばかり解るのでから其語を使ふときは間違へる事が多ふございます

あなたが私に其語でお話なさるとき大そうよく解ります

あなたがお友達とお話なさるとき私には解りません

何程の年月間獨逸語をお學びなさいました

あなたはもう少し長く此の獨逸の人達と一緒に居なければいけません

私はほんの少し時々の間此處に居ませう

良い獨逸語の教師を御存知ですか

フヴェン アイ ズール モスト イズ  
**When I fail most is**  
フヴェン 日-マン イズ  
**when German is**  
スポークン ビコーズ アイ  
**spoken, because I**  
オンリー アンダースタンド パート  
**only understand part**  
オヴ イット  
**of it.**

フヴェン ユー スピーキ トー  
**When you speak to**  
ミー アイ アンダースタンド ユー  
**me I understand you**  
ヴェリー ヴェル  
**very well.**

フヴェン ユー トーク ウズ  
**When you talk with**  
ユーア フレンツ アイ ケン  
**your friends, I can**  
ノット アンダースタンド ユー  
**not understand you.**

ハウ ロング ハヴ ユー  
**How long have you**  
ビーン ラーニング 日-  
**been learning Ger-**  
マン  
**man ?**

ユー ショウド ステイ  
**You should stay**  
エマング オー 日-マンズ  
**among the Germans**  
エ リッヒル ロンガー  
**a little longer.**

アイ シル オンリー ビー ヒーア  
**I shall only be here**  
エ ショート タイム  
**a short time.**

デー ユー ノー エ グード  
**Do you know a good**  
ティーチー オヴ 日-マン  
**teacher of German ?**

あの人はすらすらと英語を使いますか

あの人は充分に其語が解ります

あの人は充分に獨逸語を知て居ます (が解ります)

佛蘭西語は能くお解りですか

私が讀む語は何も解ります

此詞は何れいふ意味だか御存知ですか

私の語がお解りに成りますか

私の言ふ事がお解りに成りますか

あのお方の語がお解りに成りますか

あなたは此詞を何れお響かせな

ダズ ヒー スピーキ イング  
**Does he speak Eng-**  
リッシュ フリーエントリー  
**lish fluently ?**

ヒー トー ローリー アンダー  
**He thoroughly under-**  
スタンド オー ラングエージ  
**stand the language.**

ヒー ノース アンダー  
**He knows (又は under-**  
スタンツ 日-マン トー  
**stands) German tho-**  
ローリー  
**roughly.**

デー ユー アンダースタンド  
**Do you understand**  
フレンチ ヴェル  
**French well ?**

アイ アンダースタンド エヴリー  
**I understand every**  
ワード アイ リード  
**word I read.**

デー ユー ノー フォウツト  
**Do you know what**  
オズ ワールド ミーンズ  
**this word means ?**

デー ユー アンダースタンド  
**Do you understand**  
ミー  
**me ?**

デー ユー アンダースタンド  
**Do you understand**  
フオウツト アイ セー  
**what I say ?**

デー ユー アンダースタンド  
**Do you understand**  
ゼット マン (又は that  
レーディー  
**lady [女] ) ?**

ハウデー ユー プロナ  
**How do you pronou-**



さいますか

此詞の意味を御存知ですか

獨逸語では其を何と稱へますか

其は何を云ふ意味のお積りです

あなたには英語が読めますか

あなたには英語は使へますか

あなたには英語は解りますか

あなたは英語をお學びなさらなければいけません

私はまだほんの書生です

何年の年月間英語をお學びなさいました

あなたは英語が大そうお上手だ

ウンス オス ヴォルド  
once this word ?

ドゥー ユー ノー オー  
Do you know the  
ミーニング オヴ オス  
meaning of this  
ヴォルド  
word ?

フウォット イズ イット コールド  
What is it called  
イン ドイツマン  
in German ?

フウォット ドー ユー ミーン  
What do you mean  
バイゼット  
by that ?

ケン ユー リード イング  
Can you read Eng-  
リッシュ  
lish ?

ケン ユー スピーキ イング  
Can you speak Eng-  
リッシュ  
lish ?

ドゥー ユー アンダーstand  
Do you understand  
イングリッシュ  
English ?

ユー ショウド ラーン  
You should learn  
イングリッシュ  
English.

アイ エム オンリー エ ラー ナー  
I am only a learner.  
ハウ ロング ハヴ ユー  
How long have you  
ビーン ラー ニング イング  
been learning Eng-  
リッシュ  
lish ?

ユー スピーキ ヴェリー グード  
You speak very good

是れが私のできる丈です

私は音節の言ひ方が餘程拙です

全く反對に違つて居る

私は其れで呆れて仕舞いばしません

私は其様な事では吃驚さも致しません

他國の語を學ぶのは仲々困難な仕事です

あなたの語は昨年よりも善くできてきました

學ぼうよりも慣れるです(實踐は最良の教師なり)

私が知る事の多くなるほど益すます學びたく爲ります

あなたが其語を使ふほどますま

イングリッシュ  
English.

アイ ドゥー マイ ベスト  
I do my best.

マイ アクセント イズ ヴェリー  
My accent is very  
ラット  
bad.

クワイ トー コントレリー  
Quite the contrary.

アイ エム ノット アストニッシュト  
I am not astonished  
エットゼット  
at that.

ゼットダズ ノット キープ  
That does not surp-  
ライズ ミー  
rise me.

イット イズ エ ディフィカルト タスク  
It is a difficult task  
トゥー ラーン エナザーラン  
to learn another lan-  
グエージ  
guage.

ユー スピーキ ベッター ナウ  
You speak better now  
ザン ユー ゼット ラスト  
than you did last  
イーア  
year.

プラクティス イズ モー ベスト  
Practice is the best  
マスター  
master.

オー モーア アイ ノー  
The more I know  
オー モーア アイ ヴィッシュ ト  
the more I wish to  
ラーン  
learn.

オー モーア ユー スピーキ  
The more you speak



す深く覚へます	ザー モーア ユー ウィル <b>the more you will learn.</b>
どうぞ徐々にお話し下さい	スピーキ スローリー アイ ベグ <b>Speak slowly, I beg.</b>
萬望其様に速く言はないで下さい	ドット スピーキ ソー フースト アイ ベグ <b>Do not speak so fast, I beg.</b>

挨拶及び他日の養生を訪ねる辭

セリテーションズ エンド インクワイリング アフトル リンズ ヘルズ  
**Salutations and inquiring after one's health.**

ハウ <b>How</b>	如何が	アイ ホープ <b>I hope</b>	萬望
ウェル <b>Well</b>	達者で	サンキ ゴッド <b>thank God</b>	仕合せよ
パーフェクトリー <b>Perfectly</b>	十分に	デライテッド <b>delighted</b>	嬉しい
ルック <b>Look</b>	見ゆる	プーアリー <b>poorly</b>	不快に
イル <b>Ill</b>	不快なる	エニシング <b>anything</b>	何か
ヘルズ <b>Health</b>	健康	ミッドリング <b>middling</b>	申くらい。可なり
エット オール <b>At all</b>	些々も	コールド <b>cold</b>	感冒
ハヴ ハッド エ コールド <b>Have had a cold</b>	風を引た	サム デーズ <b>some days</b>	數日
ジェントリー <b>Gently</b>	そつとして。大切に	ソーア スロート <b>sore throat</b>	腫れた喉
チース エーキ <b>Tooth-ache</b>	齒痛	サフザランス <b>sufferance</b>	難澁
ヘッド <b>Head</b>	頭	バッドリー <b>badly</b>	劇しく
エーキズ <b>Aches</b>	疼む	サフサー <b>suffer</b>	難澁する

ヘッド エーキ <b>Head-ache</b>	頭痛	サブジェクト <b>subject</b>	罹り易い
プリーズ <b>Please</b>	どうぞ	コンサルテッド <b>consulted</b>	診貰ふ
ドクトル <b>Doctor</b>	醫師	ファミリー <b>family</b>	家族
エ リッパル ベッター <b>A little better</b>	少しよい	リカヴァリング <b>recovering</b>	快復して
イルネス <b>Illness</b>	病氣	パーフェクト ヘルズ <b>perfect health</b>	十分な健康
アズ ユーザル <b>As usual</b>	常の通り		

今日は

グード デー サー  
**Good day, sir.** (又は  
マダム アナタ  
**Madam)**  
(女に用る敬稱)

お早う

グード モーニング サー  
**Good morning, sir.**  
(以下女性なれば全上) (此語は  
朝別るゝ時の「左様なら」にも  
用ふ)

今日は

グード ノーン サー  
**Good noon, sir.** (正午  
に會い又別るゝ時)

全上

グード アフトルヌーン サー  
**Good afternoon, sir.**  
(午後用ふ)

今晚は

グード イーヴニング サー  
**Good evening, sir.** (午  
後日没迄の間に會い又別るゝ時  
に用ふ)



今宵は

グ-ド ナイト サ-  
Good night, sir. (夜中

に會ふとき又別るゝ時の「おや  
すみなさい」にも用ふ)

左様なら

グ-ド バイ サ-  
Good bye, sir. (是は別

るゝ時のみに用ふ)

お早うございます

アイ ウ-ズ ユ- エ グ-ド  
I wish you a good  
モーニング アイ ハヴ  
morning. (又は) I have  
オノ-ア ホ- ウ-ズ  
the honour to wish  
ユ- エ グ-ド モーニング  
you a good morning.

(共に叮嚀なる辭)

御機嫌よう

ハヴ ビ- ユ- ビ-  
How do you do? (又

は) How are you?

(叮嚀に用ふるには前例の如く  
後に sir (男) Madam (女)  
を附す)

今朝は御機嫌ようございますか

ハヴ ビ- ユ- ビ-  
How do you do, (又は)

ハヴ ア-ル ユ- オ-ス  
How are you, this  
モーニング  
morning?

今日は御機嫌ようございますか

ハヴ ビ- ユ- ビ-  
How do you do, (又は)

ハヴ ア-ル ユ- ト-デー  
How are you, to-day?

御丈夫ですか

アイ ホ-プ ユ- ア-ル ヴ-ル  
I hope you are well.

お達者ですか

アイ ホ-プ ユ- ア-ル イン  
I hope you are in  
グ-ド ヘ-ル ス  
good health.

有り難う常の通りです

サンキ ユ- アイ エム アズ  
Thank you, I am as  
ユ-シ-ア-ル  
usual.

幸はせに大そう達者でござい  
ます

アイ エム ヴ-リ- ヴ-ン サンキ  
I am very well, thank  
ゴ-ド  
God.

私は十分に(全く)達者でござい  
ます

アイ エム パ-フ-ク-ト-リ- ヴ-ル  
I am perfectly well.

お目に掛つて嬉しうございま  
す

アイ エム グラッド (又は) デライチ  
I am glad (又は) delight-  
ト-ル-ズ- ユ-  
ed) to see you.

私は誠に達者でございますが。

アイ エム クワイト ヴ-ル エン  
I am quite well, and  
ユ-  
you?

あなたはいかゞでございますか

サンキス アイ エム ノット アズ  
Thanks, I am not as  
ユ-シ-ア-ル  
usual.

有り難う。どうも常の様でござ  
いません

今日はお顔色が悪いようだ

ユ- ルック プ-ア-リ- ト-  
You look poorly, to-  
デー  
day.

私は誠に宜しくございません

アイ エム ノット ヴ-リ- ヴ-ル  
I am not very well.

誠に気分が悪いございます

アイ フ-ル ヴ-リ- イル  
I feel very ill.

其れはどうもお氣の毒です

アイ エム ヴ-リ- ソ-リー ト-  
I am very sorry to  
ヒ-ア- イット  
hear it.

私は少しも宜しくございません

アイ エム ノット エット オ-ル ヴ-ル  
I am not at all well.



何か爲さいましたか

イズ エニヤンツ ヲー マツ  
Is anything the mat-  
ター  
ter ?

何になさつたのでございます

フツォツフ イズ ヲー マツター  
What is the matter  
ウヅ ユー  
with you ?

私は風を引きました

アイ ハヴ エ コールド  
I have a cold. (又は)  
アイ ハヴ ゴット エ コールド  
I have got a cold.

私は数日の間風を引て居ます

アイ ハヴ ハット エ コールド  
I have had a cold  
ゾーア サム デース  
for some days.

それはそれはマアうつと大切に  
して入らつしやい

ソー ソー ジェントリー  
So, so ; gently.

私は喉が腫れて居ます

アイ ハヴ エ ソーア スロート  
I have a sore throat.

私は齒が痛みます

アイ ハヴ オー トース エーキ  
I have the tooth-ache.

誠に難澁致して居ます

アイ サニゾー ヴェリィ マッチ  
I suffer very much.

頭が大そう痛うございます

マイ ヘッド エーキス ヴェリー  
My head aches very  
バッドリー  
badly.

私は輒さすれば頭痛に罹り

アイ エム サブジェクト トー  
I am subject to the  
ヘッドーキ  
head-ache.

易まうございます

ハヴ ロング ハヴ ユー  
How long have you  
ビーン イル  
been ill. ?

何時からお悪うございま  
した

プリーズ テーキ グード オヴ  
Please take good of  
ユーアセルフ  
yourself.

萬望お大事になさいませ

醫者に診てお貰ひなさいまし  
たか

ハヴ ユー コンサルテッド  
Have you consulted  
エニヤン ドクトル  
any doctor ?

ハイ。さうして醫者の格別の事  
はあるまいと申しました

イェス エンド オー ドクトル  
Yes, and the doctor  
セース マット イット ウィル ノット  
says that it will not  
ビー オヴ エニヤン コンセ  
be of any conse-  
クエンス  
quence.

御家族様は如何でございますか  
父が四五日前から不快で居まし  
たが今日の午後は少しよくなりました

ハヴ イズ ユーア ファミリー  
How is your family ?  
マイ ファザー ウォズ インデス  
My father was indis-  
ポーズト エ フー デース  
posed a few days  
シンス ; バット ヒー イズ エ  
since ; but he is a  
リットル ベター オス アフトル  
little better this after-  
ヌーン  
noon.

お母さまは如何でございます

ハヴ ドoes ユーア  
How does your  
マザー ドー  
mother do ?

母は病氣が全快いたしました

シー イズ リカヴァリンツ  
She is recovering  
フロム エン イルネス  
from an illness.

十分達者に爲つてから別れて参  
りました

アイ レフト ホル イン パーフェクト  
I left her in perfect  
ヘルス  
health.

天 氣 Weather.

フツォツ ソート  
What sort

何んな

フツォツ  
what

何んぞ